

兵 法 規 則 (2)

第二章 徵兵官……………二二三

第三章 配 賦……………二二五

第四章 徵 募……………二二六

第五章 裁 決……………二二九

第六章 現役兵及補充兵……………三三〇

第七章 雜 則……………三三四

附 則……………三三八

徵兵事務條例施行細則……………三三九

徵兵旅費規則……………六六五

陸軍一年志願兵條例……………六六八

陸軍一年志願兵條例施行細則……………七七二

徵兵檢查規則……………六六一

陸軍士官候補生諸生徒其他陸軍志願兵身體檢查規則……………八二二

陸軍身體檢查手續……………八四四

第一章 通 則……………八四四

兵 法 規 則 (3)

第二章 徵兵及ヒ志願兵檢查……………九二二

第三章 士官候補生諸生徒其他陸軍志願者檢查……………九四四

陸軍六週間現役兵條例……………一〇〇

陸軍六週間現役兵條例施行細則……………一〇二

陸軍豫備役後備役准士官下士ニシテ文官又ハ雇員タル者志願ニ依リ再ヒ軍務ニ従事セシムル場合採用ノ件……………一〇七

陸軍服役條例……………一〇七

第一章 將校ノ服役……………一一七

第一款 現役……………一一八

第二款 豫備役及後備役……………一二四

第二章 准士官ノ服役……………一三〇

第三章 下士服役……………一三二

第一款 通 則……………一三二

第二款 現 役……………一三三

第三款 豫備役及後備役……………一三七

第四章 兵卒ノ服役……………一四四

兵 規 則 目 次 (4)

| | |
|---------------|-----|
| 第一款 通 則 | 一四四 |
| 第二款 現 役 | 一四四 |
| 第三款 豫備役及後備役 | 一五二 |
| 第五章 補充兵ノ服役 | 一五八 |
| 第六章 雜 則 | 一六二 |
| 附 則 | 一六四 |
| 陸軍兵籍規則 | 一八七 |
| 海軍志願兵條例 | 九五 |
| 海軍出身志願者身體檢查條例 | 九七 |
| 海軍豫備員條例 | 一〇八 |
| 海軍豫備員條例施行細則 | 一一四 |
| 海軍下士卒服役條例 | 一六九 |
| 第一章 總 則 | 一六九 |
| 第二章 現 役 | 一七三 |
| 第三章 豫備役及後備役 | 一七六 |

兵 規 則 目 次 (5)

| | |
|---------------|-----|
| 附 則 | 一七九 |
| 憲兵條例 | 一七九 |
| 第一章 總 則 | 一七九 |
| 第二章 配置職員 | 一八〇 |
| 第三章 職 務 | 一八二 |
| 附 則 | 一八二 |
| 憲兵服務規程 | 一八三 |
| 憲兵職掌中行政警察事務規程 | 一八六 |

目 次 終

兵 事

◎ 徵兵ノ詔

(明治五年十一月二十八日)

朕惟ルニ古昔郡縣ノ制全國ノ兵壯ヲ募リ軍國ヲ設ケ以テ國家ヲ保護ス固ヨリ兵農ノ分ナシ中世以降兵權武門ニ歸シ兵農始テ分レ遂ニ封建ノ治ヲ成ス戊辰ノ一新ハ實ニ千有餘年來ノ一大變革ナリ此際ニ當リ海陸兵制モ亦時ニ從ヒ宜ヲ制セサルヘカラス今本邦古昔ノ制ニ基キ海外各國ノ式ヲ斟酌シ全國募兵ノ法ヲ設ケ國家保護ノ基ヲ立ント欲ス汝百官有司厚ク朕カ意ヲ體シ普ク之ヲ全國ニ告諭セヨ

明治五年壬申十一月二十八日

徵兵告諭

(1) 我朝上古ノ制海内舉テ兵ナラサルハナシ有事ノ日天子之カ元帥トナリ丁壯兵役ニ堪ユル者ヲ募リ以テ不服ヲ征ス役ヲ解キ家ニ歸レハ農タリ工タリ又商賈タリ固ヨリ後世ノ雙刀ヲ帶ヒ武士ト稱シ抗顏坐食シ甚シキニ至テハ人ヲ殺シ官其罪ヲ問ハサル者ノ如キニ非ス抑神武天皇珍彦ヲ以テ葛城ノ國造トナセシヨリ爾來軍國ヲ設ケ衛士防人ノ制ヲ定メ寶龜天平ノ際ニ至リ六府ニ鎮ノ設ケ始テ備ル保元平治以後朝綱頽弛兵權終ニ武門ノ手ニ墜チ國ハ封建ノ勢ヲナシ人ハ兵農ノ別ヲ爲ス降テ後世ニ至リ名分全ク泯沒シ其弊勝テ云フ可

ラス然ルニ大政維新列藩版圖ヲ奉還シ辛未ノ歲ニ及ヒ遠ク郡縣ノ古ニ復ス世襲坐食ノ士ハ其祿ヲ減シ刀劍ヲ脱スルヲ許シ四民漸ク自由ノ權ヲ得セシメントス是レ上下ヲ平均シ人權ヲ齊一ニスル道ニシテ則チ兵農ヲ合一ニスル基ナリ是ニ於テ士ハ從前ノ士ニ非ス民ハ從前ノ民ニアラス均シク皇國一般ノ民ニシテ國ニ報スルノ道モ固ヨリ其別ナカルヘシ凡ソ天地ノ間一事一物トシテ稅アラサルハナシ以テ國用ニ充ツ然ラハ則チ人タルモノ固ヨリ心力ヲ盡シ國ニ報セサルヘカラス西人之ヲ稱シテ血稅ト云フ其生血ヲ以テ國ニ報スルノ謂ナリ且ツ國家ニ災害アレハ人人其災害ノ一分ヲ受ケサルヲ得ス是故ニ人人力ヲ盡シ國家ノ災害ヲ防クハ則チ自己ノ災害ヲ防クノ基タルヲ知ルヘシ苟モ國アレハ則チ兵備アリ兵備アレハ則チ人人其役ニ就カサルヲ得ス是ニ由テ之ヲ觀レハ民ノ法タル固ヨリ天然ノ理ニシテ偶然作意ノ法ニ非ス然リ而シテ其制ノ知キハ古今ヲ斟酌シ時ト宜チ制セサルヘカラス西洋諸國數百年來研究實踐以テ兵制ヲ定ム故チ以テ其法極メテ精密ナリ然レトモ政體地理ノ異ナル悉ク之ヲ用フ可カラズ故ニ今其長スル所ヲ取り古昔ノ軍制ヲ補ヒ海陸二軍ヲ備ヘ全國四民男兒二十歳ニ至ル者ハ盡ク兵籍ニ編入シ以テ緩急ノ用ニ備フヘシ郷長里正厚ク此御趣意ヲ奉シ徵兵令ニ依リ民庶ヲ説諭シ國家保護ノ大本ヲ知ラシムヘキ也

明治五年壬申十一月二十八日

太 政 官

徵兵令緒言

兵ヲ徵スルノ方法ハ國家ノ大典忽ニスヘカラサル者ニシテ又之ヲ實踐ニ行フノ難キ固ヨリ言フチ俟タス其法タル古今其利ヲ異ニシ各國其趣ヲ同フセスト雖モ要スルニ一ニ民兵ニ因ラサル者ナシ所謂民兵ニ二種アリ曰ク壯兵曰ク賦兵是ナリ賦兵ナル者ハ全國ノ壯丁ヲシテ兵服ヲ帶ハシメ陸軍ノ兵員ヲ充タシ其内沿海ノ住民舟楫波濤ニ慣レシ者ヲ以テ海軍ノ兵員ニ充ツ而壯兵ハ自兵役ヲ望ミ出テシ者ニシテ服役數年ヲ帶ヒ普ク武技ニ熟練シ一團精兵トナリ頗其便益ヲ得ル者ナリ然レトモ後日ニ至リ或ハ弊害ヲ生スル無キ能ハス是故ニ壯兵ノ法ヲ廢シ賦兵一般ノ制度ヲ建テント欲ス竊ニ各國賦兵ノ制ヲ考フルニ大率服役八年乃至二十年ヲ以テ程度トス今國朝實ニ始メテ賦兵ノ大典ヲ起サントスルニ方リ兵役ノ久シキ恐ラクハ人民生活ノ業ヲ妨害シ且當今ノ國力ニ於テモ關係無シト謂フヘカラズ是ニ於テ斟酌其宜ヲ採リ折衷其要ヲ拔キ現今實際ニ行フノ法ヲ定メ題シテ徵兵令ト云フ(以下改正ニ付キ除ク)

軍人訓誡ノ勅諭

(明治十五年一月 陸軍省達乙第二號)

陸 軍 全 部

本日別紙之通

勅諭有之候條右寫相添此旨相達候事

(東京鎮臺士官學校戸山學校教導團 一ハ一勅諭本書ハ追テ可相渡候事)

(4) ノ但書ヲ加フ參謀本部監軍本部近衛局
へ通牒尤近衛局へノ但書ノ趣意ヲ加フ

(別紙)

勅諭寫

我國の軍隊は世々天皇の統率し給ふ所にそある昔神武天皇躬つから大伴物部の兵をも率ゐる中國のまつるはぬものをも討ち平け給ひ高御座に即かせられて天下しるしめし給ひしより二千五百有餘年を経ぬ此間世の様の移り換るに隨ひて兵制の沿革も亦屢々なりき古は天皇躬つから軍隊を率ゐ給ふ御制にて時ありては皇后皇太子の代らせ給ふこともありつれど大凡兵權を臣下に委ね給ふことはなかりき中世に至りて文武の制度皆唐國風に倣はせ給ひ六衛府を置き左右馬寮を建て防人なご設けられしかば兵制は整ひたれども打續ける昇平に狃れて朝廷の政務も漸文弱に流れければ兵農おのつから二に分れ古の徵兵はいつまなく壯兵の姿に變り遂に武士となり兵馬の權は一尙に其武士どもの棟梁たる者に歸し世の亂み共に政治の大權

(5)

も亦其手に落ち凡七百年の間武家の政治はなりぬ世の様の移り換りて斯なるは人力もて挽回すへきにあらすまはいひながら且は我國體に戻り且は我祖宗の御制に背き奉り淺間しき次第なりき降りて弘化嘉永の頃より徳川の幕府其政衰へ剩外國の事をも起りて其侮をも受けぬへき勢に迫りければ朕が皇祖仁孝天皇皇考孝明天皇いたく宸襟を惱し給ひしこそ忝くも又惶けれ然るに朕幼くして天津日嗣を受けし初征夷大將軍其政權を返上し大名小名其版籍を奉還し年を経ずして海内一統の世となり古の制度に復しぬ是文武の忠臣良弼ありて朕を輔翼せる功績なり歴世祖宗の尊蒼生を憐み給ひし御遺澤なりさいへとも併我臣民の其心に順逆の理を辨へ大義の重きを知れるか故にこそあれされば此時に於て兵制を更め我國の光を輝さんと思ひ此十五年か程に陸海軍の制をば今の様に建定めぬ夫兵馬の大權は朕が統ふる所なれば其司々をこそ臣下には任すなれ其大綱は朕親之を攬り肯て臣下に委ぬへきものにあらす

子々孫々に至るまで篤く斯旨を傳へ天子は文武の大權を掌握するの義を存して再中
 世以降の如き失體なからんことを望むなり朕は汝等軍人の大元帥なるそされば朕は
 汝等を股肱と頼み汝等は朕を頭首と仰きてそ其親は特に深かるべき朕が國家を保護し
 て上天の惠に應じ祖宗の恩に報いまぬらする事を得るも得ざるも汝等軍人が其職
 を盡すに盡さざるに由るそかし我國の稜威振はさるることあらば汝等能く朕に其愛を
 共にせよ我武維揚りて其榮を輝さは朕汝等と其譽を偕にすへし汝等皆其職
 を守り朕と一心になりて力を國家の保護に盡さば我國の蒼生は永く太平の福
 を受け我國の威烈は大に世界の光華ともなりぬへし朕斯も深く汝等軍人に望む
 なれば猶訓諭すへき事こそあれいてや之を左に逃へむ

一軍人は忠節を盡すを本分とすへし凡生を我國に稟くるもの誰かは國に報ゆるの
 心なかるべき況して軍人たらん者は此心の固からては物の用に立ち得へしとも思は
 れず軍人にして報國の心堅固ならされば如何程技藝に熟し學術に長するも猶

偶人にひさしかるへし其隊伍も整ひ節制も正くとも忠節を存せざる軍隊は事
 に臨みて烏合の衆に同かるへし抑國家を保護し國權を維持するは兵力に在
 れば兵力の消長は是國運の盛衰なることを辨へ世論に惑はす政治に拘らす
 只々一途に己か本分の忠節を守り義は山嶽よりも重く死は鴻毛よりも輕し
 と覺悟せよ其操を破りて不覺を取り汚名を受くるなけれ

一軍人は禮儀を正くすへし凡軍人には元帥より下一卒に至るまで其間に
 官職の階級ありて統屬するのみならず同列同級とても停年に新舊あれば新
 任の者は舊任のものに服従すへきもの下級のものには上官の命を承るること
 實は直に朕が命を承る義なりと心得よ己か隷屬する所にあらずとも上
 級の者は勿論停年の己より舊きものに對しては總へて敬禮を盡すへし又上級
 の者は下級のものに向ひ聊も輕侮驕傲の振舞あるへからず公務の爲に威嚴を去ら
 ずる時は格別なれとも其外は務めて懇に取扱ひ慈愛を專一と心掛け上下一

致して王事に勤勞せよ若軍人たるものにして禮儀を紊り上を敬はず下を惠ますし
て一致の和諧を失ひたらんには當に軍隊の毒毒たるのみかば國家の爲にもゆるし難
き罪人なるへし

一軍人は武勇を尙ふへし夫武勇は我國にては古よりいさも貴へる所なれば我
國の臣民たらんもの武勇なくては叶ふまし況して軍人は戦に臨み敵に當るの職
なれば片時も武勇を忘れてよかるへきかさはあれ武勇には大勇あり小勇ありて同か
らす血氣にはやり粗暴の振舞なさせんは武勇とは謂ひ難し軍人たらむものは常に能く
義理を辨へ能く膽力を練り思慮を擘して事を謀るへし小敵たりとも侮らず大敵
たりとも懼れず己か武職を盡さむこそ誠の大勇にはあれされは武勇を尙ふもの
は常々人に接るには溫和を第一とし諸人の愛敬を得むさ心掛けよ由なき勇を好
みて猛威を振ひたらは果は世人も忌嫌ひて豺狼なごの如く思ひなむ心すへきこそ
にこそ

一軍人は信義を重んずへし凡信義を守るこそ常の道にはあれさわけて軍人は信義な
くては一日も隊伍の中に交りてあらんこと難かるへし信さば己か言を踐行ひ義
さは己か分を盡すをいふなりされは信義を盡さむと思はし始めより其事の成し得へ
きか得へからざるかを審に思考すへし膽氣なる事を假初に諾ひてよしなき關
係を結び後に至りて信義を立てんさすれば進退谷りて身の措き所に苦むこそあ
り悔ゆさも其詮なし始に能々事の順逆を辨へ是非を考へ其言は所詮踐
むへからずと知り其義はさても守るへからずと悟りなは速に止るこそよけれ古
より或は小節の信義を立てんさて大綱の順逆を誤り或は公道の理非に踏
迷ひて私情の信義を守りあたらず英雄豪傑ともか禍に遭ひ身を滅し屍の上の
汚名を後世まで遺せるこそ其例尠からぬものを深く警めてやはあるへき
一軍人は質素を旨とすへし凡質素を旨とせされは文弱に流れ輕薄に趨り驕奢華
靡の風を好み遂には貪汚に陥りて志も無下に賤くなり節操も武勇も其甲斐な

と世人に爪ばしきせらるゝ迄に至りぬへし其身生涯の不幸なりといふも中々愚な
 り此風一たひ軍人の間に起りては彼の傳染病の如く蔓延し士風も兵氣も頓に
 衰へぬへきこと明なり朕深く之を懼れて眞に免黜條例を施行し略此事を誠
 め置きつれさ猶も其惡習の出んことを憂ひて心安かられば故に又之を訓ふるそ
 かし等軍人ゆめ此訓誡を等閑にな思ひそ

右の五ヶ條は軍人たらんもの暫も忽にすへからすさて之を行はんには一の誠心
 こそ大切なれ抑此五ヶ條は我軍人の精神にして一の誠心は又五ヶ條の精神な
 り心誠ならされは如何なる嘉言も善行も皆うはへの裝飾にて何の用にかは立つへき
 心たに誠あれば何事も成るものそかし況してや此五ヶ條は天地の公道人倫の常
 經なり行ひ易く守り易し汝等軍人能く朕が訓に遵ひて此道を守り行ひ國に報
 ゆるの務を盡さば日本國の蒼生擧りて之を悦ひなん朕一人の懼のみならんや

讀法

(明治十五年三月 陸軍省達乙第十六號)

從來相用來候讀法之儀別冊之通改正候條此旨相達候事

但軍屬讀法ハ給仕用使小使其他宣誓ヲ爲ササル者ニ相用候儀ト可相心得事

(別冊)

讀法

兵隊ハ 皇威ヲ發揚シ國家ヲ保護スル爲メニ設ケ置カラルモノナレハ此兵員ニ加ル
 者ハ堅ク左ノ條件ヲ守リ違背スヘカラス

第一條 誠心ヲ本トシ忠節ヲ盡シ不信不忠ノ所爲アルヘカラサル事

第二條 長上ニ敬禮ヲ盡シ等輩ニ信義ヲ致シ粗暴倨傲ノ所爲アルヘカラサル事

第三條 長上ノ命令ハ其事ノ如何ヲ問ハス直チニ之ヲ服從シ抗抵干犯ノ所爲アルヘカラ

サル事

第四條 膽勇ヲ尙トヒ軍務ニ勉勵シ恐怯柔懦ノ所爲アルヘカラサル事

第五條 血氣ノ小勇ニ誇リ爭鬪ヲ好ミ他人ヲ侮慢シ世人ノ厭忌ヲ來ス所爲アルヘカラサ

ル事

第六條 道德ヲ修メ質素ヲ主トシ浮華文弱ニ流ルル等ノ所爲アルヘカラサル事

第七條 名譽ヲ尙トヒ廉耻ヲ重シ賤劣貪汚ノ所爲アルヘカラサル事

以上掲ル所ノ外法律規則ニ違犯シ罪ヲ國家ニ得ルニ至テハ父祖ヲ辱シメ家聲ヲ汚シ醜
ヲ後世ニ遺ス獨リ其身現在ノ耻辱ノミナラサルナリ況ンヤ重罪ノ如キハ各人天賦ノ公
權ヲモ剝奪セラレ世ニ立チ人ニ接ルモ總テ對等ノ權利ヲ得サルニ至ルニ於テチヤ名譽
ヲ尙トヒ廉耻ヲ重ンスルノ軍人ニ在テハ殊ニ戒愼ヲ加ヘサルヘカラス就中陸軍刑法ハ
軍隊ノ害ヲ爲ス者ヲ懲ス爲メニ特ニ設ケラルルモノタルヲ以テ其刑亦頗ル嚴ナリ軍人
ニシテ之ヲ犯セハ當ニ本分ヲ誤リ軍隊ノ安寧ヲ害スルノミナラス遂ニ世人ノ信用ヲ損
シ陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等其責更ニ重シ平素自ラ戒飭シ決シテ違犯スヘカラサルモノ也

●軍人讀法ヲ受ク可キ者ノ誓文

(明治十五年三月
陸軍省達乙第十七號)

軍人讀法ヲ受ク可キ者ノ誓文別紙之通改正候條此旨相達候事

(別紙)

今般御讀聞相成候讀法之條々堅ク相守リ誓テ違背仕間數候事
右宣誓如件

●徵兵令

(明治二十二年一月
法律第一號)

朕徵兵令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徵兵令

第一章 總則

第一條 日本帝國國民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務
アルモノトス

第二條 兵役ヲ分テ常備兵役後備兵役補充兵役及國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス

現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍
ハ四箇年四箇月海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ陸軍ハ十箇年海軍ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 補充兵役ハ陸軍ニ在リテハ十二箇年四箇月海軍ニ在リテハ一箇年ニシテ其ノ年
所要ノ現役兵員ニ超過スル者ノ中所要ノ人員之ニ服ス

第六條 國民兵役ハ分テ第一國民兵役第二國民兵役トス

第一國民兵役ハ陸軍ニ在リテハ後備兵役又ハ召集セラレタル補充兵ニシテ其役ヲ終リ
タル者海軍ニ在リテハ後備兵役ヲ終リタル者之ニ服シ第二國民兵役ハ常備兵役後備兵

(14)

役補充兵役及第一國民兵役ニ在ラサル者之ニ服ス

第七條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ學アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第八條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章 服役

第九條 陸軍現役兵及補充兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵及補充兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス

警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁近衛師團ニ編入ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セシム但在營期限ハ一箇年以内トス

第十條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十一條 抽籤番號ノ順序ニ由リ其年ノ補充兵役要員ニ超過スル者ハ國民兵役ニ服セシム

第十二條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得

第十三條 滿十七歳以上二十八歳以下ニシテ官立學校小學校及選科等ノ別科ヲ除ク府縣立師範學校中

學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨シ豫備後備將校タル冀望ヲ有スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾分ヲ官給スルコトアル可シ

一年志願兵ノ豫備後備役年期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
滿十七歳以上二十八歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス
前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直チニ國民兵役ニ服セシム

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ更ニ二箇年間陸軍現役及常例ノ豫備後備役ニ服セシム但第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限りニ在ラス

第十四條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サス

第十五條 現役中殊ニ勤務ニ熟シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十六條 豫備兵後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十

(15)

日以内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス

第十七條 陸軍補充兵及海軍補充兵ハ現役兵ノ補缺ニ充テ又戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス但陸軍補充兵ヲ以テ現役兵ノ補缺ニ充ツルハ其服務ノ初年ニ限ル

陸軍補充兵ハ平常ニ在テ百五十日以内教育ノ爲メ之ヲ召集ス其他勤務演習及簡閱點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十八條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限リ之ヲ召集ス

第三章 免役延期及猶豫

第十九條 兵役ヲ免スルハ癡疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第二十條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪サル者

第二十一條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス

第二十二條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサルノ確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ

徵集ヲ延期ス其事故三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セス

第二十三條 第十三條第一項ニ掲クル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十八歲迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十八歲迄ニ止ミ又ハ二十八歲ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十三條第三項ニ依リ服役スル者ハ此限ニ在ラス

韓國露國領沿海州、露國領薩哈連、清國、香港、澳門以外ノ外國ニ在ル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ猶豫ス滿三十二歲迄ニ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集シ三十二歲ヲ過クル者ハ國民兵役ニ服セシム但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス

第二十四條 餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長、助役及收入役ハ豫備兵後備兵ニ在ルト陸軍補充兵ニ在ルトヲ問ハス勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ

第四章 雜則

(18)

第二十五條 毎年一月一日ヨリ十一月三十日迄ニ滿二十歳ト爲ル者ハ其年一月中ニ、十二月一日ヨリ同月三十一日迄ニ滿二十歳ト爲ル者ハ翌年一月中ニ又第二十三條第一項ニ當ル者ニシテ二十八歳迄ニ事故止ミ同條第二項ニ當ル者ニシテ三十二歳迄ニ歸朝シタル者ハ十四日以内ニ書面ヲ以テハ其戸主ヨリ 本籍ノ市町村長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ現役ヲ終ヘタルモノ又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス

第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルモノトス

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ事故ナリ身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依

ラスシテ之ヲ徵集ス

第二十九條 服役年期ノ計算ハ現役豫備役補充役及海軍後備役ニ在テハ各其役ニ就ク年ノ十二月一日ノ計算ハ勅令ヲ以テ規定スル月日ヨリ起算ス陸軍後備役ニ在テハ其役ニ就ク年ノ四月一日ヨリ起算ス但第七條ニ依リ延期シタルモノト雖モ服役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ

現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中及逃亡中ノ日數ハ現役年期ニ算入セス其豫備役年期ハ現役ヲ終ル年ヨリ起算シ陸軍ニ在テハ第六年目ノ三月三十一日迄海軍ニ在テハ第五年目ノ十一月三十日迄トス但第十條ニ依リ現役年期ヲ短縮シタル

モノハ其現役ヲ短縮シタル場合ニ於ケル豫備役年期ニ應シ本項ニ準シテ計算ス
豫備役後備役及補充役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算セス

第五章 罰則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲ササル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六章 附則

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年ニ限リ三月一日ヨリ同月十五日迄トス

(19)

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ノ外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ニハ漸チ以テ施行ス其時期區域及特ニ徵集ヲ免除シ若クハ猶豫ス可キモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス
第三十五條 現今陸軍豫備役ニ在ル者ノ服役年期ハ第三條ニ依ル其後備役ニ在ル者ハ常
備役年期ヲ通シテ十二箇年四箇月トス

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ
過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七
箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延
期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ仍ホ在校ノ者ハ該徵
員タルコトヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサル
トキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條及第三十九條ニ掲グル者其事故各其本條ノ
期限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事
故六箇年以内ニ止ミタルトキ又ハ八箇年ヲ過クルモ仍ホ止マラサルトキハ抽籤ノ法ニ
依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員トナリタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間
二十一年ト起算スニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條
ニ依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員
トナリタル者モ亦同シ

第四十四條 明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若ク
ハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依ル海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ
依ル
第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲グル徵集延期ノ者及第三十九條第四
十一條ニ掲グル徵集猶豫ノ者其事故各本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍
ノ市町村長ニ届出可シ

第十三條第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者
ハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ
第一項及ヒ第二項ノ届出ヲ爲サル者及ヒ本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届
出ヲ爲サスシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス可シ
此ノ法律ハ明治二十八年四月一日ヨリ施行ス但現今ノ豫備徵員ハ從前ノ規程ニ依ル
附則 (明治三十七年九月勅令第二一二號)
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際ニ於ケル第一補充兵及第二補充兵ハ前後ノ服役ヲ通算シテ十二箇年四箇
月ニ滿ツル迄補充兵役ニ服セシム
本令施行ノ際第一國民兵役ニアル陸軍出身者ニシテ服役仍五箇年ニ滿タサルモノハ五
箇年ニ滿ツル迄後備兵役ヲ終リタルモノニアリテハ後備兵役ニ第一補充兵役ヲ終リタ
ルモノニアリテハ補充兵役ニ服セシム

附則 (三十九年四月法律第四三號)

本法ハ明治四十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行ノ際現ニ露國領沿海州、露國領薩哈噠、清國、香港又ハ澳門ニアリテ徵集猶豫中ノモノハ從前ノ規定ニ依リ徵集ヲ猶豫ス

徵兵事務條例

(明治二十九年三月 勅令第百十二號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ徵兵事務條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
徵兵事務條例

第一章 徵兵區

- 第一條 徵兵區ハ師管及聯隊區又ハ警備隊區ノ區域ニ從フ
 - 第二條 聯隊區及警備隊區ハ更ニ之ヲ徵募區ニ分ツ
 - 第三條 徵募區ハ一郡一市又ハ一島廳ノ管轄區域ヲ以テ一區ト爲ス但シ北海道ニ在リテハ支廳ノ管轄區域又ハ區、沖繩縣ノ區ニ在リテハ區ヲ以テ一區ト爲シ一市ニシテ二聯隊區ニ分屬スルモノハ各別ニ一區ト爲ス
 - 第四條 東京市、京都市、大阪市ニ於テハ更ニ徵募區ヲ檢查區ニ分チ區ヲ以テ檢查區ト爲ス
 - 第五條 步兵隊ノ兵員ハ聯隊毎ニ其ノ師管ノ一聯隊區ヨリ、其ノ他ノ兵員ハ其ノ師管各聯隊區ヨリ之ヲ徵集ス
- 但シ要員配賦上ノ必要ニ依リ他ノ聯隊區又ハ他ノ師管ヨリ之ヲ徵集スルコトヲ得

徵兵區ヲ有セサル團隊ノ兵員ハ各師管又ハ數師管ヨリ之ヲ徵集ス
警備隊ノ兵員ハ其ノ警備隊區ヨリ之ヲ徵集ス
海軍兵員ハ各師管内沿海及島嶼ヲ包括スル聯隊區及沖繩警備隊區ヨリ之ヲ徵集ス

第二章 徵兵官

- 第五條 徵兵官ハ總理徵兵官、師管徵兵官、聯隊區徵兵官、警備隊區徵兵官及聯隊區聯合徵兵署徵兵官トス
- 第六條 總理徵兵官ハ內務大臣及陸軍大臣ヲ以テ之ニ充テ全國徵兵ノ事ヲ統轄ス
- 第七條 師管徵兵官ハ師管内府縣毎ニ師團長及府縣知事ヲ以テ之ニ充テ師團長ヲ首坐トシ其ノ管内府縣徵兵ノ事ヲ統轄ス
- 北海道ニ於テハ師團長及北海道廳長官ヲ以テ師管徵兵官ニ充テ師團長ヲ首坐トシ其ノ管内徵兵ノ事ヲ統轄ス
- 第八條 聯隊區徵兵官ハ聯隊區徵募區毎ニ聯隊區司令官島司郡市長ヲ以テ之ニ充テ警備隊區徵兵官ハ警備隊司令官及島司郡市長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ首坐トシ其ノ區内徵募事務ヲ執行ス
- 東京市、京都市、大阪市ニ於テハ檢查區毎ニ聯隊區司令官及區長ヲ以テ聯隊區徵兵官ニ充テ聯隊區司令官ヲ首坐トシ抽籤事務ヲ除クノ外其ノ區内徵募事務ヲ執行ス

(24)

第九條 聯隊區聯合徵兵署徵兵官ハ東京市、京都市、大阪市ニ於テ徵募區毎ニ聯隊區司令官、市長及各區長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官ヲ首坐トシ其ノ區内抽籤事務ヲ執行ス

第十條 前二條ノ徵兵官事故アルトキハ聯隊區司令官及警備隊司令官ニ在リテハ師團長ニ於テ其ノ部下ノ佐官又ハ尉官ヲシテ其職務ヲ代理セシメ島司及郡市區長ニ在リテハ各其ノ職務ヲ代理スル者徵兵官ノ職務ヲ行フ

第十一條 (削除)

第十二條 (削除)

第十三條 毎年徵募職務執行中ハ師管徵兵醫官及聯隊區徵兵醫官聯隊區徵兵副醫官又ハ警備隊區徵兵醫官警備隊區徵兵副醫官ヲ置ク但シ警備隊區徵兵副醫官ハ時宜ニ依リ之ヲ置カサルコトヲ得

師管徵兵醫官ハ師團長ニ屬シ師管内徵兵身體検査ニ係ル事ヲ管掌シ聯隊區徵兵醫官ハ聯隊區司令官ニ警備隊區徵兵醫官ハ警備隊區司令官ニ屬シ其ノ區内徵兵身體検査ニ係ル事ヲ管掌シ聯隊區徵兵副醫官ハ聯隊區徵兵醫官ヲ警備隊區徵兵副醫官ハ警備隊區徵兵醫官ヲ補佐ス

第十四條 師管徵兵醫官ハ師團軍醫部長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區徵兵醫官及警備隊區徵兵醫官ハ陸軍一等軍醫一名聯隊區徵兵副醫官及警備隊區徵兵副醫官ハ陸軍二三等軍醫ノ

内一名ヲ以テ之ニ充ツ

第十五條 毎年徵募事務執行中ハ聯隊區徵兵署、警備隊區徵兵署及聯隊區聯合徵兵署ニ事務員ヲ置キ該徵兵署ノ庶務ニ従事セシム

第十六條 聯隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員ハ聯隊區書記又ハ警備隊書記一名若ハ二名及看護長一名並島廳郡市書記東京市、京都市、大阪市ノ區ニ在テハ區書記二名乃至四名ヲ以テ之ニ充ツ

聯隊區聯合徵兵署事務員ハ聯隊區書記一名若ハ二名市書記二名及各區書記二名乃至四名ヲ以テ之ニ充ツ

第十七條 師管徵兵官タル師團長、師管徵兵醫官タル師團軍醫部長遠隔ノ地ニ在ル爲其ノ職務ヲ行ヒ難キ場合ニ於テハ必要ニ應シ陸軍大臣他ノ師團長又ハ師團軍醫部長ヲ指定シテ其ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第三章 配賦

第十八條 毎年徵集スヘキ現役兵及補充兵ノ員數ハ上裁ヲ經テ陸軍大臣之ヲ各師管ニ配賦ス

(25)

第十九條 師團長ハ第十八條ニ依リ現役兵及補充兵ノ要員ヲ各聯隊區又ハ警備隊區ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ之ヲ各徵募區ニ配賦ス

(26)

第二十條 現役兵及補充兵ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ基準トシテ之ヲ定ム

第四章 徵募

第二十一條 町村長ハ毎年戶籍簿ニ據リ前年十二月一日ヨリ其ノ年十一月三十日迄ノ徵兵適齡者ヲ取調ヘ徵兵令第二十五條ノ屆書ニ照較シ壯丁名簿ヲ作り二月十五日迄ニ島司又ハ郡長ニ差出シ島司郡長ハ點檢ノ後之ヲ一徵募區ニ取纏メ前年假決ノ諸名簿ト共ニ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ提出スヘシ
東京市、京都市、大阪市ニ在リテハ區長ハ前項ノ例ニ依リ壯丁名簿ヲ作り前年假決ノ諸名簿ト共ニ之ヲ聯隊區徵兵署ニ提出スヘシ

第二十一條ノ二 假決處分ヲ受ケタル者ニシテ引續キ七箇年間所在不明ナルトキハ其所
在分明トナルトキ徵集ニ關スル手續ヲ爲スヘシ

第二十二條 毎年徵募事務執行ノトキハ各徵募區又ハ検査區ニ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ヲ設ク但シ地方ノ狀況ニ依リ二箇所以上ノ地ニ逐次開設シ又ハ一徵募區若クハ一検査區、徵兵署ヲ他ノ徵募區若ハ検査區内ニ設クルコトヲ得

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ抽籤執行ノ爲メ別ニ徵募區ニ聯隊區聯合徵兵署ヲ設ク

第二十三條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ島司郡市長ニ協議シ徵兵署開設ノ日割ヲ

定メ聯隊區司令官警備隊司令官ハ師團長ニ島司郡市長ハ北海道廳長官府縣知事ニ申報スヘシ

但シ前條第一項但書ノ場合ニ於テハ豫メ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ師管徵兵官ノ認可ヲ受クヘシ

島司郡市長ハ検査抽籤ノ日時及徵兵署設置ノ場所ヲ豫メ其ノ管内ニ告示スヘシ

第二十四條 兵役ノ適否ヲ定ムル爲メ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ壯丁ノ身體検査ヲ行フ其ノ検査ハ徵兵官ノ面前ニ於テスルモノトス

町村長ハ前項ノ検査ニ列席シ徵兵官ノ諮詢ニ應スヘシ

第二十五條 聯隊區司令官警備隊司令官ハ壯丁ノ身體検査ノ事ヲ監督シ兵種ノ選定ニ任ス

第二十六條 島司郡市長東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル書類ノ調書及事實ノ審覈ニ任ス

第二十七條 壯丁ノ身體検査終ルトキハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ徵集延期徵

集猶豫、徵集免除及兵役免除ノ處分ヲ爲シ又壯丁名簿ヲ以テ徵集名簿、徵集延期名簿、徵集猶豫名簿、徵集免除名簿及兵役免除名簿ヲ作ルヘシ

但シ徵兵令第十二條ニ依ル陸軍現役兵志願者ヲ採用シタルトキハ其ノ名簿ヲ徵集名簿ニ添附スヘシ

第二十八條 身體検査ニ合格シタル壯丁ハ徵集順序ヲ定ムル爲メ徵集區毎ニ體格ノ等位

(27)

及兵種ヲ分チ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ抽籤ヲ行フ但東京市、京都市、
大阪市ニ於テハ聯隊區聯合徵兵署ニ於テ之ヲ行フ

抽籤ハ徵兵官及町村長列席ノ上抽籤總代人ヲ爲スモノトス

抽籤總代人ハ徵兵官其ノ年ノ壯丁ニ就キ市町村長東京市、京都市、大阪市
ニ在リテハ區長以下同シヲシテ之ヲ

選定セシム其ノ人員ハ適宜トス

第二十九條 前條ノ徵兵官ハ總代人ノ抽キタル籤番號ノ順序ニ依リ抽籤名簿ニ進テ作ル
ヘシ

第三十條 抽籤終ルトキハ抽籤名簿及徵集名簿ハ聯隊區司令官又ハ警備隊區司令官之ヲ
領シ抽籤名簿、徵集延期名簿、徵集猶豫名簿、徵集免除名簿及兵役免除名簿ハ島司郡
市長之ヲ領シ島廳、郡市役所ニ備置クヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ於テハ抽籤名
簿ヲ除クノ外ハ區長之ヲ領シ區役所ニ備置クヘシ

第三十一條 各徵募區ノ抽籤終ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ第十九條ノ配
賦ニ基キ現役兵徵募及補充兵編入ノ處分ヲ爲シ又ハ徵集名簿ヲ以テ現役兵名簿補充兵
名簿隊要員超過名簿ヲ作ルヘシ

第三十二條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ現役兵名簿ヲ各聯隊長聯隊ヲ爲ササル隊
ニ在テハ其ノ隊長及鎮守府兵事官ニ交付シ且現徵兵ニ徵募スヘキ者及補充兵ニ編入スヘキ者ノ順序ヲ島
司郡市長ニ通知スヘシ

抽籤名簿及補充兵名簿ハ之ヲ聯隊區司令部又ハ警備隊司令部ニ備置キ要員超過名簿ハ
島司郡市長ニ交付シ島廳郡市役所ニ備置クヘシ

第三十三條 第二十七條ノ處分ヲ爲シタル者ニハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官第三
十一條ノ處分ヲ爲シタル者ニハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官各其ノ證書ヲ附與ス但
徵集免除ノ者竝ニ要員ニ超過シタル者ニハ證書ヲ附與セス

第三十四條 徵集事務終ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ徵兵事務報告書及徵
兵表ヲ作り十一月十日迄ニ師團長ニ差出シ師團長ハ師管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作
リ十一月三十日迄ニ陸軍大臣ニ差出シ陸軍大臣ハ全國徵兵表ヲ作り奏上スヘシ

第五章 裁決

第三十五條 裁決ハ分テ假決及終決ノ二種トス

第三十六條 假決ハ徵集延期及徵集猶豫ノ事ヲ裁決シ終決ハ現役兵徵募、補充兵編入、
要員超過、徵集免除及兵役免除ノ事ヲ裁決ス

第三十七條 徵集延期、徵集猶豫、徵集免除及兵役免除ノ裁決ハ聯隊區徵兵官又ハ警備
隊區徵兵官之ヲ爲シ其ノ他ノ裁決ハ聯隊區司令官又ハ警備隊區司令官之ヲ爲ス

第三十八條 壯丁若クハ其ノ家族ニ於テ徵兵令第二十二條ニ關スル聯隊區徵兵官又ハ警
備隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ師管徵兵官ニ師管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキ

ハ總理徴兵官ニ訴願スルコトヲ得但訴願ノ爲ニ裁決ノ執行ヲ停止セス
本條ノ訴願ハ裁決書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期日ヲ過クルモ
ノハ受理セス

第三十九條 徴兵官ノ裁決ニ對シ訴願ヲ爲サントスル者ハ其ノ訴願書ニ同徴募區内其ノ
年徴集ニ應スヘキ壯丁ノ戸主三名ノ保證書ヲ添ヘ其ノ裁決ヲ爲シタル徴兵官ヲ經由シ
テ差出スヘシ

徴兵官前項ノ訴願書ヲ受領シタルトキハ之ニ前裁決ニ關スル書類ヲ添ヘ上級ノ徴兵官
ニ差出スヘシ

第四十條 總理徴兵官又ハ師管徴兵官ハ下級徴兵官ノ處分違法又ハ裁決不當ナリト認ム
ルトキハ之ヲ取消シ更ニ處分ヲ命スヘシ但シ師管徴兵官ハ總理徴兵官ノ認可ヲ受クヘ
シ

第四十一條 徴兵官ノ裁決ニ對シテハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許サス

第六章 現役兵及補充兵

第四十二條 現役兵入營期日ハ毎年十二月一日トス但疾病犯罪其ノ他ノ事故ニ由リ十二
月一日ニ入營シ難キ者ハ同月三十一日迄ニ入營セシム

警備隊兵ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徴募年ノ十二月一日、第二期ハ翌年六月一

日トシ輻重輪卒ノ入營ハ四期ニ分チ其ノ第一期ハ徴募年ノ十二月一日、第二期ハ翌年
三月一日、第三期ハ同年六月一日、第四期ハ同年九月一日トス

第七師管、第八師管、第九師管及第十三師管ニ於ケル輻重輪卒ノ入營ハ三期ニ分チ其ノ
第一期ハ徴募年ノ翌年三月一日、第二期ハ同年六月一日、第三期ハ同年九月一日トス
戰時若ハ事變ノ際其他必要ノ場合ニ在テハ前項ノ入營期日ヲ變更スルコトヲ得

第四十三條 (削除)

第四十四條 現役兵入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營ノ延期ヲ願フ者アル
トキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ二十日以内ノ延期ヲ許スヘシ

其ノ延期ヲ願フ者ハ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ク其ノ父母ノ危篤ノ者ハ醫師診斷
書ヲ添ヘ差出スヘシ

第四十五條 現役兵入營前ハ第四條ノ區域外ニ轉籍モ籍上本人ノ出入モ籍有ス以下同シスルモ所屬ノ隊籍
ヲ變更セス

徴兵官第二十七條ニ當リ翌年回ト爲リタル者ハ身體検査ヲ行ヒ更ニ隊籍ヲ定ムル者ト
ス但第四條ノ區域外ニ轉籍シタル者ハ其地ニ於テ身體検査ヲ行ヒ隊籍ヲ定ム

第四十六條 現役兵入營前若ハ入營後ニ於テ死亡、疾病、犯罪其ノ他ノ事故ニ依リ又ハ
第四十二條第一項但書ノ期日ヲ過クルモ入營シ難キ者アルニ依リ闕員ヲ生シタルトキ
ハ徴募年ノ翌年一月三十一日迄ニ其ノ徴募區同兵種ノ補充兵ヲ以テ徴集順序ニ從ヒ補

充ス但シ警備隊兵及輜重輸卒ニ在リテハ入營スヘキ月ノ十日迄ニ次期入營スヘキ者ヲ繰リ上ケ入營セシメ其ノ最終期ニ於テハ前期ニ繰リ上ケタル闕員ト其ノ期ノ闕員トヲ補充ス又看護卒ニ在リテハ入營スヘキ月ノ十日迄ニ補充スルモノトス
徵兵令第十二條ニ依リ陸軍現役兵ニ採用シタル者闕員ト爲リタル場合ノ補充ハ之ヲ採用シタル聯隊區又ハ警備隊區内ニ於ケル同兵種ノ補充兵ヲ以テ徵集順序ニ從ヒ補充ス

第一項ノ場合ニ於テ其ノ徵募區ヨリ補充スルコト能ハサルトキハ聯隊區又ハ警備隊區内他ノ徵募區ヨリ、第一項又ハ第二項ノ場合ニ於テ其ノ聯隊區又ハ警備隊區ヨリ補充スルコト能ハサルトキハ師管内地ノ聯隊區又ハ警備隊區ヨリ、其ノ師管ヨリ補充スルコト能ハサルトキハ他ノ師管ヨリ之ヲ補充スルコトヲ得其ノ補充ハ總テ徵集順序ニ依ルモノトス

前二項ニ依ル補充員ノ配賦ハ各徵募區、各聯隊區又ハ警備隊區、各師管同兵種補充兵ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

臨時ニ多數ノ闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ第一項ノ期日ニ拘ラス前諸項ノ例ニ依リ各年次ニ於ケル現役兵ノ闕員ヲ補充スルコトヲ得

第四十七條 現役兵入營前癆疾又ハ不具トナリ永久兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ於テ兵役ヲ免ス但徵兵令第二十七條ニ當リ翌年回ト爲リタ

ル者其ノ年徵募事務終結前ハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 現役兵入營前徵兵令第二十二條ニ當ルヘキ事故ノ生スルトキハ本人ノ願ニ由リ聯隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ於テ徵集ヲ延期ス

其ノ願書ニハ同徵募區内其ノ年徵集ニ應スヘキ現役兵ノ戸主一名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ差出スヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長町村ニ在テハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審察シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ聯隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付スヘシ

第四十九條 現役兵入營前及補充兵補充兵證書附與後其ノ年十一月三十日以前ノ者以下同シ轉籍シタルトキハ十四

日以内ニ舊住地島司郡市長ヲ經テ舊住地聯隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ届出ヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長町村ニ在テハ町村長ヲ經由スヘシ

其ノ轉籍聯隊區外又ハ警備隊區外ニ係ルトキハ舊住地聯隊區司令官又ハ警備隊區司令官ヨリ新住地聯隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ通報スヘシ

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十條 現役兵入營前及補充兵寄留若ハ十四日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ招集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ヲ定メ市町村ニ在リテハ市町村長ニ届出ツヘシ其ノ復歸シタルトキハ亦届出ツヘシ

本條ノ届出チ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタルトキハ五
錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第七章 雜則

第五十一條 徵兵令第十二條ニ依リ現役ニ服セムコトヲ志願スル者ハ其ノ願書ニ戸主及
親權者連署シ身元證書ヲ添ヘ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ徵兵検査ノ際任意ノ聯隊區司
令官又ハ警備隊司令官ニ願出テ身體検査ヲ受クヘシ但シ海軍兵志願者ニ在リテハ九月
一日迄ニ鎮守府ニ願出テ許可ヲ受クルカ又ハ徵兵検査ノ際聯隊區徵兵署又ハ警備隊區
徵兵器ニ申立テ身體検査ヲ受ケ合格者ハ其ノ合格證書ヲ添ヘ鎮守府ニ願出ツルモノト
ス
検査及入營ノ爲往復スル旅費ハ自辨トス

第一項ノ出願者中陸軍兵志願者ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ本人希望ノ兵
種隊號ヲ參酌シ配賦要員ニ充テ得ヘキ者ニ限り之ヲ許可シ本人本籍地所管ノ聯隊區司
令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ

第五十二條 前條ニ依リ服役ヲ許可シタル者入營シタルトキハ當該隊長又ハ鎮守府兵事
官ヨリ本籍地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第五十三條 他ノ徵募區ニ寄留スル者ハ願ニ依リ其ノ地ニ於テ身體検査ヲ受クルコトヲ
得

前項ニ依リ身體検査ヲ受ケタル者ハ寄留地徵募區ノ壯丁ト合シテ抽籤ヲ行フコトヲ得

第五十四條 徵兵令第二十二條ニ當ル者ハ同徵募區内其ノ年ノ徵集ニ應スヘキ壯丁ノ戸
主二名ノ保證書ヲ添ヘ三月一日迄ニ 三月一日後身體検査前迄ニ事 聯隊區徵兵官又ハ警
備隊區徵兵官ニ願出ヘシ但其ノ事故二年以上繼續スル者ハ毎年願出テ三箇年ヲ過ケル

モ仍ホ止マサル者ハ本文ノ保證書ヲ添ヘ届出ヘシ

前項ノ願書及届書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

第五十五條 徵兵令第二十三條第一項ニ當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ
大使公使領事又ハ貿易事務官ノ證明書ヲ添ヘ毎年四月十五日迄ニ聯隊區徵兵官又ハ警
備隊區徵兵官ニ願出ヘシ

大使公使領事及貿易事務官ヲ置カサル國ニ在ル者及一定ノ地ニ在留セサル旅行ノ者ハ
其ノ徵集猶豫願書ニ海外旅券ヲ受取りタル官廳ノ證明書ヲ添ヘ差出スヘシ

大使公使領事及貿易事務官ヲ置キタル國ニ在ル者ト雖徵集猶豫願ヲ差出ストキ未ダ大
使公使領事又ハ貿易事務官ノ證明書ヲ得サルトキハ之ニ換フルニ海外旅券ヲ受取りタ
ル官廳ノ承認書ヲ添ヘ差出シ置キ追テ證明書ヲ差出スコトヲ得
本條ノ願書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

(36) 第五十六條 (削除)

第五十七條 徵兵令第二十三條第一項ノ事故止ミタル者ノ屆書及同條第二項ノ歸朝シタル者ノ屆書ハ町村長ヨリ其年ノ壯丁名簿進達前ニ於テハ其名簿ト共ニ進達後ニ在テハ受領ノ日ヨリ三日以内ニ島司郡長ニ差出スヘシ

島司郡市長ハ前項ノ届出ヲ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署開設ノトキ同署ニ提出スヘシ但シ當該徵兵署閉鎖後師管內各徵兵署閉鎖前ニ在リテハ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出スモノトス

第五十八條 傷痍疾病、犯罪若ハ所在不明等ノ爲又ハ志願兵出願者ニシテ其ノ検査ノ爲徵兵検査ヲ受ケ難キ場合ニ於テハ本人ヨリ、本人届出ヲ爲シ得ヘカラサルトキハ家事擔當者ヨリ書面ヲ以テ検査當日迄ニ島司郡市町ニ届出ツヘシ其ノ傷痍疾病ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

前項ノ届出ヲ爲シタル者其ノ事故止ミタルトキハ直ニ島司郡市長ニ届出ツヘシ島司郡長ニ差出ス屆書ニハ町村長ノ奥書證印ヲ受クヘキモノトス

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十八條ノ二 徵募區徵兵署閉鎖後徵兵令第二十三條第一項ノ事故止ミタル者、同條第二項ノ歸朝シタル者、前條第一項ノ事故止ミタル者、六週間現役兵ニシテ入營前教職ヲ罷メタル者、徵兵令第十三條第五項ニ該當スル者、身體検査前身體検査ヲ終リタ

ル徵募區ニ轉籍シタル者其ノ他其ノ年徵兵検査ヲ受クヘキ者アルトキハ聯隊區又ハ警備隊區內各徵募區徵兵署閉鎖前ニ在リテハ區內便宜ノ徵兵署ニ於テ身體検査ヲ行フヘシ但シ該區內各徵募區ノ徵兵署閉鎖後ニ在リテハ師管內ニ於テ師團長ノ指定シタル聯隊區又ハ警備隊區內便宜ノ徵兵署ニ於テ身體検査ヲ行フコトヲ得

前項ニ依リ身體検査ヲ爲シタル者ノ中抽籤ヲ要スル者ニ付テハ第五十三條ニ依リ寄留地ニ於テ身體検査ヲ受クル者ノ例ニ依ル

第五十九條 疾病傷痍或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄ニ聯隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ届出ツヘシ其ノ疾病傷痍ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添フヘシ其ノ屆書ニハ市町村長ノ奥書證印ヲ受クヘキモノトス

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十條 徵兵署ノ諸費壯丁及抽籤代理人ノ旅費徵兵入營ノ旅費ハ官給ス

但シ徵兵令第十二條ニ依リ現役ニ服スル者ノ入營旅費ハ此ノ限ニ在ラス

第六十一條 第四十條ニ依リ更ニ處分ヲ爲ストキハ臨時徵兵署ヲ開設スルコトヲ得

第六十二條 島嶼ニ於テ本條例中ノ條規ヲ實施スルコト能ハサルトキハ師團長、地方長官協議ノ上適宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得

(37) 第六十三條 徵兵令ヲ施行セサル地ニ寄留ノ者ハ寄留地最寄ノ徵募區ニ於テ身體検査ヲ受クルコトヲ得其ノ取扱ハ第五十三條ニ依リ寄留地ニ於テ身體検査ヲ受クル者ノ例ニ

(38)

依ル

韓國在留ノ者ニ在テモ前項ノ例ニ依リ適宜ノ徵募區ニ於テ身體検査ヲ受クルコトヲ得
第六十四條 徵兵令ヲ施行セサル地ヨリ施行ノ地ニ轉籍シタル者ハ其ノ年又ハ翌年ノ徵
集ニ應セシム但年齡二十六歳ヲ過キ轉籍シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

附則

第六十五條 北海道千島、伊豆七島及小笠原島ニ於ケル聯隊區徵兵官タル聯隊區司令官
ノ職務ハ聯隊區副官又ハ他ノ將校ヲシテ臨時之ヲ行ハシムルコトヲ得

北海道千島、伊豆七島及小笠原島ニ於ケル徵兵事務執行ノ際ハ第十四條ノ規定ニ依ラ
ス軍醫一名ヲ以テ聯隊區徵兵醫官ト爲シ聯隊區徵兵副醫官ヲ置カサルコトヲ得

第六十六條 本令中郡役所トアルハ北海道ニ在リテハ支廳、市役所トアルハ北海道及沖
繩縣ニ在リテハ區役所、警備隊司令官トアルハ沖繩警備隊區ニ在リテハ警備隊區司令
官、郡長郡書記トアルハ北海道ニ在リテハ支廳長支廳屬、市長市書記トアルハ北海道
及沖繩縣ニ在リテハ區長、區書記、町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ
戶長其ノ他町村長ニ準スヘキ者ニ該當ス

第六十七條 本條例ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

附則 (四十年勅令第二五四號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

徵兵事務條例補則ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際徵兵令第十二條ニ依リ陸軍現役ニ服スルコトノ許可ヲ受ケ未タ入營セサル
者ハ更ニ本令ノ規定ニ依リ願出ツヘキモノトス

砲兵輸卒及輜重輸卒ノ入營期日ニ關スル改正ハ明治四十年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治二十八年勅令第二百二十六號第二條及明治三十年勅令第二百五十八號第二項ニ依リ徵
集ヲ猶豫セラルル者ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

徵兵事務條例施行細則

(明治二十九年四月
陸軍省令第十號)

徵兵事務條例施行細則左ノ通改正ス

徵兵事務條例施行細則

第一條 條例第四條第一項但書及同條第二項ニ依リ兵員徵集區域ヲ定ムルコト左ノ如シ
近衛ノ歩兵隊及騎兵隊ノ兵員 各師管

前號以外ノ近衛兵員

第一師管

騎兵第一旅團野砲第一

旅團ノ兵員ヲ除ク

第十四師管

鐵道隊、電信隊ノ兵員

各師管

(39)

氣球隊ノ兵員

縫工卒、靴工卒

第七師團ノ兵員

臺灣ノ歩兵隊ノ兵員

臺灣山砲兵隊ノ兵員
基隆及澎湖島重砲兵隊ノ兵員

騎兵第三旅團
騎兵第八聯隊ヲ除ク

騎兵第四旅團
騎兵第十九聯隊ヲ除ク

旅順及鎮海灣重砲兵隊ノ兵員 第四師管、第五師管
第六師團、第十二師團及第十八師團ノ兵員ハ沖繩警備隊區ヨリモ之ヲ徵集ス

第一條ノ二 前條ノ現役兵員 鐵道隊、電信隊、氣球隊ノハ徵集師管ヲ管轄スル師團ノ同
兵種ノ兵員ヲ通シテ之ヲ配賦シ近衛兵員ニ在リテハ各適當ノ者ヲ以テ之ニ充テ其ノ他
ノ兵員ニ在リテハ其ノ殘員中ニツキ徵集順序ニ從ヒ本籍師團兵ト交互之ニ充テ第二師
管第八師管及第十三師管ノ騎兵並第十四師管ノ騎兵、砲兵ニ在リテハ本籍師團兵、第

第一師管、第十四師管

第一師管、第二師管、第三師管、第四師管、第五師管、第九師管、第十師管、第十一師管、第十三師管、第十四師管、第十五師管、第十六師管、第十七師管、第十八師管

第一師管 伊豆七島及小笠原島ヲ除ク 第二師管、第七師管、第八師管、第十三師管、第十四師管

第三師管、第四師管、第五師管、第六師管、第九師管、第十師管、第十一師管、第十二師管、第十五師管、第十六師管、第十七師管、第十八師管

第十七師管、第十八師管

第四師管、第五師管、第十二師管、第十八師管

第二師管、第八師管、第十三師管

第三師管、第九師管、第十五師管

七師團兵及騎兵又ハ砲兵旅團兵ノ順序ニ依ルモノトス
前項ニ依リ決定シタル者翌年回ト爲リ又ハ第一條ニ依ル各國隊兵徵集區域内ニ於テ轉籍スルモノ其ノ決定ヲ變更セサルモノトス

第一條ノ三 條例第二十一條ノ壯丁名簿ハ附錄第一様式ニ依リ之ヲ作り一市 東京市、京都市、大阪市、神戸市、
市ノ區ニ在リテハ區 一町村ヲ一冊ト爲シ冊尾ニ其ノ人員ノ總計ヲ記シ市町村長 東京市、京都市、大阪市、
ハ區 之ニ署名押印スヘシ

第二條 徵兵令第八條第二十五條但書ニ當ル者ハ市町村長 東京市、京都市、大阪市、
シ人名簿 各事項ヲ 頭書ス、ヲ作り壯丁名簿ニ添附スヘシ 阪市ニ在テハ區長 之ヲ調査

第三條 島司郡市長ハ毎年一月一日調ヲ以テ其ノ年ノ徵兵適齡人員及前年假決ノ人員
(逃亡、失踪、所在不明ノ爲メ假決ニ屬スルモノニシテ七箇年ヲ過キ尙所在不明ナル
モノヲ除ク)ヲ同月二十日迄ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知シ聯隊區司令官
及警備隊司令官ハ其人員ヲ取纏メ二月一日迄ニ師團長ニ報告シ師團長ハ二月十日迄ニ
之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ
前項ノ人員中前年假決ノ人員ハ各列記スヘシ
町村長及東京市京都市大阪市ノ區長ハ毎年一月十日迄ニ第一項ノ適齡者人員ヲ島司郡
市長ニ報告スルモノトス

第四條 聯隊區徵兵署及警備隊區徵兵署ハ島司郡市長 東京市京都市大阪市、
署ハ市長及區長ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ要スレハ吏員ヲ派シテ豫メ準備シ聯隊區司
令官又ハ警備隊司令官到著ノ上之ヲ開設スヘシ 聯隊區聯合徵兵
一徵募區ニ二箇所以上聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ヲ設ケムトスルトキハ每箇所

一日ニ於テ検査スヘキ規定ノ人員以上ノ壯丁ヲ集合セシムヘキ地ヲ選フヘシ但シ交通不便ノ地ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

一 徵募區ニ二箇所以上聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ヲ設ケントスルトキハ一箇所概ネ壯丁百七十人以上ニ在リテハ適宜ニ集合セシムヘキ地ヲ選フヘシ

第五條 聯隊區徵兵署警備隊區徵兵署開設日割既ニ定マルトキハ島司郡市長 都市、大阪市ニ在テハ其ノ徵募區又ハ検査區内ニ於テ毎日検査ヲ受クヘキ壯丁ノ順序ヲ定メ期日ニ至リ壯丁ヲ徵兵署ニ出頭セシムヘシ

第六條 身體検査ヲ行フトキハ島廳都市書記市ニ在テハ區書記ハ壯丁ヲ呼出シ軍醫ハ徵兵検査規則ニ依リ身體ヲ検査シ體格ノ等位其ノ他所要ノ件ヲ壯丁名簿前年ノ假決ヲ受クヘキ者ノニ記入シ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出スヘシ

第七條 身體検査ヲ行フニ當リ壯丁ヲシテ裸體ナラシムルトキハ勉メテ別室若クハ隔内ニ於テスヘシ

第八條 身體検査ハ毎年四月十六日ヨリ八月下旬迄ノ間ニ於テ之ヲ行フヲ例トス其ノ日割表ハ別錄第十一様式ニ依リ之ヲ作り聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ二月二十日迄ニ師團長ニ報告シ師團長ハ三月一日迄ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第九條 徵兵令第二十條第二十一條第二十二條ニ依リ徵集延期ニ屬スル者徵兵令第二十三條ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者並ニ徵兵令第十九條ニ依リ兵役免除ニ屬スル者ニハ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ附錄第二第三様式ニ依リ徵集延期證書兵役免除證書ヲ作り市ハ市長 都市、大阪市ニ在テハ區長 ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長

ヲシテ本人ニ附與セシムヘシ

徵集免除ニ屬シ國民兵役ニ服スル者ニハ徵兵事務條例第二十八條ノ抽籤後前條ノ例ニ依リ本人ニ達スヘシ

第十條 徵兵令第二十二條ノ願ヲ許可セサル者及同條ノ事故繼續シテ三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル旨届出タル者ニシテ徵集免除ニ屬セサル者ニハ其ノ裁決書ヲ市ハ市長 都市、大阪市ニ在テハ區長 ヨリ本人ニ付與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ付與セシムヘシ

第十一條 陸軍兵ニ編入スヘキ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選フノ外各兵種ノ任務ニ應ジ學力ヲ有スル者ト否ラサル者トヲ適當ニ配當スヘキモノトス但シ騎兵電信隊及輜重兵ニ在リテハ他兵種ニ比シ學力ヲ有スル者ノ割合ヲ多クスヘシ

一 歩兵ハ脚力強健ニシテ勞力ニ堪ヘ且成ルヘリ視力聽力完全ナル者

二 騎兵ハ馬匹ノ使用ニ慣シ視力聽力完全身體輕捷性質敏捷言語明晰ナル者但シ要員ノ約十二分ノ一ハ蹄鐵工卒ニ適スル者

三 砲兵ハ體力强視力清明ナル者但シ要員ノ約十六分一宛ハ鞍工、木工、鍛工卒ニ適スル者

(43) 四 工兵隊ノ兵員ハ膂力アル者但シ要員ノ約二十分一ハ鍛工卒ニ適スル者約六分一ハ木工卒ニ適スル者(般大工)約五分一ハ船ノ使用ニ慣レタル者約二十分ノ一ハ石工ヲ含ム

及掘鑿業務ニ從事シタル者其ノ他若干名ハ土木建築等ノ業務ニ從事シタル者
 鐵道隊ノ兵員ハ身幹中等膂力アル者ニシテ主トシテ鐵道ノ建築運轉又ハ工場業務
 ニ從事シタル者但シ若干名ハ電氣機時計器械ノ修理又ハ製圖ノ技能ヲ有スル者
 電信隊ノ兵員ハ電信電話及通信又ハ建築業務ニ從事シタル者及聽力完全言語明晰
 ナル者其ノ他若干名ハ鍛工、木工卒ニ適スル者及電氣機時計器械修理ノ技能アル
 者

氣球隊ノ兵員ハ體力強大ナル者但シ若干名ハ機關ノ取扱寫眞術製網ニ從事シタル
 者及鍛工、木工卒ニ適スル者

五 輜重兵、輜重輪卒ハ成ルヘク馬匹ノ使用ニ慣レ且膂力アル者但シ輜重輪卒要員ノ
 約四十分一宛ハ鞍工、木工、鍛工卒ニ適スル者並冷鍛工教育ニ適スル者

六 縫工卒、靴工卒ハ其ノ勤務ニ適スル者

第十二條 海軍兵ニ編入スヘキ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選フヘシ

一 水兵ハ體力強大ニシテ勞力ニ堪ヘ且成ルヘク性質敏捷言語明晰視力聽力完全ニシ
 テ普通ノ文字ヲ解スル者

二 機關兵ハ體力强健ニシテ視力聽力完全シ且成ルヘク普通ノ文字ヲ解シ機械若ハ汽
 鑪ノ取扱、火焚、鍛冶工業、機械工業、鑄造工業、製鐵工業又ハ兵器ノ製造修理
 ノ業ニ慣レタル者

三 軍樂生ハ普通ノ文字ヲ解シ齒列齊正指節剛強ナラサル者

四 木工ハ膂力アリテ成ルヘク普通ノ文字ヲ解シ其ノ職業ニ慣レタル者

五 看護ハ普通ノ文字ヲ解シ成ルヘク患者ノ取扱ニ慣レタル者

六 主廚ハ成ルヘク普通ノ文字ヲ解シ割烹ノ職ニ慣レタル者

第十三條 條例第二十七條ノ諸名簿ハ種類ヲ分チ之ヲ編綴シ册尾ニ聯隊區徵兵官又ハ營
 備隊區徵兵官署名捺印スヘシ但シ徵兵令第二十三條第一項ニ依リ徵兵猶豫中ニシテ志
 願兵ヲ出願シタル者猶豫名簿ハ更ニ別綴ト爲シ各假決ノ區畫ニ其事由ヲ記スルモノト
 ス

公權停止逃亡中若クハ失踪等ノ爲メ其ノ年徵集スルコト能ハサル壯丁ハ徵集延期名簿
 ニ六週間現役ニ服スヘキ者ハ徵集猶豫名簿ニ編入シ各假決ノ區畫ニ其事由ヲ記スルモ
 ノトス

假決中滿四十歳ヲ超過シタル者ノ名簿ハ之ヲ兵役免除名簿ニ編入シ終決ノ區畫ニ其ノ
 事由ヲ記スルモノトス

第十四條 聯隊區ニ於テ歩兵ノ要員ヲ充ツルコト能ハサルトキハ聯隊司令官ヨリ之ヲ師
 團長ニ具狀シ師團長ハ師管内他ノ各聯隊區ニ配賦スヘシ其ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ率ト
 シ比例ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

師管内ニ於テ要員ヲ充タシ能ハサルトキハ師團長ハ陸軍大臣ニ具狀スヘシ

沖繩警備隊區ニ於テ要員ヲ充メシ能ハサルトキハ警備隊區司令官ハ之ヲ第六師團長ニ、第六師團長ハ之ヲ陸軍大臣ニ具狀スヘシ

第十五條 徵兵令第二十三條ニ依リ徵集猶豫ニ屬スヘキ者ニハ身體検査ヲ施行セス

第十六條 疾病傷痍ノ爲メ身體検査ニ出頭セサル者ハ時宜ニ由リ其ノ家ニ就キ検査スヘシ

第十七條 抽籤施行ニ先チ聯隊區徵兵署、警備隊區徵兵署又ハ聯隊區聯合徵兵署ニ於テ

合格者ノ人員ヲ調査シ步兵、騎兵、砲兵、工兵、工兵隊兵、鐵道隊兵(氣球隊兵ヲ含ム)電信隊兵ノ三種ニ分チ各別トス

、輜重兵、輜重輸卒、縫工卒、靴工卒、水兵、機關兵、軍樂生、木工、看護、主廚ニ

分チ甲種、第一乙種、第二乙種ニ區別シ籤札ヲ作ルヘシ

籤ノ番號ハ甲種、第一乙種、第二乙種各合格者中抽籤ヲ要スル者ノ數ニ應シ第一番ヨリ起スモノトス

第十八條 籤札ハ附錄第四様式ニ依リ之ヲ作り籤箱ニ納レ之ヲ封鎖シ徵兵官ノ前ニ置キ

其ノ封ヲ披キ徵兵署事務員籤丁名簿ノ順序ニ氏名ヲ呼ヒ抽籤總代人ニ之ヲ抽カシム

第十九條 條例第二十九條ノ抽籤名簿ハ附錄第五様式ニ依リ冊尾ニ徵兵官署名捺印スヘシ

第二十條 抽籤總代人ハ抽ク所ノ番號ヲ高聲ニ呼ヒ其ノ抽札ヲ徵兵署事務員ニ渡シ徵兵署事務員ハ之ヲ籤丁名簿氏名ノ頭ニ貼附シ徵兵署印章ヲ以テ割印ヲ爲シ一人毎ニ之ヲ

截チ切り總代人ニ交付シ總代人ハ之ヲ市町村長東京市、京都市、大ハ之ヲ各人ニ交付スヘシ阪市ニ在リテハ市長ニ差出シ市町村長

第二十一條 身體検査ニ合格シタル壯丁中身元確實ナル者ニシテ抽籤ノ法ニ依ラス現役ニ服センコトヲ志願スル者アルトキハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊徵兵官之ヲ許可スルコトヲ得

第二十二條 現役兵及補充兵ノ徵集ノ順序ハ左ノ如シ

- 一 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者
 - 二人以上ナルトキハ年齢ノ順序同
 - 年齢ノ者ハ抽籤ニ依ル
 - 第二號乃至第四號第六號第七號第八號第十號第十一號第十二號亦同

二 甲種合格者ニシテ徵兵令第十三條第五項及第二十三條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徵集スル者

三 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十七條ニ當リ徵集スル者

三ノ二 徵兵令第十二條ニ依リ陸軍現役兵ノ志願ヲ許可シタル者

四 第二十一條ニ依リ現役志願ヲ許可シタル者

五 甲種合格者ニシテ抽籤ノ者番號ノ順序ニ從フ第九號第十三號亦同シ

六 第一乙種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者

七 第一乙種合格者ニシテ徵兵令第十三條第五項及第二十三條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラ

スシテ徵集スル者

八 第一乙種合格者ニシテ徵兵令第二十七條ニ當リ徵集スル者
九 第一乙種合格者ニシテ抽籤ノ者

十 第二乙種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者

十一 第二乙種合格者ニシテ徵兵令第十三條第五項及第二十三條ニ當リ抽籤ノ法ニ依
ラスシテ徵集スル者

十二 第二乙種合格者ニシテ徵兵令第二十七條ニ當リ徵集スル者

十三 第二乙種合格者ニシテ抽籤ノ者

第二十三條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官條例第三十一條ノ處分ヲ爲シタルトキハ附
錄第六様式ニ依リ現役兵證書及補充兵證書ヲ作り市ハ市長ヲ經テ本人ニ付與シ郡又ハ
島嶼ニ在テハ島司郡長及町村長ヲ經テ本人ニ付與スヘシ但東京市京都市大阪市ニ在テ
ハ尙ホ區長ヲ經由スヘシ

要員超過ノ爲メ國民兵役ニ服スル者ニハ前項ノ例ニ依リ其ノ由ヲ本人ニ達スヘシ
徵兵令第十二條ニ依リ陸軍現役兵ノ志願ヲ許可シタル者ニハ第一項ニ準シ現役兵證書
ヲ付與スヘシ

第二十四條 條例第三十一條ノ諸名簿ハ種類ヲ分テ編綴シ冊尾ニ聯隊區司令官又ハ警備
隊司令官署名押印スヘシ

第二十五條 條例第三十四條ノ徵兵表ハ附錄第七様式ニ準シ之ヲ作ルヘシ

第二十六條 壯丁名簿進達前市ニ在テハ調製前他ノ市町村ニ轉籍スル者アルトキハ市町村長ヨリ
本人徵兵適齡屆書ヲ添ヘ轉籍地ノ市町村長ニ通知スヘシ但シ原籍地東京市、京都市、
大阪市ナルトキハ區長ヨリ又轉籍地同三市ナルトキハ區長ニ通知スヘシ
第二十七條 壯丁名簿進達後條例第三十一條ノ處分前名簿ニ關スル異動ヲ生シタル者若
クハ他ノ市町村ヨリ入籍シタル者アルトキハ町村長直ニ之ヲ島司郡長ニ報告シ抽籤前
ハ島司郡長其ノ名簿ヲ訂正加除シ抽籤後ニ在テハ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官
ニ通知スヘシ

市ニ在テ壯丁名簿調製後抽籤前本條ニ當ル者アルトキハ市長東京市、京都市、大
阪市ニ在テハ區長其ノ
名簿ヲ訂正加除シ抽籤後條例第三十一條ノ處分前ニ在テハ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備
隊司令官ニ通知スヘシ

第二十八條 現役兵入營前及補充兵補充兵證書付與後其ノ年
十一月三十日以前ノ者ノ名簿ニ關スル異動轉入籍
ヲ生シタルトキハ直ニ町村長之ヲ島司郡長ニ報告シ島司郡長ハ聯隊區司令官又ハ警備
隊司令官ニ通知スヘシ

市ニ在テハ前項ノ異動ハ市長直ニ聯隊區司令官ニ通知スヘシ但東京市京都市大阪市ニ
在テハ區長ヨリ聯隊區司令官及市長ニ通知スヘシ

第二十九條 壯丁名簿受領後市ニ在テ
ハ調製後身體検査前當該徵募區若ハ検査區外ニ轉籍スル者
アルトキハ島司郡市長ヨリ壯丁名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知スヘシ但シ
原籍地東京市、京都市、大阪市ナルトキハ區長ヨリ又轉籍地同三市ナルトキハ區長ニ通

知スヘシ

第三十條 身體検査後條例第三十一條ノ處分前他ノ徵募區ニ轉籍スルモ總テ舊徵募區ニ於テ之ヲ處分スルモノトス

第三十一條 抽籤後徵募延期徵集猶豫若クハ入營延期翌年回ト爲リタル者ノ名簿ニ關スル異動ヲ生スル者アルトキハ町村長之ヲ島司郡長ニ報告シ島司郡長ハ其ノ名簿ヲ訂正加除スヘシ但市ニ在テハ市長東京市、京都市、大之ヲ訂正加除スヘシ

其ノ徵募區外又ハ検査區外ニ轉籍スル者ハ島司郡市長ヨリ前項ノ名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知スヘシ但シ原籍地東京市、京都市、大阪市ナルトキハ區長ヨリ又轉籍地同三市ナルトキハ區長ニ通知スヘシ

第三十二條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官條例第四十九條現役兵入營前及補充兵轉籍ノ通報ヲ受ケタルトキハ之ヲ島司郡市長ニ通知シ島司郡長ハ町村長ニ達スヘシ但シ東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長ニモ通知スヘシ

第三十三條 徵兵令第十三條第五項及條例第六十四條ニ該ル者アルトキハ市町村長東京京都市、大阪市ニ在リテハ區長ハ戶籍ニ基キ壯丁名簿ヲ作り町村長ハ島司又ハ郡長ニ之ヲ差出スヘシ但シ徵兵令第十三條第五項該當者ニシテ既ニ壯丁名簿調製済ノモノハ此ノ限ニ在ラ

ズ
徵兵令第二十五條ニ依リ適齡屆チ爲スヘキ期間ニ於テ戶主未定若ハ失踪等ノ場合ニ在リテモ亦前項ニ依リ取扱フモノトス

第三十四條 現役兵入營ノ期ニ先タチ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ現役兵入營地若クハ集合地ニ到ル日數ヲ量リ召集ノ場所及日時ヲ定メ島司郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ

各自ニ達スヘシ但シ東京市、京都府、大阪市ニ在テハ尙ホ區長ヲ經由スヘシ

聯隊區外又ハ警備隊區外ニ轉籍シタルモノニ在テハ舊住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ其ノ召集ノ場所及日時ヲ新住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知シ新住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ前項ノ例ニ依リ之ヲ各自ニ達スヘシ

第三十五條 入營兵集合地ハ第七師管以外ヨリ徵集スル第七師團兵ニ在リテハ青森、臺灣、澎湖島、軍隊ノ兵員ニアリテハ門司及下關、旅順、鎮海、重砲兵ニアリテハ宇品トス

第三十六條 現役兵ヲ入營セシムルトキハ聯隊區司令部員又ハ警備隊司令部員ヲ入營地若ハ入營兵集合地ニ派遣シ之ヲ當該隊長海軍人事部長又ハ入營兵受領員ニ交付セシム入營ノ人員寡少ナルトキ及入營兵受領員出發後到着シタル者ハ直ニ入營セシム

沖繩警備隊區ヨリ徵集ノ現役兵入營ノトキハ地方吏員之ヲ引率シ第一項ノ取扱ヲ爲スモノトス

第三十六條ノ二 入營兵集合地ニ集合スヘキ兵員ニシテ入營地附近ニ居住スル爲集合地ニ至ルヲ不便トスル者ハ集合地ニ集合スルコトナク直ニ入營スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ集合地到着日前成ルヘク早ク豫メ本籍地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官及市町村長東京市、京都市、大ニ届出ヘシ

第三十七條 第三十五條ノ兵員入營ノ期ニ先チ第七師團司令部、臺灣總督府陸軍部、關

東部督府陸軍部、韓國駐劄軍司令部入營兵集合地ヨリ入營地ニ至ル日數ヲ量リ集合地到着ノ日割ヲ定メ豫メ之ヲ各聯隊司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ
臺灣澎湖島旅順及鎮海灣ノ軍隊ニ入營スヘキ兵員及他ノ師管ヨリ十二月第七師團ニ入營スヘキ兵員ハ十日間以内ニ於テ二回若ハ三回ニ分チ入營セシムルコトヲ得
但其ノ期日ハ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第三十七條ノ二 警備隊兵及輜重輸卒チ數期ニ分チ入營セシムルニハ第二十二條ノ徵集順序ニ依ル其ノ各期ニ於ケル入營兵ノ員數ヲ聯隊區、警備隊區、徵募區ニ配當スルハ概テ同區ニ於ケル同兵種現役兵徵集人員ノ數ニ比例スルモノトス
第三十七條ノ三 警備隊兵及輜重輸卒ニシテ徵兵令第二十七條ニ該當シ入營シ難キ者ハ次期ニ繰リ下ケ入營セシメ其ノ終期ニ於テ入營シ難キ者ハ次年徵募ノ現役兵ト同時ニ入營セシム

前項ノ者ノ中傷痍疾病ノ者ハ徵兵検査ノ際身體検査ヲ爲シ徵集ニ適セサル者ハ徵集免除若ハ兵役免除ノ處分ヲ爲スモノトス
第一項ニ依リ入營チ次年ニ繰リ下ケタル者アルトキハ之ヲ翌年ノ配賦要員中ニ加フルモノトス

第三十八條 條例第四十四條ノ入營延期願濟ノ者其ノ他事故不參ノ者アルトキハ聯隊區司令官又ハ入營地或ハ集合地派遣ノ聯隊區又ハ警備隊司令部員 聯隊區司令部所在ノ入營地ニ在テハ聯隊區司令官若ハ入營兵引率員ヨリ當該隊長海軍人事部長又ハ入營兵受領員ニ其ノ由チ通知スヘシ

第三十九條 條例第四十六條ニ依リ陸軍補充兵若クハ海軍補充兵ヲ以テ現役兵ノ缺員ヲ補フニハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ其ノ取扱ヲ爲スヘシ但他ノ聯隊區又ハ

警備隊區ニ轉籍シタル者ニシテ入營セサル者ノ補缺ハ轉籍地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ノ通知ヲ得テ取扱ヲ爲スヘシ

條例第四十六條第五項ニ依リ現役兵ノ關員ヲ補フ場合ニハ師團長ハ陸軍大臣ノ許可ヲ受ケヘシ

現役兵入營後ノ補決ハ各隊長被服本廠長同支廠長又ハ海軍人事部長ヨリ當該聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スルモノトス

條例第四十六條ニ依ル現役兵ノ補充ハ同條規定ノ期日ニ入營セシムルヲ得ル場合ニ於テハ必ス其ノ補充ヲ爲スヘキモノトス但シ師管内ヨリ補充スル能ハサルトキハ師團長之ヲ陸軍大臣ニ具狀スヘシ

第四十條 入營地又ハ集合地派遣ノ聯隊區司令部員又ハ警備隊司令部員ハ現役兵交附ノ際ニ於テ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタル者アルトキハ一時入營チ差止メ其ノ診斷證書ヲ添ヘ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ具申スヘシ

聯隊區司令官又ハ經理隊司令官條例第四十七條ニ依リ兵役ヲ免スル場合ニハ其診斷證書ハ師團軍醫部長ノ審査ヲ經ヘキモノトス

第四十條ノ二 臺灣、澎湖島、旅順及鎮海灣ニアル軍隊ニ入營スル兵員ハ集合地ニ於テ身體検査ヲ施行ス

前項身體検査ノタメ集合地所管ノ師團長ハ所管内ノ軍醫一名ヲ臨時集合地ニ差遣ハス

ヘシ但シ受領員中ニ軍醫アルトキハ此ノ限ニアラス
集合地ニ於テ身體検査ヲ行フタメ必要ノ事項ハ受領員ヲ派遣スル部隊ヨリ之ヲ關係師
團長ニ通報スヘシ

第四十條ノ三 現役兵入營ノ際施行スル身體検査及前條集合地ニ於テ施行スル身體検査
ニ於テ傷疾若ハ疾病ノタメ二箇月以後ニアラサレハ教育ヲ施スヲ得スト認ムルモノア
ルトキハ當該隊長被服本廠長同支廠長若ハ海軍人事部長又ハ入營兵受領員之ヲ歸郷セ
シメ其旨ヲ本籍地所管ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通報スヘシ但シ警備隊兵ニ
アリテハ一ヶ月以後輜重輸卒ニアリテハ十日以後ニアラサレハ教育ヲ施スヲ得スト認
ムルモノヲ歸郷セシムルモノトス

前項ニ依リ歸郷セシメタルモノハ徵兵令第二十七條ニ該ルモノトシテ取扱ヘシ

第四十條ノ四 前條ニ依リ歸郷セシメタル者及事故ニ依リ其ノ年入營スルヲ得サル者ノ
現役兵名簿ハ直ニ當該隊長、被服本廠長、同支廠長又ハ海軍人事部長ヨリ本籍地所管
ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付スヘシ

第四十一條 市町村長東京市、京都市、大 現役兵及補充兵役輜重輸卒ニ決定シタル者ノ
戶籍抄本海軍ニアリテ 作リ町村長ハ之ヲ島司郡市長ニ送付シ島司郡市長東京市、京都
在リテ大阪府、大阪市ニ 區長ハ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付シ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官

ハ現役兵戶籍抄本又ハ戶籍謄本ヲ當該隊長被服本廠長、同支廠長又ハ海軍人事部長ニ
送付スヘシ現役兵ニシテ入營前、補充兵役輜重輸卒ニシテ徵集年ノ十二月一日前其ノ
戶籍抄本又ハ戶籍謄本記載事項ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ
陸軍補充兵輜重輸卒ニシテ初テ召集ニ應スルトキハ町村長及島司郡市長東京市京都市
區長ハ第一項ノ例ニ依リ召集令達後六日以内ニ戶籍抄本ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司
令官ニ送付スヘシ

戶籍抄本ハ兵籍ヲ調製スルニ必要ナル諸件ヲ掲グルモノトス

第四十二條 條例第四十九條及本則第二十八條ニ當ル現役兵入營前ノ異動ハ海軍人事部
長又ハ警備隊司令官條例第四十九條ノ異動ハ轉籍地ノヨリ各隊長被服本廠長同支廠長
又ハ鎮守兵官ニ通知スヘシ

第四十三條 現役兵入營前徵集延期者クハ入營延期翌年回ト爲リタル者又ハ兵役免除ト
爲リタル者ノ名簿ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ島司郡市長ニ送附スヘシ但東
京市京都市大阪市ニ在テハ尙ホ市長ヨリ區長ニ送附スヘシ

前項ノ名簿中入營延期翌年回ト爲リタル者ノ名簿ハ島司郡市長東京市、京都市、大
之ヲ徵集延期名簿ニ編入スヘシ阪市ニ在テハ區長

第四十四條 補充兵ニシテ未タ教育ヲ終ラサル者他ノ徵募區ニ轉籍抽籤後其ノ年十一月
含スシタルトキハ第二十二條ニ依リ其ノ徵集順序ヲ定メ抽籤番號ヲ有スル者ニ在リテ
ハ新住地徵募區及抽籤ヲ施行シタル徵募區同種補充兵最高抽籤番號ヲ率トシ比例ヲ定

テ相當番號ノ上位ニ列セシムヘシ但シ比例算出上端數ヲ生スルトキハ之ヲ切り捨ツル
モノトス

前項ノ轉籍者二人以上アリテ比例ニ依リ算出シタル番號同一ナルトキハ第二十二條第
一號割註ニ準シ徵集順序ヲ定ムヘシ

第四十五條 前條ノ轉籍者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ島司郡市長ニ
通知スヘシ但シ東京市、京都市、大阪市ニ在テハ尙ホ區長ニ通知スヘシ

其ノ轉籍聯隊區外又ハ警備隊區外ニ係ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官其ノ名
簿ヲ添ヘ抽籤ヲ施行シタル徵兵區ノ同種補充兵最高ノ抽籤番號ヲ轉籍地ノ聯隊區司令
官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ

第四十六條 現役兵入營前及補充兵ニシテ轉籍シタル者ノ現役兵證書補充兵證書ハ總テ
轉籍地ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ訂正スヘシ

第四十七條 現役兵證書、補充兵證書ヲ失ヒ又ハ損傷シタル者ハ更ニ下渡ヲ聯隊區司令
官又ハ警備隊司令官ニ請求シ徵集延期證書、徵集猶豫證書及兵役免除證書ヲ失ヒ又ハ
損傷シタル者ハ更ニ下渡ヲ島司郡市長ニ在テハ區長以下同シニ請求スヘシ

第四十八條 條例第五十條ノ召集ノ命アルトキハ之ヲ通知スヘキ者ハ成年以上ノ者ニ限
ル

第四十九條 條例第五十三條及第六十三條ニ依リ身體検査ヲ受ケンコトヲ希望スル者ハ

寄留地者ハ検査地ノ島司郡市長ニ願出テ且其ノ由ヲ本籍地ノ市町村長東京市、京都市、
大阪市ニ在リテ
ハ區ニ届出ヘシ其ノ願出ヲ取消サントスル者及更ニ寄留換ヲ爲シ其ノ地ニ於テ身體檢
査ヲ受ケントスル者亦同シ但シ身體検査ニ關スル願書ハ町村ニ在リテハ町村長ヲ經由
スヘキモノトス

前項寄留換ノ場合ニ於テハ前願出ヲ爲シタル島司郡市長ニモ届出ヘシ
第一項ノ願出期日ハ本籍地及寄留地若ハ検査地徵集區ノ検査開始前三十日迄ニ限ルモ
ノトス

島司郡市長第一項ノ願出ヲ許可シタルトキハ直ニ之ヲ本籍地ノ島司郡市長ニ通知シ其
ノ通知ヲ受ケタル島司郡市長ハ其ノ壯丁名簿若ハ前年ノ假決名簿ヲ直ニ寄留地又ハ檢
査地ノ島司郡市長ニ送附スヘシ

身體検査若ハ抽籤終ルトキハ前項ノ名簿ニ検査ノ結果及抽籤番號ヲ記入シ之ニ検査ヲ
行ヒタル徵集區同種兵最高ノ番號ヲ添ヘ直ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ヨリ本
籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ送付スヘシ但シ對馬警備隊區ニ於テ身體檢
査ヲ受ケタル者ニ在リテハ抽籤ヲ施行セス該名簿ニ検査ノ結果ノミヲ記入シ之ヲ本
籍地ノ島司郡市長ニ送附スルモノトス

島司郡市長前項但書ノ名簿ヲ受領シタルトキハ聯隊區徵兵器、聯隊區聯合徵兵器又ハ
警備隊區徵兵器開設ノトキ之ヲ同署ニ提出スヘシ但シ抽籤ヲ要スルモノニシテ當該徵

兵署閉鎖後師管内各徵兵署閉鎖前ニ到着シタルトキハ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送附シ一般ノ例ニ依リ同聯隊區若ハ警備隊區内又ハ同師管内便宜ノ徵兵署ニ於テ抽籤ヲ施行シ其ノ徵集順序ヲ定ムルモノトス

第一項ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十九條ノ二 條例第五十八條ノ二ニ該當スル者ハ其ノ壯丁名簿若ハ假決名簿ヲ本籍地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ検査ヲ施行スル徵募區ノ徵兵官ニ送附シ條例第五十三條該當者ノ例ニ依リ取扱フモノトス

第五十條 本籍徵募區以外ノ地ニ於テ身體検査又ハ抽籤ヲナシタルモノノ名簿條例第三十一條ノ處分迄ニ到着セサルトキハ其ノ年ニ於ケル検査又ハ抽籤ノ成績ニ依リ翌年假決若ハ終決ノ處分ヲナスヘシ但シ丙種、丁種及戊種ノモノニアリテハ條例第三十一條ノ處分後到着シタルモノト雖徵兵事務報告書進達前ニ在リテハ其ノ年終決ノ處分ヲナスヘキモノトス

第五十一條 條例第五十一條ノ願書ハ附錄第八樣式ニ依リ身元證書ハ附錄第九樣式ニ依リ合格證書ハ附錄第十樣式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第五十一條ノ二 條例第五十一條ニ依リ陸軍現役兵ヲ志願スル者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ願書其ノ他ニ依リ壯丁名簿ノ樣式ニ準シ其ノ名簿ヲ作り志願ヲ許可シタル者ニ在リテハ之ヲ現役兵名簿ニ添綴スヘシ其ノ旨ヲ本籍市町村長市

京都市、大阪市ニ通知スヘシ
ニ在リテハ區長
前項現役兵志願者ノ名簿及現役兵證書ニハ徵兵令第十二條ノ志願者ナルコトヲ記入スルモノトス

第五十二條 他ノ徵募區ニ於テ身體検査又ハ抽籤ヲ爲シタル者ハ第二十二條ニ依リ其ノ徵集順序ヲ定メ其ノ抽籤番號ヲ有スル者ニ在リテハ本籍地徵募區及抽籤ヲ行ヒタル徵募區同種兵ノ最高番號ヲ率トシ比例ヲ以テ本籍地相當番號ノ上位ニ列セシム但シ比例算出上端數ヲ生スルトキハ之ヲ切り捨ツルモノトス

第五十三條 現役兵若ハ補充兵ニシテ志願兵一年志願兵ヲ除クテ志願スルモ其ノ入營又ハ服役ヲ猶豫セス但シ現役兵ニシテ十二月十五日以前ニ、補充兵ニシテ召集前ニ志願兵ニ採用セラレ之ニ應シタルトキハ現役兵又ハ補充兵ノ服役ヲ解クモノトス

軍隊、官衙、學校長ハ志願兵トシテ兵籍ニ編入シタル者ノ人名ヲ速ニ本籍地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知シ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ前項但書ノ取扱ヲ爲スヘシ

第五十四條 現役兵又ハ補充兵ニシテ一年志願兵ニ採用セラレタル者一年志願兵ノ資格ヲ失ヒタルトキハ入營前ト入營後トヲ問ハス現役ニアリテハ直ニ之ヲ徵集シ補充兵ニ在リテハ補充兵役ニ服セシム但シ其ノ現役兵ニシテ條例第四十六條第一項ノ補充期間ニ入營セシメ得サル者ニアリテハ徵兵令第二十七條該當者ノ例ニ依リ取扱フモノトス

第五十五條 聯隊區司令官、警備隊司令官ハ一年志願兵志願者ノ人名簿ヲ調査シ第五十

四條ニ依ル取扱ノ資ニ供スヘシ

第五十六條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ成ルヘク條例第五十三條第五十八條ノ二第六十三條及明治三十九年陸軍省令第十六號第九條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ身體検査若ハ抽籤ヲ受ケタル者ノ名簿ヲ受領シタル後條例第三十一條ノ處分ヲ爲スヘシ

第五十七條 近衛第七、第八、第十二、第十五及第十八師團司令部及臺灣總督府陸軍部ハ條例第十八條ノ配賦ニ基キ現役兵ノ入營スヘキ隊號ヲ定メ之ヲ第二十三條ノ現役兵證書調製ニ差支ナキ様當該師團司令部ニ通報スヘシ但シ第七師團及臺灣總督府陸軍部ニ在リテハ第三十七條第二項ノ入營期日、第七師團、第十二師團及第十八師團ニ在リテハ第三十七條ノ二ノ入營人員ヲモ通知スルモノトス

關東都督府陸軍部及韓國駐劄軍司令部ハ前項ニ準シ第三十七條第二項ノ入營期日ヲ當該師團司令部ニ通報スヘシ

第五十七條ノ二 徵兵令第十三條第五項ニ該當スル者ハ更ニ教職ニ就クト雖同項ノ規定ニ依リ之ヲ徵集スルモノトス但シ其ノ者ニシテ同條第一項ノ學校ニ入學シ條例第五十五條ノ手續ヲ爲ストキハ其ノ徵集ヲ猶豫スヘシ

第五十七條ノ三 徵兵令第十三條第五項又ハ同第二十三條第二項ニ該當スル者ニシテ其ノ教職ヲ罷メタルトキ滿二十八歳以下又ハ歸朝ノトキニ於テ滿三十二歳以下ナルトキハ之ヲ徵集スルモノトス

第五十七條ノ四 徵兵令第十三條第一項ニ掲クル學校ニ在校ノ者ト雖其ノ年十二月一日ニ於テ滿二十八歳ヲ過クル者ハ其ノ徵集ヲ猶豫セサルモノトス

第五十七條ノ五 徵兵令第十二條ニ依リ陸軍現役兵ノ志願ヲ許可シタル者條例第四十七條第四十八條ノ事故ヲ生シタルトキ又ハ第四十條ノ三ニ依リ歸郷ヲ命セラレタルトキハ單ニ志願兵ヲ免スルモノトス

第五十七條ノ六 本令中警備隊司令官トアルハ沖繩警備隊區ニ在リテハ警備隊區司令官、郡長、郡書記トアルハ北海道ニ在リテハ支廳長、支廳屬、市長、市書記トアルハ北海道及沖繩縣ニ在リテハ區長、區書記、町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ戶長其ノ他町村長ニ準スヘキ者ニ該當ス

附則

第五十八條 第二條中明治二十八年勅令第百二十六號第三條ニ當ル者ノ人名書ハ明治二十九年ニ於テハ明治二十八年陸軍省令第三十號第三項ニ依リタル名簿ヲ以テ之ヲ換フヘシ

第五十九條 (削除)

(様式略)

徵兵検査規則

(明治四十二年三月 陸軍省令第六號)

徵兵検査規則左記ノ通改正ス

徵兵検査規則

第一條 徵兵並徵兵令第十二條及第十三條ニ依ル志願兵ノ身體検査ハ本規則ニ依リ施行スルモノトス

前項ノ検査ニハ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

第二條 左ノ疾病畸形ノ者ハ不合格トス

- 一 惡性腫瘍
- 二 骨軟化、佝僂病
- 三 象皮腫、癩
- 四 動脈瘤
- 五 癩癧
- 六 白癩
- 七 癲狂
- 八 盲
- 九 耳殼若クハ鼻ノ全缺スルモノ

- 十 聾
 - 十一 啞
 - 十二 唇、齒牙、口内ノ疾病ニシテ官能ニ大ナル妨アルモノ
 - 十三 食道狭窄
 - 十四 脊梁、骨盤ノ畸形ニソテ運動ニ大ナル妨アルモノ
 - 十五 歐兒尼亞
 - 十六 關節畸形
 - 十七 習癖脱臼
 - 十八 支肢ノ短縮、彎曲
 - 十九 指節ノ強剛ニシテ把握ニ大ナル妨アルモノ
 - 二十 拇指若クハ示指若クハ二指以上ヲ失ヒタルモノ
 - 二十一 翻足
 - 二十二 第一趾ヲ失シタルモノ若クハ三趾以上ヲ失シタルモノ
- 前項ノ疾病畸形中輕症ニシテ服役シ得ヘキモノハ合格トシ爾餘ノ疾病畸形ト雖モ服役シ得ヘカラサルモノハ不合格トス
- 第三條 體格ノ等位ヲ區別スルコト左ノ如シ
- 一 甲種 身長五尺以上ニシテ身體強健ナルモノ

- 二 乙種 身長五尺以上ニシテ身體甲種ニ亞クモノ其ノ體格比較的良好ナルモノヲ第一乙種トシ之ニ亞クモノヲ第二乙種トス
 - 三 丙種 身長五尺以上ニシテ身體乙種ニ亞クモノ及身長五尺未滿四尺八寸以上ニシテ丁種戊種ニ當ラサルモノ
 - 四 丁種 第二條ニ當ルモノ及身長四尺八寸ニ滿タサルモノ
 - 五 戊種 徵兵令第二十條第一項第二項ニ當ルモノ
- 第四條 徵兵ハ前條ノ甲種乙種及丙種ヲ合格トシ其甲種及乙種ハ現役ニ徵スヘキモノ丙種ハ國民兵役ニ入ルヘキモノトシ丁種ヲ不合格戊種ヲ徵集延期トス
- 徵兵令第十二條及第十三條ノ志願兵ハ前條ノ甲種及乙種ヲ合格トシ丙種丁種及戊種ヲ不合格トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍志願兵身體檢査規則ハ之ヲ廢止ス

徵兵旅費規則

(明治三十年十月十二號) 內務省令第三十二號

北海道廳 府縣

明治二十年十月十二號 大藏省令第十七號徵兵旅費規則左ノ通改正シ明治三十年十月ヨリ施行ス

徵兵旅費規則

第一條 徵兵旅費ハ檢査入營ノ二種ニ分チ之ヲ支給ス

- 一 檢査旅費ハ檢定及呼出ニ係ル檢丁ノ父兄癩疾不具等ノ者ニ同伴シタル保護人抽籤人等居住地ヨリ檢査所又ハ抽籤所ニ往返ノ旅費トス
- 一 入營旅費ハ新兵居住地ヨリ營所ニ至ルノ旅費トス

第二條 檢査旅費ハ左ノ規定ニ依ル

- 一 片道三里已上ヲ旅行里數ニ應シ陸路雜費一里ニ付金五錢ヲ支給ス但一里未滿ノ端數ハ切捨トス
- 二 官ノ都合ニ依リ特ニ滞在ヲ命シタルトキハ日數ニ應シ滞在日當金四十錢ヲ支給ス
- 三 川留雪支等ニテ旅行途中ニ滞在スルトキハ其ノ地市區町村長戸長及ヒ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添ヘ請求スルトキハ滞在日當金四十錢ヲ支給スルコトヲ得
- 四 片道三里已上ノ旅行ニシテ渡航ニ在ラサレハ至リ難キ場所若クハ地勢上渡航又ハ汽車乗用ヲ便トスルトキハ第一等ノ陸路雜費ヲ給セス渡航賃汽車賃ノ下等實費ヲ

支給ス

- 五 第四條ノ場合ニ於テハ尙夜數ニ應シ宿泊料金三十錢ヲ給ス其ノ徒歩旅行ト跨ル日ハ其ノ徒歩旅行ニ對シテハ第一號ノ陸路雜費ヲ支給ス
- 六 渡航賃及ヒ汽車賃ノ實費ヲ給スル場合ニ於テ下等賄ノ實費ヲ給スルコトヲ得
- 七 片道三里未滿ノ旅行ト雖モ渡航ニ在ラサレハ蓋シ難キ場所ハ渡航賃ノ下等實費ヲ支給スルコトヲ得
- 八 片道三里未滿ノ旅行ト雖モ官ノ都合ニ依リヨリ宿泊ヲ命シタルトキハ夜數ニ應シ宿泊料金三十錢ヲ支給ス
- 第三條 檢丁若クハ呼出ニ係ル檢丁ノ父兄癡疾不具ニシテ歩行シ能ハサルトキハ第二條第一號陸路雜費ノ外尙ホ片道一里以上ヨリ里數ニ應シ金十錢ノ車馬賃ヲ支給ス但シ一里未滿ノ端數ハ切捨トス
- 第四條 入營旅費ハ左ノ規定ニ依ル
 - 一 片道三里以上ノ旅行ヨリ里數ニ應シ陸路一里ニ付金八錢ヲ支給ス但一里未滿ノ端數ハ切捨トス
 - 二 第二條ノ第二號乃至第八號ハ入營旅費ニ適用シ滞在日當ハ金四十五錢宿泊料ハ金四十錢トス
 - 二ノ二 官用ノ船舶ニテ渡航スル場合ニ於テ官ヨリ賄ヲ爲ササルトキハ日數ニ應シ食卓料金五十錢ヲ支給ス
- 三 新兵入營ノ旅行ハ一日十二里詰トシ若シ集合上ノ都合等ニ依リ其見積リ行程ヨリ延著セシメタルトキハ増日數ニ應シ滞在日當ノ額ヲ支給ス
- 四 新兵入營旅行中疾病ニ罹リ歩行シ能ハスシテ馬車等ヲ要シ又ハ滞在シタルトキハ附添吏員ノ證明書醫師ノ診斷書ヲ添へ請求スルトキハ車馬賃等ノ實費又ハ滞在日當ヲ支給スルコトヲ得

附 則

- 第五條 北海道廳管内ニ限り第二條第一號ノ陸路雜費ハ金八錢第三條ノ車馬賃ハ金拾三錢第四條第一號ノ陸路雜費ハ金拾錢滞在日當及宿泊料ハ總テ金五拾五錢トス
- 第六條 臺灣總督府管内ニ限り第四條ノ支給額ハ總テ其ノ倍額トス

陸軍一年志願兵條例 (明治三十七年三月勅令第八十四號)

朕陸軍一年志願兵條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍一年志願兵條例

- 第一條 徵兵令第十三條ニ依リ一年志願兵ト爲ル者ハ志願ノ隊本籍ノ在ル師管内ノ軍隊ニ於テ服役セシム但シ軍事上ノ必要アルトキハ他ノ師管内ノ軍隊ニ於テ服役セシムルコトアルヘシ
- 第二條 一年志願兵ノ兵科ハ本人ノ冀望ト軍事上ノ必要トニ依リ之ヲ定ム
- 第三條 一年志願兵出願者ニシテ左ノ各號中第一號ニ該當スル者ハ主計生、第二號ニ該當スル者ハ軍醫生、第三號ニ該當スル者ハ藥劑生、第四號ニ該當スル者ハ獸醫生タラムコトヲ志願スルコトヲ得
 - 一 專門學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ法律又ハ經濟ノ課程ヲ卒業シタル者
 - 二 醫術開業免狀ヲ有シ又ハ之ヲ受クヘキ資格アル者
 - 三 藥劑師免狀ヲ有シ又ハ之ヲ受クヘキ資格アル者
 - 四 獸醫開業免狀ヲ有シ又ハ之ヲ受クヘキ資格アル者
- 第四條 一年志願兵ハ營内ニ居住セシム但シ入營後六箇月ヲ經過シタルトキハ聯隊長外泊ヲ許シ通勤セシムルコトヲ得

- 第五條 一年志願兵ニハ給料入營旅費及歸郷旅費ヲ給セス
- 第六條 一年志願兵ニハ所屬隊ニ於テ糧食、彈藥ヲ給シ兵器、被服等ヲ貸與ス
騎兵科ノ者ニハ前項ノ外馬匹ヲ貸與ス
- 第七條 一年志願兵ノ服役ニ關スル費用ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ納付セシム
- 第八條 一年志願兵ハ現役滿期ノ後六年四箇月豫備役ニ、豫備役滿期後十箇年後備役ニ服セシム但シ第二十七條及第二十八條ニ依リ豫備役ニ編入セラレタル者ノ豫備役年期ハ現役期間ヲ通算シテ七年四箇月トス
- 第九條 一年志願兵タラムトスル者ハ本籍所在師管ノ師團長ニ願出テ身體検査又ハ身體検査及學術試験ヲ受クヘシ但シ其ノ検査及試験ハ寄留地所在師管ニ於テ之ヲ受クルニトヲ得
前項出願ノ期日手續並検査及試験ニ關スル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム
- 第十條 本籍所在師管ノ師團長ハ合格ノ者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ不合格ノ者ニハ其ノ旨ヲ通知スヘシ
- 第十一條 一年志願兵認定證書ヲ有スル者入營前左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ認定證書ヲ返還セシム
 - 一 傷痍又ハ疾病ニ依リ服役ニ堪ヘ難キトキ
 - 二 陸海軍ノ兵籍ニ編入スヘキ諸生徒候補生等ヲ命セラレタルトキ

三 本人ヲ要スルニ非サレハ一家ノ生計ヲ營ミ難キトキ

第十二條 一年志願兵ノ入營期日ハ毎年十二月一日トス但シ戰時又ハ事變ノ際其ノ他必要ノ場合ニ於テハ之ヲ變史スルコトアルヘシ

第十三條 一年志願兵認定證書ヲ有スル者傷疾疾病其ノ他止ムヲ得サル事故ニ依リ所定ノ期日ニ入營シ難キトキハ其ノ入營ヲ延期スルコトヲ得

第十四條 入營ヲ延期セラレタル者十二月三十一日迄ニ入營シ難キトキハ翌年入營セシム

前項ニ依リ翌年入營セシムヘキ者仍其ノ年ニ入營シ難キトキハ一年志願兵認定證書ヲ返還セシム

第十五條 (削除)

第十六條 一年志願兵ノ教育ハ聯隊長其ノ責ニ任ス

第十七條 一年志願兵ハ入營後四箇月一般ノ兵卒ト同一ノ教育ヲ爲シ之ニ一等卒ヲ命シ二箇月以上通常教育ノ外特別ノ教育ヲ爲シ之ニ上等兵ヲ命シ下士及士官ノ勤務ヲ練習セシム其ノ成績ノ優秀ナルトキハ伍長ノ階級ニ進ムルコトヲ得
一等卒上等兵ヲ命シ又ハ伍長ノ階級ニ進ムル聯隊長ニ於テス

第十八條 第三條第一號、第二號又ハ第三號ニ該當スル者ハ步兵隊ニ於テ、同條第四號

ニ該當スル者ハ騎兵隊、砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ於テ六箇月間前條ニ依リ教育ヲ爲シタル後上等兵ヲ命シ之ヲ主計生、軍醫生、藥劑生又ハ獸醫生ト爲シ各専門ニ關スル下士及士官ノ勤務ヲ練習セシム

主計生ハ師團經理部長、軍醫生及藥劑生ハ師團軍醫部長、獸醫生ハ師團獸醫部長師團長ノ認可ヲ受ケ之ヲ命ス

第一項ノ期間ハ戰時又ハ事變ニ際シテハ之ヲ四箇月ニ短縮スルコトヲ得

第十九條 専門勤務ニ關スル教育ハ主計生ニ在リテハ隊附高級主計、軍醫生ニ在リテハ隊附高級醫官、藥劑生ニ在リテハ衛戍病院長、獸醫生ニ在リテハ隊附高級獸醫官各其ノ責ニ任シ師團經理部長、師團軍醫部長、師團獸醫部長各其ノ教育ヲ監督ス

第二十條 専門勤務ヲ練習スル者ニシテ其ノ成績優秀ナルトキハ其ノ教育ヲ監督スル諸官ニ於テ主計生ハ三等計手ノ階級ニ、軍醫生藥劑生ハ三等看護長ノ階級ニ、獸醫生ハ三等蹄鐵工長ノ階級ニ進ムルコトヲ得但シ三等蹄鐵工長ノ階級ニ進ムハ師團獸醫部長ノ意見ニ依リ聯隊長ニ於テスルモノトス

第二十一條 一年志願兵ハ戰時又ハ事變ニ際シ通常ノ現役勤務ニ服セシムルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ階級相當ノ給料ヲ給シ服役ニ關スル費用ハ之ヲ官費トス
第二十二條 一年志願兵ハ現役滿期前終末試験ヲ施行ス其ノ方法ハ師團長之ヲ定ム

(72)

第二十三條 終末試験ヲ終リタルトキハ試験ノ成績ト平素ノ勤務トヲ參酌シ及第者ニハ豫備役編入ノ際終末試験及第證書ヲ付與シ各兵科ノ者ハ軍曹ニ、主計生ハ二等計手ニ任シ軍醫生及藥劑生ハ二等看護長ノ階級ニ、獸醫生ハ二等蹄鐵工長ノ階級ニ進ム

終末試験及第證書ヲ付與セサル者ニシテ下士ノ技能アル者ハ豫備役編入ノ際各兵科ノ者ハ伍長ニ、主計生ハ三等計手ニ、軍醫生及藥劑生ハ三等看護長ニ、獸醫生ハ三等蹄鐵工長ニ任シ主計生、軍醫生、藥劑生、獸醫生ニシテ下士ノ技能ナキ者ハ之ヲ免ス

前二項ニ依リ及第證書ヲ付與シ、下士ニ任シ下士ノ階級ニ進メ又ハ主計生、軍醫生、藥劑生、獸醫生ヲ免スルハ師團長ノ命ニ依リ主計生ニ在リテハ師團經理部長、軍醫生及藥劑生ニ在リテハ師團軍醫部長其ノ他ニ在リテハ聯隊長之ヲ爲スモノトス但シ獸醫生ヲ免スルハ師團獸醫部長ニ於テスルモノトス

第二十四條 一年志願兵ニシテ傷疾疾病等ニ因リ終末試験ヲ受ケサル者ハ現役滿期後一箇年以内ニ於テ終末試験ヲ受クルコトヲ得

前項ニ依リ終末試験ヲ受ケタル者ハ前條ノ例ニ依ル

第二十五條 前條ニ依リ終末試験ヲ受ケサル者ハ第二十三條第二項及第三項ニ準シ伍長同相當官ニ任シ又ハ主計生、軍醫生、藥劑生、獸醫生ヲ免ス

第二十六條 一年志願兵ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ第十七條及第十八條ノ例ニ依ラス二等卒ト爲シ一般ノ兵卒ト同一ノ教育ヲ爲シ其必要ニ應シ現役滿期ノ後毎年六

十日間勤務演習ノ爲召集ス之ニ要スル費用ハ自辨トス

一 怠慢ニシテ勤務習得ノ見込ナキ者

二 軍紀ヲ紊リ、屢法則ヲ犯シ又ハ品行不正ニシテ改悛ノ見込ナキ者

前項ニ依リ勤務演習ニ召集スル者ニハ第五條第六條及第七條ノ規定ヲ準用ス

第二十七條 一年志願兵中第十一條第三號ニ該當スル者アルトキハ師團長ハ聯隊長ヲシテ其ノ現役ヲ免シ豫備役ニ編入セシム

第二十八條 一年志願兵中傷疾又ハ疾病ニ因リ服役ニ堪ヘ離キ者アルトキハ師團長ハ聯隊長ヲシテ現役ニ堪ヘサル者ハ豫備役ニ編入シ常備後備ノ役ニ堪ヘサル者ハ其ノ役ヲ免シ第二國民役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘサル者ハ兵役ヲ免セシム

第二十九條 前二條ニ依リ豫備役ニ編入スル者ハ第二十三條第二項及第三項ニ準シ伍長同相當官ニ任シ又ハ主計生、軍醫生、藥劑生獸醫生ヲ免ス

第三十條 本條例ニ規定スルモノノ外一年志願兵ト爲リタル者ノ士官又ハ下士ノ任官ニ關シテハ陸軍補充條例、豫備後備ノ服役ニ關シテハ陸軍服役條例ノ規定ニ依ル

第三十一條 本條例中聯隊長トアルハ獨立隊ニ在リテハ其ノ隊長ニ該當ス

附 則

(73)

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際服役中ノ者翌年回トナリタル者及明治三十七年出願ニ係ル一年志願兵ノ服

(74)

役スヘキ兵科及衛戍地ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル
明治三十七年一年志願兵ヲ出願シタル者ノ身體検査及學術試験並認定證書ノ付與ニ關シ
テハ從前ノ規定ニ依ル
本令施行ノ際既ニ官費服役ヲ許可シタル者ハ其ノ服役ノ費用ニ關シテハ從前ノ規定ニ依
ル

本令施行ノ際既ニ現役ヲ終リ又ハ免セラレタル者ノ服役ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル
臺灣總督府國語學校土語科ノ卒業證書ヲ有スル者ハ當分臺灣ニ於テ身體検査ヲ受ケ臺灣
守備步兵隊ニ於テ服役スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ本條例中師團長トアルハ臺灣守備隊司令官ニ該當ス但シ第九條ノ願
書ハ本籍所在師管ノ師團長ニ差出スヘキモノトス
本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍一年志願兵條例施行細則

(明治三十七年三月陸軍省令第十三號)

陸軍一年志願兵條例施行細則左ノ通改正ス

陸軍一年志願兵條例施行細則

第一條 一年志願兵ハ年額百八圓臺灣ニ於テ服役スルモノニアリテハ百二十九圓ヲ入營スル月ノ前月盡日迄ニ

所屬隊ニ納ムヘシ

前項ノ納金ハ當該部隊ニ於テ歳入納付ノ手續ヲナスヘシ

第二條 前條第一項ノ納金ハ服役ニ關スル費用ノ實費ト看做シ追徴若ハ還付セス但シ入

營前死亡シ又ハ其ノ入營ヲ翌年ニ延期シ若ハ認定證書ヲ返還セシメタルトキハ納金ノ

金額服役中陸軍一年志願兵條例第二十一條ニ依リ通常ノ現役勤務ニ服スルトキハ其ノ

當月ヨリ官給期間ニ係ル既納金額月割計算法ニ依リ以下同シ除隊若ハ死亡シタルトキハ其ノ當月以

後ニ係ル既納金額ヲ本人又ハ遺族ニ拂戻モノトス

第三條 陸軍一年志願兵條例第二十六條ニ依リ勤務演習ニ召集スル場合ニハ前二條ヲ準

用ス但シ其ノ納ムヘキ金額ハ月割計算法ニ依リ二月分トス

第四條 一年志願兵ヲ出願スル者ハ其ノ願書附錄第一樣式ニ戶籍謄本、履歷書附錄第二樣式ヲ添へ

學術試験ヲ要スル者ニ在リテハ六月十日迄ニ其ノ他ノ者ニ在リテハ七月十日迄ニ本籍

地ノ市町村長ニ差出スヘシ

前項ノ願書ニハ徵兵令第十三條ノ學校卒業者ニ在リテハ學校長ノ卒業證明書、戶主ニ

非ラサル者ハ戶主、未成年者ニ在リテハ親權者ノ服役承認書附錄第三樣式ヲ添付スヘシ

市町村長ハ志願者ノ身元資産及犯罪ノ有無等ヲ調査シ證明書附錄第四樣式ヲ製シ又他師管ニ

全戸寄留ノ者ニ在リテハ其ノ師管名及寄留ノ年月日ヲ付記シ願書ニ添付シ學術試験ヲ

(75)

要スル者ニ在リテハ七月十日迄、其ノ他ノ者ニ在リテハ八月五日迄ニ師團長ニ到著スル如ク島司、郡長、聯隊區司令官ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第五條 前條ノ志願者ニシテ徵兵令第十三條ノ學校ヲ卒業セサル者ハ其ノ年十月三十一日迄ニ卒業スヘキ者ニ限リ學校長ノ證明書ヲ以テ卒業證明書ニ代フルコトヲ得但シ卒業ノ上ハ直ニ學校長ノ卒業證明書ヲ添ヘ師團長ニ届出ツヘシ

第六條 師團長ハ志願者中學術試験ヲ要スル者ノ人員ノ検査ヲ爲スヘキ師管ニ区分シ之ヲ八月一日迄ニ陸軍將校生徒試験常置委員長ニ通知シ他ノ師管ニ於テ検査ヲ受ケムトスル者ノ人名及必要ノ事項ヲ當該師管ノ師團長ニ八月二十日迄ニ通知スヘシ

第七條 陸軍將校生徒試験常置委員長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ試験問題ヲ師團長ニ送付スヘシ

第八條 志願者中學術試験ヲ受クヘキ者及徵兵検査ニ依ラス身體検査ヲ受クヘキモノハ検査期日前検査地ニ到著シ書面ヲ以テ其ノ止宿所ヲ検査地所管師團司令部ニ届出ツヘシ但シ検査地ニ現住ノモノト雖本文ニ準シ届出ヘシ

第九條 師團長ハ軍醫ヲシテ志願者ノ身體検査ヲ行ハシメ尙身體検査合格者中學術試験ヲ要スル者ハ部下ノ將校同相當官ニ試験委員ヲ命シ其ノ試験ヲ行ハシム但シ其年徵兵検査ニ於テ甲種又ハ乙種ニ合格シタルモノニ在テハ左ノ結果ニ從ヒ別ニ身體検査ヲ行ハサルモノトス

學術試験ヲ受クヘキ者ハ新ニ單身脱帽ニテ撮影シタル寫眞紙手札ノ裏面ニ族籍氏名ヲ自書シ學術試験ノ際試験委員ニ差出スヘシ

聯隊區司令官ハ徵兵検査ニ於テ甲種又ハ乙種ニ合格シタル志願者ノ壯丁名簿寫ヲ師團長ニ差出シ他ノ師管ニ於テ學術試験ヲ受クヘキモノニ在リテハ仍ホ其ノ結果ヲ速ニ當該受驗地所管ノ師團長ニ通知スヘシ

第十條 一年志願兵出願者ノ検査場ハ師團司令部所在ノ衛戍地トシ其ノ身體検査期日ハ九月四日學術試験期日ハ九月五日トス

第十一條 學術試験ヲ要セサル者ハ検査場ノ變更ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ八月十日迄ニ本籍所在師管ノ師團長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第十二條 師團長前條ノ願ヲ許可シタル場合ニ於テ第六條ノ他師管内受檢者ノ通知ニ變更ヲ要スルトキハ八月二十日迄ニ關係師團長ニ通知スヘシ

第十三條 師團長ハ検査ヲ終リタルトキハ十月一日迄ニ合格人員表附錄第七樣式ヲ調製シ陸軍大臣ニ報告スヘシ但シ他ノ師管在籍者ノ成績ハ學術受檢者ニアリテハ之ニ寫眞紙ヲ添ヘ同日迄ニ受檢本籍所在師管ノ師團長ニモ通知スヘシ

第十四條 陸軍大臣ハ前條ノ合格人員表ニ依リ一年志願兵配當表ヲ作り師團ニ通達ス附錄第五樣式師團長前項ノ通達ヲ受ケタルトキハ一年志願兵認定證書附錄第五樣式ヲ本人ニ付與スヘシ但シ第五條ニ依リ學校長ノ證明書ヲ以テ卒業證書ニ代用スル者ニ在リテハ卒業ノ届出ヲ

爲シタル後之ヲ付與スヘキモノトス

第十五條 他ノ師管ニ於テ服役スヘキ者ノ認定證書ハ本籍所在師管ノ師團長之ヲ付與シ其ノ人名書ニ體格検査表又ハ壯丁名簿寫願書、其ノ他必要ノ書類ヲ添ヘ速ニ當該師團長ニ送付スヘシ

第十六條 師團長前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ更ニ入營命令附錄第六樣式ヲ作り本人ニ送付スヘシ

第十七條 一年志願兵ヲ各師管、各軍隊ニ配賦スルニハ左ノ各號ヲ參酌スルモノトス但シ主計生タラムコトヲ希望スル者ハ師團司令部所在地ノ步兵隊ニ配賦スルモノトス

一 軍事上ノ必要

二 志願者ノ希望

三 兵科毎ニ成ルヘク各隊ノ人員ヲ平等ニスルコト

四 特別ノ技術ヲ修メ若ハ其ノ實驗ヲ有スル者ハ其ノ技術ヲ必要トスル部隊ニ配賦スルコト例ヘハ鐵道隊工兵隊等ニハ成ルヘク土木、電氣、機械、冶金採鑛、物理ニ關スル技能アル者重砲兵隊ニハ成ルヘク電氣機械ニ關スル技能アル者ヲ配賦スル等

第十八條 師團長ハ其ノ師管内ノ軍隊ニ於テ服役スヘキ者ノ人名書ニ其ノ體格検査表、壯丁名簿寫願書其ノ他必要ノ書類ヲ添ヘ入營前聯隊長ニ下付スヘシ但シ近衛師團ニ於

テ服役スヘキ者ニ關スル書類ハ第一師團長ヨリ近衛師團長ニ送付シ同師團長ニ於テ下付ノ手續ヲ爲スモノトス

第十九條 一年志願兵出願後入營迄ノ間ニ轉籍、轉住、氏名變更、犯罪、死亡其ノ他願書及添付書類ニ記載セル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ本人又ハ親族ヨリ認定證書付與前ニ在リテハ本籍所在師管ノ師團長ニ、認定證書付與後ニ在リテハ服役スヘキ師團ノ師團長ニ届出ツヘシ

第二十條 條例第十一條第一號ニ該當スルトキハ在職軍醫ノ診斷證書軍醫有ラサル地ニ在リテハ醫師ノ病況同第二號ニ該當スルトキハ學校又ハ官廳等ノ證明書、第三號ニ該當スルトキハ近隣戶主二名ノ保證書ヲ添付シ本籍地ノ市町村長、島司、郡長、聯隊區司令官ヲ經テ服役スヘキ師團ノ師團長ニ届出ツヘシ

島司、郡市町村長ハ前項ノ病況書又ハ保證書ニ記載セル事實ヲ查覈シ市町村長ニ在リテハ狀況書島司、郡長ニ在リテハ意見書ヲ作り届書ト共ニ聯隊區司令官ニ送付シ聯隊區司令官ハ該狀況書及意見書ニ尙其ノ意見ヲ添付シ師團長ニ進達スヘシ

第二十一條 條例第十三條ニ依リ入營ノ延期ヲ願出テムトスルトキハ願書ニ證據書類ヲ添ヘ本籍地市町村長、島司、郡長、聯隊區司令官ヲ經テ服役スヘキ軍隊所管ノ師團長ニ差出スヘシ

市町村長ハ前項ノ願書ニ證印ヲ爲スヘキモノトス

第二十二條 師團長一年志願兵入營前認定證書ヲ返還セシムトスルトキハ本籍地ノ聯隊區司令官ニ其ノ旨ヲ通知シ聯隊區司令官ハ本人ヘ其ノ返還ヲ命スヘシ

第二十二條ノ二 一年志願兵入營ノ際施行スル身體検査ニ於テ傷痕若ハ疾病ノ爲ニ箇月以後ニ非サレハ教育ヲ施スヲ得スト認ムル者アルトキハ當該隊長之ヲ歸郷セシメ其ノ旨ヲ直ニ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通報スヘシ

前項ニ依リ歸郷セシメタル者ハ條例第十四條第一項ニ該ル者トシテ取扱フヘシ

第二十三條 聯隊長條例第二十八條ニ依リ常備後備ノ役ヲ免シ又ハ兵役ヲ免シタルトキハ之ヲ本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第二十四條 聯隊長ハ一年志願兵中所定ノ期日ニ入營セサル者アルトキハ之ヲ師團長ニ報告シ尙本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第二十五條 師團長ハ一年志願兵人員表附錄第 八樣式及一年志願兵終末試驗成績表附錄第 九樣式ヲ每年一月三十一日迄ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第二十六條 一年志願兵終末試驗及第證書附錄第 十樣式ハ各部隊ニ於テ調製スルモノトス

第二十七條 一年志願兵認定證書ヲ有スル者入營シタルトキ又ハ翌年回ト爲リタルトキハ十四日以内ニ本籍地ノ市町村長ニ届出ツヘシ

第二十八條 一年志願兵ニシテ條例第十一條第三號ニ該當スルトキハ聯隊長ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ在リテハ第二十條ヲ準用ス

第二十九條 本則中聯隊長トアルハ獨立隊ニ在リテハ該隊長、聯隊區司令官トアルハ警備隊區司令官、島司又ハ郡長トアルハ北海道ニ在リテハ支廳長又ハ區長、沖繩縣ノ區ニ在リテハ區長、島司又ハ郡長ヲ置カサル島嶼

ニ在リテハ島司又ハ郡長ニ準スヘキ者、市長トアルハ東京、京都、大阪ノ三市ニ在リテハ區長、町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ町村長ニ準スヘキ者ニ該當ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際入營延期又ハ翌年回ト爲リタル者及明治三十七年志願兵ニ係ル一年志願兵ニシテ舊一年志願兵條例施行細則ノ規定ヲ適用スヘキモノハ從前ノ規定ニ依ル

明治三十七年志願兵ニ依ル一年志願兵中條例第三條第一號ニ該當スル者主計生タラムトスルトキハ證明書類ヲ添ヘ入營一箇月前迄ニ服役スヘキ軍隊所管ノ師團長ニ願出ツヘシ

前項ノ願ヲ許可セラレタル者ハ師團司令部所在地ノ步兵隊ニ於テ服役セシム

條例附則ニ依リ臺灣ニ於テ服役スル者ニ關シテハ第五條第九號第一項第十一條第十二條第十八條乃至第二十條第二十二條第二十四條及第二十五條中師團長トアルハ臺灣守備隊司令官ニ該當シ、第四條ノ願書其ノ他ノ書類及壯丁名簿寫ハ本籍所在師管ノ師團長ヨリ臺灣守備隊司令官ニ送付シ第八條ノ届書ハ其地ノ守備隊司令部ニ差出シ検査ハ臺灣守備隊司令官適當該司令部所在地ニ召集シテ之ヲ行ヒ、認定證書ハ検査終了後臺灣守備隊司令官ニ於テ適宜之ヲ付與シ、第二十一條ノ書類ハ直接臺灣守備隊司令官ニ差出スモノトス

附則 (四十二年陸軍省令第五號)

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際服役中ニアル一年志願兵ノ服役ニ關スル費用ハ第一條第一項ノ金額ニ付本
令施行以後ニ係ル分ヲ月割計算法ニ依リ明治四十二年四月三十日迄ニ所屬隊ニ納ムヘシ
(様式略)

◎陸軍士官候補生諸生徒其他陸 軍志願兵身體検査規則

(四十二年三月陸軍省令第七號)

陸軍士官候補生諸生徒其ノ他陸軍志願兵身體検査規則在ノ道定ム

陸軍士官候補生諸生徒其他陸軍志願兵身體検査規則

第一條 士官候補生陸軍中央幼年學校生徒、陸軍地方幼年學校生徒、主計候補生、見習
醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、衛生部及獸部依託學生同依託生徒及砲兵工長候補者、
陸軍戸山學校軍樂隊生徒志願者ノ身體検査ハ本規則ニ依リ施行ス
陸軍監獄看守其ノ他陸軍ニ從事スルコトヲ志願スルモノノ身體検査ニハ本規則ヲ準用
ス

前二項ノ身體検査ニハ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

第二條

志願者身長ノ定限ハ五尺以上トス但別ニ定ムル所アルモノハ此ノ限ニアラス

第三條 志願者ノ體格ヲ區別スルコト左ノ如シ

一 甲種 身體強健ナル者

二 乙種 身體甲種ニ亞ク者

三 丙種 前二項ニ當ラサル者及身長定限ニ達セサル者

第四條 前條ノ甲種乙種ヲ合格トシ丙種ヲ不合格トス

第五條 丙種トナスヘキ者概ネ左ノ如シ

一 全身發育不完全ナル者

二 精神機能ニ妨アル者及諸種ノ神經系病ニシテ急治スヘカラサル者

三 諸種ノ内臟疾患ニシテ急治スヘカラサル者

四 視力ニ障碍アル者色育ヲ有スル者但シ主計候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習
獸官、衛生部及獸醫部依託生同依託生徒志願者ハ近視ニ限り其ノ度ヲ斟酌シテ特
ニ合格トナスコトヲ得

五 聽機ニ障碍アル者

六 咀嚼、言語ノ機能ニ妨アル者

七 骨、軟部ノ疾患ニシテ急治スヘカラサル者

八 諸種ノ癍痕、畸形、缺損等ニシテ醜形甚シク又ハ運動ニ妨アル者

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎陸軍身體檢查手續

(四三年二月 陸達第五號)

陸軍身體檢查手續左ノ通改正ス

陸軍身體檢查手續

第一章 通 則

第一條 本手續ハ徵兵檢查規則、陸軍士官候補生諸生徒其ノ他陸軍志願者身體檢查規則

ニ依ル身體檢查ノ方法ヲ規定ス

第二條 身體檢查概子左ノ順序ニ依リ之ヲ行フ

- 一 身長及體重ノ測定
- 二 視力辨色及視器ノ檢查
- 三 聽能聽器及鼻腔口腔咽腔ノ檢查
- 四 言語精神ノ檢查
- 五 一般構造ノ檢查
- 六 關節運動ノ檢查

七 各部ノ檢查

第三條 身長ヲ測定スルニハ名簿ニ照シテ其氏名ヲ問ヒ衣服ヲ脱セシメ(眼鏡ヲ著用スルモノハ同時ニ之ヲ脱セシメ視力檢查ノ終ルマテ其著用ヲ禁スヘシ)著禪ノ儘身長計ノ基上ニ立チ踵ヲ竝ヘテ尺身ニ接シ尋常呼吸ニ於テ姿勢ヲ正サシム此際殊ニ瞭腰項部等ヲ正シク伸シアハリヤ否ニ注意シ矯正ヲ加フルノ要ナキニ至リテ横杆ノ正中ヲ顛頂ニ當テ更ニ全身ノ位置ヲ通視シテ身長ヲ定ム但シ尺度ノ釐位ニアルモノハ高キニ從フ

檢查ハ前項ノ測ニ終リタルキハ高聲ヲ以テ其ノ成績ヲ讀ミ上ケ其ノ都度之ヲ壯丁名簿體格檢查表ニ記入シ捺印スヘシ

體重ヲ測定スルニハ體重計ノ正否ヲ檢シ所要ノ矯正ヲ加ヘタル後受檢者ヲ其ノ臺板上ニ直立靜止セシメ杆ノ基點ヨリ末端ニ向ケテ錘ヲ動カシ正シク平均ヲ得ルニ至リ體重ヲ定メ檢者ハ高聲ニテ其成績ヲ讀ミ上ケ之ヲ壯丁名簿ニ記入シ捺印スヘシ

身長及體重ノ測定終リタルトキ受檢者ヲシテ衣服ヲ著用セシム

第四條 視力ハ試視力表

陸軍省醫務局藏版輪視標ヲ用ヒテ檢スヘシ

試視力表ハ場内ノ最モ能ク照輝シタル壁上ニ於テ大約受檢者ト眼ト同高ノ位置ニ掲ケ受檢者ヲシテ五米突テ距テ之ニ對向セシメ交々右左ノ眼ニテ表中ノ細小ナル號ヨリ初メ其ノ三個以上ノ視標ニ付キ形狀

ヲ視別セシメ明視シ得タル最小ナル視標ニ附シタル數字ヲ以テ視力ト定ムヘシ但シ試視力表ハ他ノ受檢者ニ暴露セサルコトヲ要ス

視力ヲ壯丁名簿ニ記入スルニハ試視力表ノ視標ニ附シアル數字ヲ用イ且ツ左右ヲ區別スヘシ

天候ノタメ場内ノ照光不充分ナルトキハ檢者ハ自己又ハ他ノ健康視力ト對比シテ受檢者ノ視力ヲ判定スヘシ

視力ニ障害アリテ視標(〇、七)ヲ明視シ得サルモノハ一時檢査ヲ中止シ更ラニ檢査ノ閑ナルトキニ之ヲ細察シ要スルトキハ暗室檢査ヲ施シ近視亂視角膜翳等視力障害ノ種類及其ノ程度ヲ定メ之ヲ壯丁名簿ニ記入スヘシ

辨色力ハ先ツ(スチルリング)氏表ヲ用イテ檢査シ仍ホ疑ハシキ場合ニハ更ニ(ブーゲル)代表ヲ用イテ檢査シ異常アルモノハ其ノ種類程度ヲ定メ之ヲ壯丁名簿ニ記入スヘシ
視器ノ檢査ハ通例視力檢査ノ後之ヲ行ヒ眼瞼瞼裂竝ニ睫毛ノ狀態淚器ノ健否結膜及其ノ穹窿部ノ狀況ヲ檢査シ又左右ノ眼珠ヲ對比シ眼球ノ大小位置運動内壓ヲ檢シ次テ角膜虹彩ノ狀況瞳孔ノ大小形狀開縮ノ狀況等ヲ檢査スヘシ

第五條 聽能檢査ハ受檢査者ヲシテ檢者ヲ距ル約二米突ノ位置ニ於テ檢査ヲ受ケル耳ヲ檢者ニ向ケ兩眼ヲ閉チテ直立シ濕シタル指頭若ハ手掌ヲ以テ他側ノ耳ヲ閉塞セシメタル後檢者ハ外聽道軸延長線上ニ於テ叫語ヲ以テ受檢者ノ住所氏名年齡等ヲ問ヒ或ハ(十一)ヨリ(九十九)ニ至ル數字及通俗語ヲ選ヒ迅速ニ復唱セシメ聽能ノ健否ヲ定メ聽能ニ障害アルモノハ一時檢査ヲ中止シ更ニ檢査ノ閑ナルトキニ之ヲ再檢シ其ノ原因程

度ヲ定メ之ヲ壯丁名簿ニ記入スヘシ

聽器ノ檢査ハ耳翼外聽道及鼓膜ノ狀態ヲ檢シ要スルトキハ歐氏管ノ通否ヲ檢スヘシ
鼻腔口腔咽腔ノ檢査ハ鼻ニアリテハ其形態鼻道通氣ノ良否鼻腔粘膜ノ性状及新生物ノ有無等ヲ檢シ要スルトキハ後鼻腔又ハ副鼻腔ノ檢査ヲ施シ又口腔及咽腔ニアリテハ口唇ノ健否ヲ檢シタル後口腔ヲ開カシメ齒牙齒齦舌口蓋扁桃腺唾液腺及口粘膜一般ノ性状竝ニ咽頭ノ狀態ヲ檢シ要スルトキハ喉頭ノ檢査ヲ行フヘシ

第六條 言語精神ノ檢査ハ特別ノ時間ト方法ヲ用ヒスシテ他ノ檢査ニ際シ受檢者ノ態度應答等ニ依リ判斷スヘシ

吃者ヲ檢査スルニハ通例五十音中發音ノ困難ナル(カ)行(サ)行(タ)行(チ)行(ハ)行(バ)行ノ音ヲ以テ始マル處ノ通俗語ヲ選ミ之ヲ復唱セシメテ檢スヘシ

第七條 前條ノ檢査ヲ終リタルトキハ體格一船ノ構造ヲ觀察スヘシ即チ檢者ヲシテ衣服ヲ脱シ著禪ノ儘檢者ノ前方約二米突ヲ距テ直米シ姿勢ヲ正シテ受檢者ノ眼ニ注目セシメ頭顔面頸胸部及四肢ノ前面ヲ通視シタル後背面セシメテ頭項脊腰及四肢ノ後面ヲ通視シ兼テ既往及現在ニ於ケル疾患ノ有無ヲ問查スヘシ

第八條 關節運動ヲ檢スルニハ受檢者ヲシテ衣服ヲ脱シ著禪ノ儘檢者ノ前方約二米突ノ位置ニアリテ姿勢ヲ正シ檢者ニ注目セシメ先ツ左右ノ上肢ヲ水平位ニ於テ手掌ヲ合シテ前方ニ伸展セシメ其長短及發育ノ狀態ヲ檢シ續テ左右同時ニ手指關節腕關節肘關節

及肩關節ニ於ル屈伸内外轉及廻旋ノ諸運動ヲ檢ス次テ兩手ハ拇指ナ後ニ他ノ四指ヲ
 第ニ向テ腕骨上ニ安置セシメタル後頸部ノ俯仰顧盼及側屈脊柱ノ反張前屈及左右屈ヲ
 檢シ其ノ検査ヲ終リタルトキハ同一ノ姿勢ニ於テ左右ノ下肢ニ付キ交互ニ膝關節ノ内
 外轉及廻旋足關節ノ屈伸内外轉趾關節ノ屈伸ヲ檢シ足瞭及膝關節ヲ屈伸シテ臀部ヲ正
 シテ踵上ニ置テ踵踏セシムルト一、二回ニ及ヒ乘テ趾尖ヲ以テ體重ヲ支ヘシメ支柱ノ
 力ヲ檢シ之ハ歩行ヲ試檢スヘシ

本條ノ検査ハ其ノ舉動ヲ示シ受検査者ヲシテ之ヲ模倣セシムヘシ

第九條

各部検査ハ概ネ左記各項ノ順序ニ依リ之ヲ行フヘシ

- 一 頭顱及顔面ニ於テハ先ツ大小形狀竝ニ癍痕ノ有無ヲ視察シ特ニ有髮部ハ注意シテ
 異常ノ隆起陷凹腫瘍等ナキヤヲ檢シ次ニ咀嚼運動ノ難易ヲ檢スヘシ
- 二 頸部ニ於テハ腫瘍瘻管癍痕等ノ有無ヲ視且ツ觸診シ兼テ頭ノ位置正シキヤ否ニ注
 意スヘシ
- 三 胸部ニ於テハ胸廓ノ長短廣狹厚薄ヲ檢シ特ニ上胸口ノ狹窄ニ注意シ鎖骨胸骨肋骨
 及肋軟骨ノ狀態並其疾病畸形ノ有無ヲ檢シ次ニ受検査者ヲシテ深呼吸ヲナサシメテ
 呼吸ノ難易胸廓運動ノ狀況ヲ視察シ又タ心臟ノ搏動ニ注意シタル後肺臟心臟ノ打
 診及聽診ヲ行フヘシ但シ徵兵検査ニアリテハ必要ト認ムル場合ノ外肺臟心臟ノ打
 診及聽診ヲ行ハサルコトヲ得

胸圍及呼吸縮張ノ差ヲ測ルニハ兩上肢ヲ開展セシメ尺帶ニテ後ハ兩肩胛骨ノ下部
 前ハ左右乳頭ノ直下ニ於テ水平ニ周匝シ次ニ兩上肢ヲ垂レテ自然ノ位置ニアラシ
 メ尋常呼吸(此際簡單ノ對話ヲ試ムルヲ可トス)ニ於テ胸圍ヲ測リ次テ深呼吸ヲナ
 サシメテ縮張ノ差ヲ測ルヘシ其ノ度目ヲ續ケムニハ一測ノ乳頭下ニ於テス

胸圍身長ノ半ニ達シ呼吸縮張ノ差一寸五分以上ノモノニアラサレハ甲種トナササ
 ルヲ例トス但シ胸圍身長ノ半ニ達セサルモ胸廓ノ構造可良ニシテ呼吸縮張ノ差大
 ナルモノ及將來發育ノ見込アルモノハ此ノ限ニアラス又胸廓構造一見可良ナルモ
 ノハ胸圍及呼吸縮張ノ差ヲ測定セサルコトヲ得

四 腹部ニ於テハ腹壁ノ一般ヲ視察シタル後胃腸肝及脾部ヲ觸診シ又臍(ヘルニア)ノ
 疑アルモノハ努責セシメテ之ヲ檢スヘシ

五 脊椎及骨盤ニ於テハ其ノ方向位置ノ正否ヲ檢シ各椎骨腸骨薦骨尾骶骨等ニ異常ナ
 キヤニ注意スヘシ

六 四肢ノ検査ハ上肢ニアリテハ手背手掌指等ニ異常ナキヤニ注意シ次ニ兩臂ヲ舉テ
 腋臭ノ有無ヲ檢スヘシ又下肢ニアリテハ下脚ノ靜脈ノ怒張足背及趾ノ異常ヲ檢シ
 タル後足ヲ舉ケシメ足蹠ヲ檢スヘシ

七 陰部及肛間ノ検査ハ受検査者ヲシテ褌ヲ脱セシメ兩脚ヲ開キ検査ニ正面シテ立タシ
 メ陰莖ニ於テハ變形疾病ノ有無並尿道口ノ位置形狀ヲ檢シ排尿ノ難易ヲ問ヒ殊ニ

痲疾ヲ檢スルニハ手指ヲ尿道球部ニ送り尿道ニ沿テ口部ニ押壓シ又陰囊ニ於テハ
睪丸副睪丸ノ位置大小竝存否等ヲ精系ニ於テハ靜脈怒張水腫等ノ有無ヲ檢スヘシ
鼠蹊(ヘルニヤ)ノ有無ヲ檢スルニハ中指ヲ精系ニ沿フテ腹輪ノ方向ニ送入シ其
ノ擴張アリヤ否ヲ觸診シタル山受檢者ヲシテ努責セシムヘシ
肛門ヲ檢スルニハ受檢者ノ體ヲ前屈シ臀部ヲ舉上セシメ檢者ハ兩手ヲ以テ肛門ヲ
排開シ痔核痔瘻脱肛其他肛圍ニ於ケル病變ノ有無ヲ檢シ殊ニ脱肛ノ檢査ニハ努責
セシムヘシ

第十條 前各條ノ檢査ヲ終リタルモノハ受檢査ヲシテ衣服ヲ着セシメ醫官ハ檢査ノ全成
績ヲ通覽綜合シテ其ノ體格等位ヲ定メ壯丁名簿ニ等位ノ印及自印ヲ捺スヘシ
醫官二人以上ニテ同一受檢者ノ檢査ヲ分担シタルトキハ毎分担保事項ニ自印ヲ捺シ等位
ノ判定ハ高級古參ノモノニ於テスヘシ

第十一條 第四條乃至第九條ノ檢査ニ於テ醫官ハ檢査スヘキ當該器臟ノ既往症ヲ問查ス
ヘシ假令關節運動ノ檢査ニハ骨折脱臼又ハ關節ノ疾患ニ罹シコトアリヤ否視器又ハ聽
器ノ檢査ニハ眼病又ハ耳漏ニ罹シコトアリヤ否各部殊ニ呼吸器ノ檢査ニハ肺結核ニ於
ケル血族關係ノ有無若ハ肋膜炎ニ罹シコトアリヤ否陰部ノ檢査ニハ花柳病肛門ノ檢査
ニハ脱肛ノ既往症ヲ檢査スルカ如シ

第十二條 壯丁名簿ハ成ルヘク記註ヲ簡ニシ些細ノ異常ハ其ノ記註ヲ要セスト雖甲種ニ
定メタルモノ及身長不足ノ故ヲ以テ丙種丁種トナスモノノ外ハ其ノ體格等位ヲ定メタ
ル疾病變常ヲ記入スヘシ

第十三條 身體變常ノタメ第一乙種第二乙種丙種及丁種トナスヘキ標準ハ概ネ附録ニ依
ル但シ徵兵及志願兵ノ檢査ニ於テハ附録第一乙種ノ欄ニ掲ケタル疾病變常ヲ有スルモ
ノト雖其ノ症狀輕易ニシテ體格強健ナルハ之ヲ甲種トナシ又輸卒砲工卒靴工卒ニ選定
スヘキ見込ノモノハ附録丙種ノ欄ニ該當スルモノト雖其ノ括弧内ノ事項ニ該當スルモ
ノニ限り體格強健ノモノハ之ヲ第一乙種又ハ第二乙種トナスコトヲ得

第十四條 一年志願兵主計候補生見習醫官見習藥劑官見習獸醫官及衛生部獸醫部依託學
生同依託生徒志願者ノ檢査ニ於テハ其ノ勤務上差支ナキ限り體格ノ制限ヲ寬ニスルコ
トヲ得

第十五條 身長不足ノ故ヲ以テ甲種第一乙種及第二乙種トナスヘカラサルモノハ特ニ規
定アルモノヲ除クノ外視力其ノ他ノ檢査ヲ省略シ單ニ一般構造ノ檢査ヲ行ヒ體格等位
ヲ決定スルコトヲ得

第二條第二號乃至第七號ノ檢査中丁種(士官候補生諸生徒其他ノ陸軍志願者ニアテハ
丙種)タルヘキ事項ヲ發見シタルトキハ附録ノ檢査ヲ省略スルコトヲ得

第十六條 身體變常ノ各個ハ不合格トナスニ足ラサルモノ之ヲ綜合スルトキハ合格トナス
ヘカラサルモノハ不合格トナス

第十七條 徵兵及志願兵ノ検査ニ於テ左ノ各號ニ該ルモノハ合格トシテ壯丁名簿ニ其意見ヲ記入スヘシ

- 一 受檢者曾テ不合格タリシモ現時合格ト認ムルモノ
- 二 現ニ傷疾疾病ニ罹スモ其ノ症狀輕ク適當ノ治療ニ依リ治癒スヘキモノ
- 三 近視弱視重聽等ニシテ詐偽ノ疑アルモノ
- 四 癩癩夜盲其ノ他ノ身體變常ヲ訴フルモ其徵候確實ナラス又ハ其ノ實否ヲ判定スルニ繁雜ニシテ長時間ヲ要スルモノ

第十八條 検査場ハ靜肅且ツ照明十分ニシテ暗室ヲ準備シ得ヘキ處ヲ選定スヘシ

第十九條 検査醫官ハ學術ニ基キテ検査シ必ス自己ノ判斷ニ依リ體格等位ヲ決定スヘシ

第二十條 検査醫官ハ受檢者ニ接スルコト溫和ニシテ苟モ之ヲ威嚇シ又ハ無用ナル検査ヲ行フコトヲ得ス

第二十一條 検査醫官ハ受檢者ノ身體變常ニ關シテハ職務上必要ノ場合ニ非レハ之ヲ他人ニ漏告スヘカラス

第二章 徵兵及志願兵検査

第二十二條 壯丁一日ノ検査人員ハ醫官三人ニ付概子百七十人以上百九十人以下醫官二人ニ付概子百三十人以上百五十人以下トス

第二十三條 身長及體重ハ聯隊區又ハ警備隊區徵兵醫ニアリテハ事務員其ノ他ニアリテ

ハ下士ヲシテ測定セシムヘシ

但シ體重ハ必要ヲ認メサル場合又ハ已チ得サル場合ニ限り之ヲ測定セサルコトヲ得

第二十四條 病中又ハ畸形ニシテ測尺スヘカラサルモノハ壯丁名簿ニ其ノ理由ヲ記入シ又身長四尺五寸未滿ノモノハ四尺五寸未滿ト記入スヘシ

第二十五條 身長四尺八寸未滿ニシテ著シキ疾病變常ナシト認ムルモノハ他ノ検査ヲ行ハスシテ等位ヲ付スコトヲ得

身長四尺八寸以上五尺未滿ノモノハ先ツ體格一般ノ景況ヲ觀察シ且ツ適宜要點ノミヲ檢シテ等位ヲ付スルモ妨ナシ

第二十六條 各眼ノ眼裸視力(〇、七)ニ滿タサルモノハ甲種トナスコトヲ得ス右眼(〇、七)以上ニシテ左眼ノ視力減弱スルモ(〇、四)以上ノモノハ第一乙種(〇、二)以上ノ

モノハ第二乙種トナスコトヲ得但シ一年志願兵六週間現役兵輸卒砲工卒及靴工卒ニ在テハ兩眼ノ近視ニシテ其ノ度五(シチ)プトリーニ達セス且ツ矯正視力(〇、七)以上ノモノハ乙種トナスコトヲ得

辨色力ノ検査ハ身長五尺以上ノ壯丁ニ對シ之ヲ行フヘシ

第二十七條 醫師ノ診斷證書ニ依リ戊種ト爲シタル者アルトキハ該壯丁名簿摘要欄ニ其ノ事由ヲ記入スヘシ

第二十八條 徵集延期中ノ者ニ係ル壯丁名簿ニハ前年ニ異ナル要點ノミヲ記入スヘシ

第二十九條 壯丁中故意ニ身體ヲ毀傷シ若ハ疾病ヲ作爲シ其ノ他詐僞ノ所爲ヲ用井タリト認メタルモノアルトキハ學理上確實ナル證憑ニ基キ鑑定書ヲ製シテ徵兵官ニ出スヘシ

第三章 士官候補生諸生徒其他陸軍志願者検査

第三十條 志願者一日ノ検査人員ハ醫官一人ニ付概ネ五十人トス

第三十一條 身長ハ下士ヲシテ測定セシムルコトヲ得

第三十二條 近視ノモノ又ハ辨色不全ノモノハ合格トナスコトヲ得ス但シ主計候補生見習醫官見習藥劑官見習獸醫官衛生部及獸醫部依託學生同依託生徒志願者ニアリテハ近視ニ限リ其ノ度五(ジチプトリー)ニ達セス且ツ矯正視力(〇、七)以上ノモノハ合格トナスコトヲ得

第三十三條 體格検査表ハ様式ニ從ヒ之ヲ要スル部隊ニ於テ調製シ検査終了後順序ヲ經テ各志願者ノ屬スル部隊ニ送付スヘシ

(様式略)

海軍志願兵條例 (明治三十二年三月 勅令第七十一號)

朕海軍志願兵條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍志願兵條例

第一條 海軍志願兵トハ海軍兵役ニ服センコトヲ志願シ認可ヲ得海軍志願兵籍ニ編入セラレタル者ヲ謂フ

第二條 海軍志願兵トシテ徵募スヘキ卒ノ種別ハ左ノ如シ
水兵、軍樂生、木工、機關兵、看護、主廚

第三條 (削除)

第四條 志願兵ノ徵募ハ其ノ年ニ於テ左ノ各項ニ適合スル者ニ就キ之ヲ行フ

- 一 水兵、機關兵ハ十七年以上二十一年未滿
- 二 木工、看護、主廚ハ十七年以上二十六年未滿
- 三 軍樂生ハ十六年以上十九年未滿

第五條 左ニ掲グル者ハ志願兵ノ徵募ニ應スルコトヲ得ス

- 一 陸軍豫備役及後備役ニ在ル者
- 二 徵兵令第二十八條ニ當ル者

- 三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者又ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
 - 四 刑事被告人
 - 五 復權ヲ得サル家資分散者破産者若クハ其ノ相續人
 - 六 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若クハ其ノ相續人
- 第五條ノ二 左ニ掲クル者ハ志願兵ニ採用スルコトヲ得ス
- 一 身體完全ナラサル者
 - 二 品行方正ナラサル者
 - 三 無教育ノ者
 - 四 前各號ニ掲クル者ノ外海軍軍人ノ服役ニ適セサル者
- 第六條 軍樂生ニシテ技藝發達ノ目途ナキ者ハ入團後二月以内ニ軍樂生ヲ免ス
- 第七條 志願兵ノ服役ハ海軍下士卒服務條例ニ依ル
- 第七條ノ二 志願兵現役中殊ニ勤務ニ熟シ品行方正者ハ歸休ヲ命スルコトアルヘシ
- 第八條 (削除)
- 第九條 海軍大臣ハ志願兵徵募ノ爲海軍志願兵徵募區ヲ定メ鎮守府ヲシテ之ヲ管セシム
- 第十條 海軍大臣ハ毎年志願兵トシテ採用スヘキ人員ヲ定メ鎮守府ヲシテ徵募セシム
- 附 則
- 第十一條 (削除)

- 第十二條 海軍志願兵徵募ニ關スル細則ハ海軍大臣之ヲ定ム
- 第十三條 本條例ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス
- 第十四條 明治三十一年勅令第八十三號海軍志願兵徵募規則ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

海軍出身志願者身體檢查條例

明治三十五年一月海軍省令一號

海軍出身志願者身體檢查條例

- 第一條 海軍出身志願者身體檢查ニ於テ合格トスヘキモノ左ノ如シ
- 一 甲種 身體強健精神異常ナク全身ノ發育對稱完全ニシテ海軍軍人ノ服役ニ適スルモ
 - 一 乙種 甲種ニ亞クモノ
- 第二條 左ノ各號ニ該當スルモノハ不合格トス
- 一 高等武官、各候補生、學生、軍醫學生、製劑學生、主計學生、造兵學校生徒、機關生徒ヲ云フ、船學生、造兵學生ヲ云フ以下同シ生徒、兵學校生徒、經理學校以下同シ、筆記志願ノモノニ在テハ身長五尺、體重十二貫目、胸圍二尺五寸三分、胸廓擴張一寸八分、活量二千八百立方仙迷百七十一立方英寸ニ達セサルモノ但シ生徒志願

- ノモノニシテ十七年未滿(検査時ノ年齢以下同シ)ナルトキハ體重十一貫五百目胸圍二尺四寸八分以上ニシテ發育ノ見込アルモノハ合格ト爲スコトアルヘシ
- 二 水兵、機關兵、鍛冶、看護、志願ノモノニ在テハ身長五尺二寸、體重十三貫目、胸圍二尺六寸、胸廓擴張二寸活量三千立方仙迷百八十三立方英寸ニ達セサルモノ但シ十七年未滿ナルトキハ身長五尺一寸五分、體重十二貫五百目、胸圍二尺五寸五分以上十八年未滿ナルトキハ身長五尺一寸七分、體重十二貫七百目、胸圍二尺五寸七分以上ニシテ發育ノ見込アルモノハ合格ト爲スコトアルヘシ
- 三 木工、主府志願ノモノニ在テハ身長五尺、體重十二貫五百目、胸圍二尺五寸五分、胸廓擴張一寸八分、活量三千立方仙迷百三十八立方英寸ニ達セサルモノ
- 四 軍樂生志願ノモノ十七年未滿ニ在テハ身長五尺、體重十二貫目、胸圍二尺五寸、胸廓擴張一寸八分、活量二千八百立方仙迷百七十一立方英寸滿十七年以上ニ在テハ身長五尺一寸、體重十二貫五百目、胸圍二尺五寸五分、胸廓擴張二寸、活量二千九百立方仙迷百七十七立方英寸十八年以上ニ在テハ身長五尺二寸、體重十三貫目、胸圍二尺六寸、胸廓擴張二寸、活量三千立方仙迷百八十三立方英寸ニ達セサルモノ
- 五 身長、體重、胸圍及活量、前諸號ノ規定ニ達スルモ著シク其ノ交互ノ對稱ヲ失スルモノ
- 六 身體發育ノ不全、體質ノ薄弱、傷疾疾病ニ起因スル全身衰弱

- 七 白痴、精神異常、言語障礙、知覺及運動麻痺
- 八 全身皮膚殊ニ頭皮ノ慢性病、腋、黴毒及外傷等ノ癢痕著シキモノ
- 九 頭部、面部、頸部ノ畸形及著シキ醜形、頭蓋骨折傷、陷凹、斜頸、頸腺ノ腫大
- 十 視力二十ノ二十ニ達セサルモノ、識色不全、斜視、淚管瘻、眼瞼下垂戰ハ翻轉、但シ軍醫官、藥劑官、主計官、造船官、造兵官、少軍醫候補生、少藥劑士候補生、少主計候補生、學生及經理學校生徒、志願ノモノニ在テハ視力五十ノ二十以下、筆記志願ノ者ニ在テハ視力三十ノ二十以下ノ近視ハ合格トナスコトアルヘシ
- 十一 聾、聽力遲鈍、鼓膜鼓室ノ疾病
- 十二 鼻骨鼻軟骨ノ疾病。鼻茸、鼻粘膜ノ慢性病
- 十三 咽喉、口峽、口蓋及舌ノ疾病、齒齦及齒質不良若ハ齒數不足大齶齒ニ在テハ三齒以上其ノ他ノ齒牙ニ在テハ大齶齒ヲ併セ五箇以上ノ齶蝕ハ欠亡但シ高等武官、各候補生、學生生徒志願ノ者ニ在テハ齶蝕ハ欠亡ノ數之ヨリ超過スルモ上下顎齒牙對向ノ狀況、填塞義齒裝用ノ有無ヲ酌量シテ合格ト爲スコトアルヘシ
- 十四 胸廓ノ畸形、扁平、陷沒、呼吸短促、聲音嘶書、呼吸器及血行哩ノ疾病
- 十五 腹部ノ腫脹膨滿、腹輪ノ弛緩、脫腸、胃脾腸肝等ノ疾病
- 十六 下疳、疥疾、尿道狹窄、尿道瘻、畢丸副畢丸精系ノ疾病
- 十七 痔疾、痔瘻、脫肛、扁平「コンヂロマ」

- 十八 四肢ノ薄弱、畸形、又ハ傷疾疾病ニ起因スル歪形、關節運動ノ障礙、靜脈怒脹著シキ扁平足
- 十九 背梁及骨盤ノ畸形又ハ傷疾疾病ニ起因スル歪形運動ノ障礙
- 二十 前諸號ノ外急治ノ目的ナキ傷疾疾病
- 二十一 遺傳性及發作性疾病ノ證據アルモノ
- 第三條 前條ニ掲グルモノノ内輕症ニシテ風土氣候ニ關セス海軍軍人ノ服役ニ堪ユル見込アルモノハ合格トナスコトアルヘシ
- 體動ニ障礙ナキ瘦體、肥體、體毛過冗、軀幹若ハ四肢ノ不同膝内彎、膝外彎、齒牙及消食器ノ異常、精系靜脈怒脹等輕度ノモノハ成年ニ限り合格ト爲スコトアルヘシ
- 第四條 高等武官、各候補生、學生、經理學校生徒志願ノモノニ在テハ第二條第六號以下ノ諸狀況アルモノ其ノ輕度ノモノハ職務ヲ參酌シテ合格ト爲スコトアルヘシ
- 第五條 造船生徒及造兵生徒ノ身體検査規格ハ造船學生及造兵學生ニ準ス

陸軍六週間現役兵條例

(明治四十一年二月勅令第九號)

朕陸軍六週間現役兵條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍六週間現役兵條例

- 第一條 徵兵令第十三條第三項ニ依リ六週間現役ニ服セシムヘキ者ハ教職ニ就キタル年又ハ其ノ翌年ニ於テ其ノ在職地師管内ノ步兵隊臺灣、樺太、韓國及清國ニ在ニ編入シ服役セシム
- 第二條 六週間現役兵ハ毎年六月一日乃至十月一日ノ間ニ於テ入營セシム但シ疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ニ依リ入營期日ヨリ三日以内ニ入營シ難キ者ハ翌年ニ於テ服役セシム
- 第三條 戰時事變ニ際シテハ前二條ノ規定ニ拘ラス服役セシムルコトヲ得
- 第四條 六週間現役兵ノ服役日數ハ入營期日ヨリ起算ス
- 第五條 六週間現役兵ノ教育ハ聯隊長獨立大隊ニ在リテハ隊長以下同シ 其ノ責ニ任ス
- 第六條 六週間現役兵中勤務勳品行方止ニシテ第二國民兵ヲ以テ編成スル部隊ノ幹部タルヲ得ヘキ材幹アル者ニハ聯隊長其ノ成績ヲ具シ順序ヲ經テ師團長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ受ケ國民軍幹部適任證書ヲ授與ス
- 第七條 六週間現役ニ服スヘキ者ノ身體検査ハ入營セシムヘキ年ニ於テ徵兵検査規則ニ依リ之ヲ行フ
- 第八條 六週間現役兵ニシテ傷疾疾病ノ爲其ノ役ニ堪ヘサル者ハ聯隊長之ニ退營ヲ命スルコトヲ得
- 第九條 六週間現役兵ニハ現役兵トシテノ給料ヲ給セス 検査ノ爲往復ノ旅費及入營旅費ハ官給トス

第十條 臺灣、樺太、韓國又ハ清國ニ在職シ六週間陸軍現役ニ服スヘキ者ニ付テハ臺灣
總督府民政長官、樺太廳長官、理事廳理事官、關東都督府民政長官又ハ領事官ナシテ
之カ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎陸軍六週間現役兵條例施行細則

(明治四十一年二月陸軍省令第三號)

陸軍六週間現役兵條例施行細則左ノ通改正ス

陸軍六週間現役兵條例施行細則

第一條 六週間現役ニ服スヘキ資格ヲ有スル者ハ其ノ教職ニ就キタル日ヨリ二週間以内

ニ官立府縣立師範學校長ノ卒業證明書及在職小學校長ノ在職證明書ヲ添ヘ本籍地ノ市
町村長 東京市京都市大阪市及北海道沖繩縣ノ區ニ在リテハ區長、町村長ヲ施
行セサル地方ニ在リテハ戶長其ノ他町村長ニ準スヘキ者以下同シ 二届出ハ

市町村長ハ前項ノ届書ヲ查覈シ之ヲ所管聯隊區司令官ニ送付スヘシ但シ島嶼又ハ郡ニ
在リテハ島司郡長ヲ經由スヘキモノトス

第二條 六週間現役ニ服スヘキ者ノ身體検査ハ教職ニ就キタル年、學校所在地ノ聯隊區
内又ハ警備隊區内便宜ノ徵兵署ニ於テ之ヲ行フ但シ教職ニ就キタル期日ノ關係上其ノ
年、身體検査ヲ行ヒ難キ者ハ翌年回トス

臺灣樺太韓國及清國ニ在職スル者ハ前項ニ依ラス明治三十九年勅令第三百十八號ニ依
ル徵兵身體検査施行ノ際其ノ身體検査ヲ行フモノトス

交通不便ノ地ニ在職スル者ニ在リテハ第一項ノ規定ニ拘ラス便宜ノ徵兵署ニ於テ身體
検査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ地方長官ノ協議ニ依リ師團長之ヲ定ムルモノ
トス

第三條 官立公立小學校長ハ其ノ學校ニ在職スル者ニシテ六週間現役ニ服スヘキ者ヲ調
査シ本人ヨリ徵シタル其ノ戶籍謄本ヲ添ヘ毎年四月十五日迄 臺灣樺太韓國及清國ニ
其ノ學校所在地所管ノ地方長官ニ届出ヘシ 在リテハ二月盡日迄

前項ノ期日後教職ニ就キタル者アルトキハ其ノ都度前項届出ノ手續ヲ爲スヘキモノト
ス

第四條 地方長官前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ徵兵事務條例施行細則第一様式ニ準シ六
週間現役兵ノ名簿ヲ作り直ニ之ヲ其ノ學校所在地所管ノ師團長ニ送付シ且本人本籍地
ノ島司郡市長 東京市京都市大阪市及北海道沖繩縣ノ區ニ在リテハ區長以下同シ 二通知スヘシ
師團長前項ノ名簿ヲ受ケタルトキハ之ヲ查覈シ其ノ身體検査ヲ行フヘキ聯隊區司令官

臺灣樺太韓國及清國ニ之ヲ送付スヘキモノトス
ニ在リテハ検査官

第五條 領事館ニ於テ身體検査ヲ施行スヘキ者ニ付テハ前條ニ拘ラス學校所在地所管ノ領事官第三條ノ届出ヲ受ケタルトキ之ヲ其ノ身體検査ヲ施行スル領事館ニ送付シ且本人本籍地ノ島司郡市長ニ通知スヘシ

前項該當者ノ六週間現役兵名簿ハ検査官ニ於テ調製スルモノトス

第六條 地方長官ハ所定ノ期日ニ於テ身體検査ヲ受ケヘキ者ヲ検査場ニ出頭セシムヘシ
第七條 身體検査ヲ終リタル時ハ聯隊區司令官ニ在リテハ検査官ハ六週間現役兵ノ名簿ニ所要ノ記入ヲ爲シ之ヲ本人本籍地ノ聯隊區司令官ニ送付スヘシ

本籍地ノ聯隊區司令官前項ノ名簿ヲ受領シタル時ハ徵集、徵集延期、徵集免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ爲シ徵集名簿ヲ服役スヘキ諸隊ヲ統轄スル師團長ニ、徵集免除者及兵役免除者ノ人名書及徵集延期名簿ヲ學校所在地所管ノ地方長官ニ、合格者及徵集延期者ノ人名書徵集免除名簿及兵役免除名簿ヲ本籍地所管ノ島司郡市長ニ送付スヘシ

第八條 本籍地ノ聯隊區司令官ハ徵集スヘキ者ニ付附錄第一様式ノ合格證書ヲ作り之ヲ學校所在地所管ノ地方長官ニ送付シ地方長官ハ同證書ヲ本人ニ付與スルモノトス
徵集延期 徵集免除者ハ兵役免除ニ屬スル者ニハ學校所在地所管ノ地方長官之ヲ達スルモノトス

第九條 服役スヘキ諸隊ヲ統轄スル師團長ハ合格者在職地ノ遠近ニ應シ之ヲ各隊ニ配付スルト共ニ學校所在地ノ地方長官ニ通知シ且其ノ名簿ヲ當該隊長ニ送付スヘシ

第十條 六週間現役兵ノ入營期日ハ師團長地方長官ニ協議シ條例第二條ニ規定スル時日ノ範圍内ニ於テ之ヲ定メ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第十一條 六週間現役兵退營スルトキハ聯隊長獨立大隊ニ在リテハ其ノ隊長以下同シハ其ノ名簿ヲ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ送付シ聯隊區司令官ハ之ヲ島司郡市長ニ送付スヘシ

第十二條 條例第六條ニ依リ國民軍幹部適任證書ヲ授與シタル者アルトキハ聯隊長其ノ旨ヲ六週間現役兵名簿ニ記載スヘシ其ノ國民軍幹部適任證書ハ附錄第二様式ニ依リ調製スルモノトス

第十三條 小學校教職ニ在リテ六週間現役ニ服スヘキ者服役中ノ者若ハ其ノ服役ヲ終リタル者滿二十八歳以下ニシテ其ノ教職ヲ罷メタルトキハ當該學校長ヨリ、他ノ小學校ニ轉職シタルトキハ轉職前後ノ各學校長ヨリ三日以内ニ其ノ旨ヲ其ノ學校所在地所管ノ地方長官ニ届出テ同地方長官ハ之ヲ本人本籍地ノ市町村長ニ通達スルト共ニ六週間現役ニ服スヘキ者又ハ其ノ服役中ノ者ニ付テハ服役スヘキ諸隊又ハ服役中ノ諸隊ヲ統轄スル師團長ニ通知スヘシ

第十四條 國民軍幹部適任證書ヲ有スル者懲戒處分家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ

前項ノ届出ナシト雖地方長官前項ニ該當スル者アルコトヲ知リタルトキハ前項ノ取扱ヲ爲スヘキモノトス

第十四條 國民軍幹部適任證書ヲ有スル者懲戒處分家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ

禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ賭博犯ニ依リ處分セラレタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ本籍地ノ島司郡市長ニ届出ヘシ但シ町村ニ在リテハ町村長ヲ經由スヘキモノトス

島司郡市長前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ者ノ證書ヲ返還セシメ其ノ旨ヲ六週間現役兵名簿ニ記入シ且本籍地所管聯隊區司令官ニ之ヲ通知スヘシ

第一項ノ届出ナシト雖島司郡市長又ハ町村長第一項該當者アルコトヲ知得シタルトキハ前項ノ取扱ヲ爲スヘキモノトス

第十五條 臺灣樺太韓國又ハ清國ニ在リテハ本令中師團長トアルハ臺灣總督、樺太守備

隊司令官、韓國駐劄軍司令官又ハ關東都督ニ、地方長官トアルハ臺灣總督府民政長官、樺太總長官、理事廳理事官、關東都督府民政長官又ハ領事官ニ該當ス

天津及其ノ附近ノ地ニ在職スル者ニ關スル第四條ノ取扱ニ付テハ本令中師團長トアルハ清國駐屯軍司令官ニ該當ス

第十六條 臺灣樺太韓國及清國ニ在職スル者ハ左ノ區分ニ從ヒ服役セシム

臺灣ニ在職スル者ハ臺灣歩兵隊

樺太ニ在職スル者ハ樺太守備歩兵隊

韓國ニ在職スル者ハ韓國ニ在ル歩兵隊

關東州天津及其ノ附近ノ地ニ在職スル者ハ關東州ニ在ル歩兵隊

上海漢口及其ノ附近ノ地ニ在職スル者ハ第十二師團歩兵隊

第十七條 本令中聯隊區司令官トアルハ對馬警備隊區ニ在リテハ警備隊司令官、沖繩警備隊區ニ在リテハ警備隊區司令官ニ該當ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年ニ限リ第三條中臺灣樺太韓國及清國ニ在ル者ノ届出期日ヲ三月十五日トス

(様式略)

●陸軍豫備役後備役准士官下士

ニシテ文官又ハ雇員タル者志

願ニ依リ再ヒ軍務ニ從事セシ

ムル場合採用ノ件 (明治四十年七月陸達第四十八號)

陸軍豫備役後備役准士官下士ニシテ文官又ハ雇員タル者ヲ本人ノ志願ニ依リ再ヒ軍務ニ從事セシムル場合ニハ之ヲ採用セムトスル部隊長ヨリ豫メ本人ノ在職スル官公衙ノ長官ニ照會シ回答ノ上之ヲ採用スヘシ

前項ノ場合ニ於テ陸軍服役條例第七十條ノ二ニ該當スルモノニ在リテハ聯隊區司令官、

警備隊司令官又ハ警備隊區司令官特ニ文官又ハ雇員タリヤ否ヲ調査シ願書ト共ニ之ヲ部隊長ニ通報スヘシ

陸軍服役條例第七十條ノ二ニ依ラス志願ニ依リ陸軍平時編制ノ定員ニ充用スル陸軍豫備役後備役准士官下士ニ關シテハ部隊長適宜ノ方法ヲ以テ本人ノ文官又ハ雇員タリヤ否ヲ調査スヘシ

海軍豫備員條例

(明治三十七年六月 勅令第百七十九號)

朕海軍豫備員條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍豫備員條例

- 第一條 海軍ニ海軍豫備員ヲ置ク
- 第二條 海軍豫備員ハ海軍軍人トシ豫備役ニ服セシム
- 第三條 海軍豫備員ハ之ヲ上長官、士官、准士官、下士ニ分チ別ニ候補生ヲ置ク
- 第四條 海軍豫備員ハ拔擢ニ依リ級ヲ逐ヒ其ノ官階ヲ歷進セシム但シ海軍豫備兵曹長又ハ海軍豫備機關兵曹長ノ海軍豫備中尉又ハ海軍豫備機關中尉ニ進ムハ特選ニ依ル
- 第五條 海軍豫備少尉候補生ハ左ニ掲グル者ヨリ採用ス
 - 一 遞信省所轄商船學校卒業者

- 二 甲種二等運轉士ノ海技免狀ヲ有シ二箇年以上五百噸以上ノ船舶ニ於テ二等運轉士タリシ者
- 第六條 海軍豫備少機關士候補生ハ左ニ掲グル者ヨリ採用ス
- 一 遞信省所管商船學校卒業者
 - 二 一等機關士ノ海技免狀ヲ有シ二箇年以上五百噸以上ノ船舶ニ於テ一等機關士タリシ者
- 第七條 海軍豫備三等兵曹ハ左ニ掲グル者ヨリ任用ス
- 一 海軍大臣ノ允當ト認メタル商船學校ノ卒業者
 - 二 運轉士ノ海技免狀ヲ有シ二箇年以上船舶職員タリシ者
- 第八條 海軍豫備三等機關兵曹ハ左ニ掲グル者ヨリ任用ス
- 一 海軍大臣ノ允當ト認メタル商船學校ノ卒業者
 - 二 機關士ノ海技免狀ヲ有シ二箇年以上船舶職員タリシ者
- 第九條 遞信省所管商船學校卒業者以外ノ者ヲ海軍豫備員ニ採用又ハ任用スルコトヲ得
- 願ニ依リ左ノ諸號ニ適合スル場合ニ限ル
- 一 年齢二十歳以上ノ者

(110)

二 海軍志願者體格検査規格ニ適合ノ者
三 品行方正ニシテ志操確實學術技藝優等ニシテ海軍豫備員タルニ適スル者

第十條 左ニ掲グルル者ハ海軍豫備員タルコトヲ得ス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復権ヲ得サル者

三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第十一條 海軍豫備員ノ採用、任用又ハ進級ハ海軍砲術學校、海軍水雷學校又ハ海軍工機學校ニ於テ必要ナル教育ヲ施シ試験ヲ爲シ檢定委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ行フモノトス但シ商船學校卒業者ヲ候補生ニ採用スルハ此ノ限ニ在ラス

海軍大臣ノ允當ト認メタル商船學校ノ卒業者ヲ海軍豫備三等兵曹若ハ海軍豫備三等機關兵曹ニ任用シ又ハ候補生ヲ海軍豫備少尉若ハ海軍豫備機關少尉ニ任用スル場合ニハ教育及試験ヲ施行セス

第五條第二號、第六條第二號、第七條第二號、第八條第二號及第八條ノ二ニ該當スル者其ノ技倆特ニ拔群ナルトキハ檢定委員ノ銓衡ヲ經テ直ニ之ヲ海軍豫備員ニ採用又ハ任用シ必要ナル教育ヲ受ケシムルコトヲ得

戰時事變ノ際ハ教育及試験ヲ省略スルコトヲ得

第十二條 海軍豫備員ハ召集中ノ日數及船舶ノ職員トシテ勤務セシ日數ヲ實役停年トシ

其ノ最下期限五箇年ヲ超ユルニ非サレハ官階ヲ進ムルコトヲ得ス但シ候補生ノ海軍豫備少尉又ハ海軍豫備機關少尉ニ進ムハ其ノ實役停年最下期限ヲ二箇年トス

戰時事變ノ際ハ實役停年最下期限ヲ半ニ減スルコトヲ得

第十三條 海軍豫備員ノ採用、任用又ハ進級ハ士官以上ニ在リテハ海軍大臣之ヲ奏請シ候補生及准士官以下ニ在リテハ海軍大臣之ヲ專行ス

第十四條 海軍豫備員ノ定限年齢ヲ五十トシ定限年齢ニ滿ツル迄服役セシメ定限年齢ニ達シタルトキハ准士官以上ニ在リテハ退役トシ候補生及下士ニ在リテハ之ヲ免シタルモノトス

第十五條 海軍豫備員ハ戰時事變其ノ他必要アル場合ニ於テ勤務又ハ教育ノ爲之ヲ召集ス

第十六條 海軍豫備員ノ召集ニハ海軍召集條例中准士官以上ノ召集ニ關スル規定ヲ準用ス

第十七條 海技免狀ヲ有シ海軍豫備員タラムコトヲ志願スル者ハ當分ノ内左ノ區分ニ從ヒ之ヲ任用スルコトヲ得

甲種船長ノ海技免狀ヲ有シ十箇年以上船長ト爲リ其ノ
内五箇年以上三千噸以上ノ船舶ニ在リタル者
甲種船長ノ海技免狀ヲ有シ五箇年以上船長ト爲リ其ノ
内二箇年以上一千五百噸以上ノ船舶ニ在リタル者
海軍豫備少佐以下

(111)

甲種一等運轉士ノ海技免狀ヲ有シ十箇年以上ノ船舶ニ在リタル者

海軍豫備大尉以下

甲種船長ノ海技免狀ヲ有シ二箇年以上五百噸以上ノ船舶ニ在リタル者

海軍豫備中尉以下

甲種一等運轉士ノ海技免狀ヲ有シ五箇年以上ノ船舶ニ在リタル者

甲種二等運轉士ノ海技免狀ヲ有シ五箇年以上ノ船舶ニ在リタル者

海軍豫備少尉以下

乙種又ハ丙種船長ノ海技免狀ヲ有シ五箇年以上ノ船舶ニ在リタル者

海軍豫備兵曹長以下

乙種又ハ丙種船長ノ海技免狀ヲ有シ二箇年以上ノ船舶ニ在リタル者

海軍豫備上等兵曹以下

丙種運轉士ノ海技免狀ヲ有シ十箇年以上ノ船舶ニ在リタル者

海軍豫備一等兵曹以下

乙種一等運轉士ノ海技免狀ヲ有シ五箇年以上ノ船舶ニ在リタル者

乙種一等運轉士ノ海技免狀ヲ有シ二箇年以上ノ船舶職員ニ在リタル者

海軍豫備二等兵曹以下

機關長ノ海技免狀ヲ有シ十箇年以上ノ船舶ニ在リタル者

海軍豫備機關大尉以下

機關長ノ海技免狀ヲ有シ五箇年以上ノ船舶ニ在リタル者

海軍豫備機關中尉以下

一等機關士ノ海技免狀ヲ有シ五箇年以上ノ船舶ニ在リタル者

海軍豫備機關少尉以下

二等機關士ノ海技免狀ヲ有シ十箇年以上ノ船舶職員ニ在リタル者

海軍豫備上等機關兵曹以下

二等機關士ノ海技免狀ヲ有シ五箇年以上ノ船舶職員ニ在リタル者

海軍豫備一等機關兵曹以下

三等機關士ノ海技免狀ヲ有シ五箇年以上ノ船舶職員ニ在リタル者

海軍豫備二等機關兵曹以下

第十八條 本條例中船舶ノ噸數ハ登瀝噸數ニ依リ船舶職員ハ船舶職員法ノ規定ニ依ル船舶職員ヲ謂フ但シ高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用シ上級職員タリシ日數ハ下級職員タ

リシ日數ニ通算スルコトヲ得

附 則

本條例發布前ニ於ケル海軍豫備員ニシテ海軍少尉候補生又ハ海軍少機關士候補生ノ身分ヲ有スル者ハ別ニ辭令ヲ用井ス各海軍豫備少尉候補生又ハ海軍豫備機關少尉候補生ヲ命セラレタルモノトス
前項ニ依リ候補生ヲ命セラレタル者ハ一回ヲ限リ第四條及第十二條ノ規定ニ拘ラス教育ヲ施シ試験ヲ爲シ第十七條ノ區分ニ從ヒ任用シ又ハ進級セシムルコトヲ得
遞信省所管商船學校ノ簡易科卒業者ニ關シテハ海軍大臣ノ允當ト認メタル商船學校ノ卒業者ニ關スル規定ヲ準用ス

海軍豫備員條例施行細則

(明治三十七年七月 海軍省令第十二號)

海軍豫備員條例施行細則左ノ通定ム

海軍豫備員條例施行細則

第一條 海軍大臣ハ所要ニ應シ海軍豫備員ヲ教育ノ爲召集セムトスルトキ竝條例第五條第二號、第六條第二號、第七條第二號、第八條第二號及第十七條ニ依リ海軍豫備員ヲ任用又ハ採用セムトスルトキハ之ヲ告達ス

第二條 前條ノ告達ニ應シテ海軍豫備員タラムコトヲ志願スル者ハ志願書ニ履歷書及誓約書ヲ添ヘ海軍大臣ニ出願スヘシ

第三條 海軍大臣ハ前條ノ志願者ニ就キ其ノ教育ニ適スル者ヲ選拔シ海軍砲術練習所、海軍水雷術練習所又ハ海軍機關術練習所ニ入所ヲ命ス

第四條 海軍砲術練習所、海軍水雷術練習所又ハ海軍機關術練習所ニ入所ヲ命セラレタル者ハ情願ヲ以テ退所スルヲ得サルモノトス

第五條 海軍砲術練習所、海軍水雷術練習所又ハ海軍機關術練習所ニ入所ヲ命セラレタル者ニシテ修業ノ見込ナキ者ハ海軍大臣之ニ退所ヲ命ス

第六條 海軍砲術練習所、海軍水雷術練習所又ハ海軍機關術練習所ニ入所ヲ命セラレタル者ニシテ教育修了ノ上試験ニ合格シタル者ニハ修業證書ヲ授與シ退所ヲ命ス

第七條 海軍大臣ハ修業證書ヲ授與シタル者ヲ檢定委員ノ銓衡ニ附シ進級、任用若ハ採用ノ手續ヲ爲サシムルモノトス

第八條 條例第七條第一號及第八條第一號ニ該當スル者ニシテ海軍豫備員タラムト志願スルモノハ志願書(第一様式)ニ履歷書(第二様式)及誓約書(第三様式)竝身元證明書(第四様式)ヲ添ヘ隨時其ノ旨海軍大臣ニ願出ツヘシ此ノ場合ニ在リテハ海軍大臣ハ檢定委員ノ銓衡ニ附シ適任者ヲ選拔シ海軍豫備三等兵曹又ハ海軍豫備三等機關兵曹ニ任用ス

第八條ノ二 前條ノ志願者ノ履歷書(第二様式)ニハ必各自ノ卒業シタル當該學校長ノ與書ヲ要ス

當該學校長ハ右志願者ノ請求ニ依リ其ノ履歷ヲ證明スル爲與書スヘシ

第九條 海軍豫備員ノ身分ハ海軍省人事局ニ於テ之ヲ取扱フモノトス

第十條 海軍豫備員ニ任用又ハ採用セララル者ハ履歷書(第二様式)ニ通テ作リ海軍省人事局ニ差出スヘシ但シ豫備候補生ヨリ任用セララル者ハ此ノ限ニアラス

第十一條 海軍豫備員ハ身分其ノ他ニ異動ヲ生シ履歷ニ記入訂正削除等ヲ要スルトキハ其ノ相當官廳等ノ證明書ヲ添ヘ速ニ海軍省人事局ニ届出ツヘシ

第十二條 海軍豫備員ノ履歷ニハ原籍地、寄留地、族籍、氏名、誕辰、家族、出身、免狀、就職、任官、官等、俸給、補職、乘船、下船、轉勤、轉乘、召集、從軍、敘位、敘勳、收禁、處刑、處罰、懲戒、轉籍、轉住、分家、相續、改名等必要ナル事項ヲ記入スルモノトス

第十三條 海軍豫備員ノ身分其ノ他ニ異動アリタルトキ本人ヨリ之ヲ届出ルコト能ハサルトキハ家族ヨリ届出ルモノトス但シ家族ナキトキハ市町村長又ハ之ニ準スル者ヨリ届出ツヘシ

附 則

海軍豫備員ハ本則發布後三箇月以内ニ其ノ履歷書(第二様式)ニ通テ調製シ海軍省人事局

ニ差出スヘシ

(様式略)

陸軍服役條例

(明治二十九年六月勅令第二百三十八號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ陸軍服役條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍服役條例

第一章 將校ノ服役

第一款 現役

第二款 豫備役及後備役

第二章 准士官ノ服役

第三章 下士ノ服役

第一款 通則

第二款 現役

第三款 豫備役及後備役

第四章 兵卒ノ服役

第一款 通則

- 第二款 現役
- 第三款 豫備及後備役
- 第五章 補充兵ノ服役
- 第六章 雜則
- 附則
- 陸軍服役條例

第一章 將校ノ服役

第一款 現役

- 第一條 現役將校ハ所屬部隊ノ兵籍ニ編入シ現役定限年齢ニ滿ツル迄服役セシム但別ニ規定アルモノハ此ノ限ニアラス
- 第二條 將校ノ現役定限年齢ハ左ノ如シ
- | | | | | | |
|----|------|------|------|----|------|
| 大將 | 六十五歳 | 中將 | 六十二歳 | 少將 | 五十八歳 |
| 大佐 | 五十五歳 | 中佐 | 五十三歳 | 少佐 | 五十歳 |
| 大尉 | 四十八歳 | 中、少尉 | 四十五歳 | | |
- 元帥タル大將ノ現役定限年齢ハ之ヲ定メス
- 第三條 現役定限年齢ニ滿ツルモ他人ヲ以テ代フヘカラサル職ニ在ル者又ハ補充上必要

- アル者ハ留任ヲ命スルコトアルヘシ
- 第四條 現役定限年齢ニ滿ツルモ戰時若クハ事變ニ際スルトキ又ハ航海中或ハ外國駐劄中ハ現役期限ヲ延ハスコトアルヘシ
- 第五條 現役定限年齢ニ滿タサル服役十一年以上ニシテ現役ニ堪ヘサル者ハ將官ハ上諭ニ依リ上長官士官ハ陸軍大臣旨ヲ諭シテ現役ヲ退カシムルコトアルヘシ
- 第六條 現役將校傷疾若クハ疾病ニ由リ職務若クハ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ順序ヲ經テ休職又ハ退役ヲ陸軍大臣ニ願出ヘシ
- 第七條 休職停職ノ將校ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ師團長ノ管轄ニ屬ス他ノ師管ニ寄留スル者ハ寄留地所管師團長ノ監督ヲ受ク
- 第八條 休職停職ヲ命セラレタル者歸郷シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ但歸郷旅行一箇月以上ヲ要スルトキハ到着日ヲ豫定シ出發前本籍所管師團長ニ届出ヘシ
- 從前ノ在職地若クハ其ノ他ノ地ニ一箇月以上滞在若クハ寄留セント欲スル者ハ本籍市町村東京市京都市大阪市ニ於テ軍衙ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ本籍所管ノ師團長ニ届出テ歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ
- 前項ノ滞在地又ハ寄留地本籍所在ノ師管外ナルトキハ其地所管ノ師團長、本籍所在師

管内ノ他ノ聯隊區ナルトキハ其地所管ノ聯隊區司令官ニ滞在又ハ寄留ノ旨ヲ十四日以内ニ届出ヘシ

第九條 休職停職ノ將校十四日以上旅行又ハ寄留セント欲スルトキハ本籍市町村ニ於テ軍衙ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ師團長ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ

但シ佐官以下ノ將校ニシテ本籍所在ノ聯隊區内ニ於テ旅行又ハ寄留ヲ爲サムトスル場合ニハ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

前條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

外國ニ旅行又ハ在留セント欲スル者ハ目的及國名ヲ記シ且其期限ヲ豫定シ陸軍大臣ニ願出ツヘシ

前項ニ依リ許可ヲ受ケタル者出發セントスルトキ及歸朝シタルトキ第一項ニ準シ届出ツヘシ

第九條ノ二 滞在又ハ寄留ヲ爲シタル者本籍地ニ復歸シ又ハ滞在若クハ寄留換ヲ爲サムトスルトキハ其ノ地所管ノ師團長ニ届出ヘシ但シ本籍所在師管内ノ他ノ聯隊區ニ滞在又ハ寄留スル者本籍地ニ復歸シ又ハ佐官以下ノ將校ニシテ同一聯隊區内ニ於テ滞在若クハ寄留換ヲ爲サムトスルトキハ其地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ
前項ノ場合ニ於テ其ノ寄留地又ハ滞在從前ト師管ヲ異ニスルトキハ其ノ地所管ノ師團長・同一師管内ノ他ノ聯隊區ナルトキハ其ノ地所管ノ聯隊區司令官ニモ滞在又ハ寄

留ノ旨ヲ十四日以内ニ届出ヘシ

第九條ノ三 休職停職ノ將校本籍所在ノ聯隊區外ニ滞在又ハ寄留中十四日以上旅行セムトスルトキハ其ノ地市町村ニ於テ該地所轄軍衙ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ其ノ地所管ノ師團長ニ届出テ歸還シタルトキハ十四日以内ニ同師團長ニ届出ヘシ

第十條 休職停職ノ將校寄留地師管ノ兵籍ニ轉セムト欲スル者ハ師團長ニ願出テ許可ヲ受タルトキハ其ノ旨ヲ寄留地所管ノ師團長ニ届出ヘシ

寄留地師管ノ兵籍ニ轉シタル者ニ付テハ本條例ノ規定ニ於テ寄留地ヲ本籍地ト同視ス
第十一條 休職停職ノ將校他ノ師管ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ師團長ニ、本籍所在師管内ノ他ノ聯隊區ニ轉換シタルトキハ師團長及新所管ノ聯隊區司令官ニ、聯隊區内ニ於テ轉籍シタルトキハ聯隊區司令官及新住地ノ市町村長、東京市、京都市、大阪市ニ在リテハ區長以下同シニ届出ヘシ但シ將官ニ在リテハ總テ師團長ニ届出ヘシ
氏名ヲ變更シタルトキハ師團長ニ届出ヘシ

前二項ニ該當スル者他ノ師管ニ寄留スル場合ニ於テハ其ノ地所管ノ師團長、本籍所在師管内ノ他ノ聯隊區ニ寄留スル場合ニ於テハ其ノ地所管ノ聯隊區司令官ニモ届出ヘシ

本條ノ届出ハ事故發生ノ當日ヨリ十四日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第十一條ノ二 傷痕若ハ疾病ニ由リ休職ト爲リタル者全癒シタルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書又ハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ陸軍大臣ニ届出ツヘシ

第十一條ノ三 休職停職ノ將校ニシテ死亡又ハ所在不明ノ者アルトキハ其ノ戸主本人戸主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以内ニ師團長ニ届出テ他ノ師管ニ寄留中死亡又ハ所在不明ノトキハ其ノ地所管ノ師團長、本籍所在師管内ノ他ノ聯隊區ニ寄留中死亡又ハ所在不明ノトキハ其ノ他所管ノ聯隊區司令官ニモ届出ヘシ

所在不明者ノ歸郷シタルトキハ又踪跡ヲ知得シタルトキ亦前項ニ同シ

所在不明中戸籍ヲ轉換シタルトキハ第一項及第十一條第一項ニ準シ届出ヘシ

前諸項ノ届出ヲ爲スヘキ者ナキトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第十一條ノ四 休職停職ノ將校重罪輕罪罰金ヲ除クノ刑ニ處セラレタルトキ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戸主本人戸主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以内ニ師團長ニ届出ツヘシ其ノ本籍所在ノ聯隊區外ニ寄留スル者ニ在リテハ前條第一項ニ準ス

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第十一條ノ五 休職停職ノ將校家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出テ、他ノ師管ニ寄留スル者ニ在リテハ寄留地所管ノ師團長ニモ届出ヘシ

第十一條ノ六 本款ノ規定ニ依リ聯隊區司令官ニ届出ツル場合ニハ將官ニ在リテハ之ヲ

要セス

第十二條 休職停職ノ將官ヨリ陸軍大臣ニ差出ス願届書ハ本籍地所管ノ師團長ヲ經由シ、同佐官以下ノ將校ヨリ陸軍大臣ニ差出ス願届書ハ本籍地所管ノ師團長ヲ經由シ、師團長ヲ經由シ又ハ師團長ニ差出ス願届書ハ本籍地所管ノ師團長ニ係ルモノハ本籍地所管ノ聯隊區司令官、所在地又ハ寄留地所管ノ師團長ニ係ルモノハ本籍地所管ノ聯隊區司令官ヲ經由シ、聯隊區司令官ヲ經由シ又ハ聯隊區司令官ニ差出ス願届書ハ當該聯隊區ニ於ケル市町村長、島司、郡長ヲ經由スヘシ但シ第十一條ノ二ノ届書ハ將官ニ在リテハ現住地所管ノ師團長、佐官以下ノ將校ニアリテハ現住地ノ師團長及聯隊區司令官ヲ經由シ、同一師管内ノ他ノ聯隊區ニ轉籍シタル場合ニ於テ師團長ニ差出ス願届書ハ舊所管ノ聯隊區司令官ヲ經由シ、同一聯隊區内ニテ轉籍シタル場合ニ於テ聯隊區司令官ニ差出ス願届書ハ舊住地ノ市町村長、島司、郡長ヲ經由スヘシ

第十二條ノ二 第八條乃至第十一條ノ五ノ届書ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十二條ノ三 通報人正當ノ事由ナクシテ軍衙ノ命令ヲ通報セス若ハ其ノ通報ヲ遅緩シタルトキハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十三條 本款ハ現役將校相當官ニ適用ス
第十四條 將校相當官ノ現役年限年齢ハ左ノ如シ

| | | | | | |
|-------|-------|------|-------|-------|------|
| 主計 總監 | 軍醫 總監 | 六十二歲 | 主計 監 | 軍醫 監 | 六十歲 |
| 一等主計正 | 一等軍醫正 | 五十六歲 | 二等主計正 | 二等軍醫正 | 五十四歲 |
| 二等藥劑正 | 一等獸醫正 | 五十二歲 | 二等藥劑正 | 二等獸醫正 | 五十歲 |
| 三等主計正 | 三等軍醫正 | 五十二歲 | 三等主計正 | 三等軍醫正 | 五十歲 |
| 三等藥劑正 | 三等獸醫正 | 四十七歲 | 三等藥劑正 | 三等獸醫正 | 四十七歲 |

第二款 豫備役及後備役

第十五條 豫備役後備役將校ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ師團長ノ管轄ニ屬ス
 第十六條 豫備役將校ノ服役期限ハ現役年限年齢ニ滿ツル年ノ三月三十一日迄トス
 第十七條 現役年限年齢ニ滿ツル年ノ三月三十一日後豫備役ニ轉入シタル者ハ豫備役轉入ノ翌日ヨリ後備役ニ服セシム
 第十八條 後備役將校ノ服役期限ハ現役年限年齢ニ滿ツル年ヨリ第六年目ノ三月三十一日迄トス
 第十九條 豫備役後備役將校ノ服役期限既ニ滿ツルト雖戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其ノ期限ヲ延ハスコトアルヘシ

第十九條 第三條第四條第十八條ニ依リ留任ヲ命シ又ハ服役ヲ延期シタル者ト雖服役年期ノ計算ハ留任セサル者又ハ服役ヲ延期セサル者ニ同シ
 第二十條 豫備役後備役將校服役滿期ニ至リタルトキハ辭令ヲ用井スシテ豫備役ハ後備役ニ後備役ハ退役ニ入ルモノトス
 第二十一條 豫備役後備役將校ハ滿期引續キ服役スルコトヲ得志願ノ者ハ年數ヲ定メ陸軍大臣ニ願出ヘシ
 第二十二條 豫備役後備役將校傷疾若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ退役ヲ陸軍大臣ニ願出ヘシ
 第二十三條 豫備役後備役將校ハ現役將校同等官ノ次席トス
 第二十四條 豫備役後備役將校ハ召集ニ應スルトキ及朝拜參賀公私ノ儀式祭典其ノ他廉アル宴會等ノ場所ニ列スルトキハ陸軍ノ制服ヲ著スルモノトス但文官ニ任セラレタル者ハ召集ノ場合ヲ除クノ外文官ノ制服ヲ著スルモ妨ケナシ
 第二十五條 豫備役後備役將校ハ職時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ勤務演習ノ爲メ召集ス
 第二十六條 豫備役後備役將校ニシテ文官ニ任セラレ餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル者、外國ニ在ル者及市町村長、助役、收入役ト爲ル者ハ勤務演習ノ爲メ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲ル者其ノ開會中亦同シ

第二十七條 豫備役後備役將校ニシテ本籍所在ノ聯隊區外ニ寄留シ其ノ地附近ノ軍隊ニ於テ勤務演習ヲ爲サムト欲スル者ハ師團長ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタルトキハ指令書受領後ハ寄留地到着後三日以内ニ豫備役後備役編入年現官ニ任セラレタル年月、嘗テ勤務演習ヲ爲シタル年月並陸軍補充條例第五十八條及第六十六條中ノ當該事項ヲ記シ寄留地ノ師團長ニ届出ヘシ但シ本籍所在師管内ノ他ノ聯隊區ニ寄留スル者ハ寄留地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第二十八條 豫備役後備役將校ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫ヲ願フ者ハ其ノ事實ヲ證明シ師團長ノ許可ヲ請フヘシ

第二十九條 現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ入ル將校歸郷シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ

從前ノ在職地若クハ其ノ他ノ地ニ一箇月以上滞在若クハ寄留セント欲スルトキ若クハ歸郷旅行日數一箇月以上ヲ要スルトキハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ師團長ニ届出テ歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ
前項ノ滞在地又ハ寄留地本籍所在ノ師管外ナルトキハ其ノ地師管ノ師團長、本籍所在師管内ノ他ノ聯隊區ナルトキハ其地所管ノ聯隊區司令官ニ滞在又ハ寄留ノ旨ヲ十四日以内ニ届出ヘシ

第三十條 豫備役後備役將校十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ師團長ニ届出テ歸郷シタルトキハ

十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ但シ佐官以下ノ將校ニシテ本籍所在ノ聯隊區内ニ於テ旅行又ハ寄留ヲ爲サムトスル場合ニハ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

前條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
外國ニ旅行又ハ在留セムト欲スルモノハ目的及國名ヲ記シ且其ノ期限ヲ豫定シ陸軍大臣ニ願出ヘシ

前項ニ依リ許可ヲ受タルモノ出發セムトスルトキ及歸朝シタルトキハ第一項ニ準シ届出ヘシ
外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時以内ニ師團長ニ届出ヘシ

第三十條ノ二 滞在又ハ寄留ヲ爲シタル者本籍地ニ復歸シ又ハ滞在若クハ寄留換ヲ爲サムトスルトキハ其ノ地所管ノ師團長ニ届出ヘシ但シ本籍所在師管内ノ他ノ聯隊區ニ滞在又ハ寄留スル者本籍地ニ復歸シ又ハ佐官以下ノ將校ニシテ同一聯隊區内ニ於テ滞在又ハ寄留換ヲ爲サムトスルトキハ其ノ地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ寄留地又ハ滞在地從前ト師管ヲ異ニスルトキハ其ノ地所管ノ師團長、同一師管内ノ他ノ聯隊區ナルトキハ其ノ地所管ノ聯隊區司令官ニモ滞在又ハ寄留ノ旨ヲ十四日以内ニ届出ヘシ

第三十條ノ三 豫備役後備役將校本籍所在ノ聯隊區外ニ於テ勤務演習ヲ爲スヘキ許可ヲ受ケタル者十四日以上旅行セムトスルトキハ寄留地市町村ニ於テ之ニ關スル軍衙ノ命ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ其ノ地所管ノ聯隊區司令官ニ届出テ歸還シタルトキハ十

四日以内ニ同聯隊區司令官ニ届出ヘシ

前項ノ届書ハ將官ニ在リテハ師團長ニ之ヲ差出スヘシ

第三十一條 豫備役後備役將校他ノ師管ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ師團長ニ本籍所在師管内ノ他ノ聯隊區ニ轉籍シタルトキハ師團長及新所管ノ聯隊區司令官ニ、聯隊區内ニ於テ轉籍シタルトキハ聯隊區司令官及新住地ノ市町村長ニ届出ヘシ但シ將官ニ在リテハ總テ師團長ニ届出ヘシ

氏名ヲ變更シタルトキハ師團長ニ届出ヘシ

前二項ニ該當スル者他ノ師管ニ寄留スル場合ニ於テハ其ノ地所管ノ師團長、本籍所在師管内ノ他ノ聯隊區ニ寄留スル場合ニ於テハ其ノ地所管ノ聯隊區司令官ニモ届出ヘシ

本條ノ届出ハ事故發生ノ當日ヨリ十四日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第三十二條 豫備役後備役將校ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ

第三十二條ノ二 豫備役後備役將校ニシテ職業ニ從事スルトキ及之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ他ノ師管ニ寄留スル場合ニ在リテハ其ノ地所管ノ師團長ニモ届出ヘシ

第三十三條

豫備役後備役將校ニシテ死亡又ハ所在不明ノ者アルトキハ其ノ戶主本人戶主ナレバ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以内ニ師團長ニ届出テ他ノ師管ニ寄留中死亡又ハ所在不明ノトキハ其ノ地所管ノ師團長、本籍所在師管内ノ他ノ聯隊區ニ寄留中死亡又ハ所在不明ノトキハ其地所管ノ聯隊區司令官ニモ届出ヘシ

所在不明ノ者歸郷シタルトキ又ハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦前項ニ同シ

所在不明中戶籍ヲ轉換シタルトキハ第一項及第三十一條第一項ニ準シ届出ヘシ

前諸項ノ届出ヲ爲スヘキ者ナキトキ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第三十四條

豫備役後備役將校重罪輕罪罰金ヲ除クノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戶主本人戶主ナレバ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ其ノ本籍所在ノ聯隊區外ニ寄留スル者ニ在リテハ前條第一項ニ準ス

第三十四條ノ二

豫備役後備役將校破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出テ他ノ師管ニ寄留スル者ニ在リテハ其ノ地所管ノ師團長ニ届出ヘシ

第三十四條ノ三

本款ノ規定ニ依リ聯隊區司令官ニ届出ツル場合ニハ將官ニ在リテハ之ヲ要セス

第三十五條

豫備役後備役將官ヨリ陸軍大臣ニ差出ス願届書ハ本籍地所管ノ師團長ヲ經

由シ、同佐官以下ノ將校ヨリ陸軍大臣ニ差出ス願届書ハ本籍地所管ノ師團長ヲ經由シ、師團長ヲ經由シ又ハ師團長ニ差出ス願届書ハ本籍地所管ノ師團長ニ係ルモノハ本籍地所管ノ聯隊區司令官、滞在在又ハ寄留地所管ノ師團長ニ係ルモノハ滞在在又ハ寄留地所管ノ聯隊區司令官ヲ經由シ、聯隊區司令官ヲ經由シ又ハ聯隊區司令官ニ差出ス願届書ハ當該聯隊區ニ於ケル市町村長、島司、郡長ヲ經由スヘシ同一師管内ノ他ノ聯隊區ニ轉籍シタル場合ニ於テ師團長ニ差出ス願届書ハ舊所管ノ聯隊區司令官ヲ經由シ、同一聯隊區内ニテ轉籍シタル場合ニ於テ聯隊區司令官ニ差出ス願届書ハ舊住地ノ市町村長、島司、郡長ヲ經由スヘシ

月主又ハ家事擔當者ヨリ差出ス願届書ハ前項ニ準ス

第三十六條 第二十七條、第二十九條乃至第三十四條ノ二ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十七條 通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遅緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第三十八條 本款ハ豫備役後備役ノ將校相當官ニ適用ス

第二章 准士官ノ服役

第三十九條 (削除)

第四十條 (削除)

第四十一條 准士官ノ現役定限年齢ハ左ノ如シ

砲工兵上等工長

五十一歳

憲兵特務曹長、樂長補、上等計手、上等看護長

四十八歳

歩騎砲一輜重兵特務曹長

四十歳

第四十二條 現役定限年齢ニ滿タサルモ服役十一年以上ニシテ現役ニ堪ヘサル者ハ所管長官旨ヲ諭シテ現役ヲ退カシムルコトアルヘシ

第四十三條 特務曹長ハ現役定限年齢ニ滿タサルモ正當ノ事故アルトキハ陸軍大臣本人ノ願ニ依リ現役ヲ免シ豫備役ニ服セシムルコトヲ得

第四十四條 特務曹長、憲兵特務曹長ヲ除クハ現役定限年齢ニ滿チ現役ヲ退キタルトキハ豫備役ニ豫備役終ルノ後ハ後備役ニ服セシム

第四十五條 豫備役後備役特務曹長、憲兵特務曹長ヲ除クハ服役年期ハ豫備役ニ在テハ現役定限年齢ニ滿ツル年ヨリ第六年目ノ三月三十一日迄トシ後備役ニ在テハ豫備役滿期後五箇年トス

第四十六條 豫備役後備役憲兵特務曹長砲工兵上等工長上等計手上等看護長及豫備役後備役樂長補ノ服役年期ハ豫備役ニ在テハ現役定限年齢ニ滿ツル年ノ三月三十一日迄トシ同年三月三十一日後備役ニ轉入シタル者ハ轉入ノ翌日ヨリ後備役ニ服セシメ後備役

ニ在テハ現役定限年齢ニ滿ツル年ヨリ第六年目ノ三月三十一日迄トス

第四十七條 本章ニ別段ニ規定アルモノヲ除クノ外第一章ノ規定ハ准士官ニ關シテ之ヲ準用ス但シ第二十一條ノ願書ハ之ヲ師團長ニ差出スヘシ

第四十八條 豫備役後備役ノ下士ヨリ特務曹長ニ進級シタル者ノ服役年期ハ豫備役ニ在テハ現役定限年齢ニ滿ツル年ヨリ第六年目ノ三月三十一日迄トシ後備役ニ在テハ現役定限ニ滿ツル年ヨリ第十一年目ノ三月三十一日迄トス

豫備役後備役ノ下士ヨリ憲兵特務曹長砲工兵上等工長上等計手上等看護長及樂長補ニ進級シタル者ノ服役年限ハ豫備役ニ在リテハ現役定限年齢ニ滿ツル年ノ三月三十一日迄トシ後備役ニ在リテハ現役定限年齢ニ滿ツル年ヨリ第六年目ノ三月三十一日迄トス

第三章 下士服役

第一款 通則

第四十九條 下士ノ服役ハ之ヲ分テ現役豫備役及後備役トス其ノ服務ヲ終リタルトキハ

第一國民兵役ニ服セシム

第四十九條ノ二 下士ノ服役期限ハ左ノ如シ

- 一 志願ニ依ラスシテ兵卒ヨリ下士ニ任セラレタル者ハ徵集年ノ十二月ヨリ起算シ十七箇年四箇月

二 前號ノ外下士ニ任セラレタル者ハ下士任官ノ年ノ十二月ヨリ起算シ十二年四箇月

第五十條 各服役期限既ニ滿ツルト雖戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其ノ期限ヲ延ハスコトアルヘシ其ノ服役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ

第五十一條 服役ヲ離ルルトキ第四十九條ノ二ノ服役期限ヲ過キ豫備役後備役ニ服セサル者及事故ニ由リ常備後備ノ役若クハ兵役ヲ免スル者ハ同時ニ其ノ官ヲ免シ後備役滿期ノ者ハ別ニ辭令ヲ用井スシテ其ノ官消滅スルモノトス

第二款 現役

第五十二條 現役下士ハ所屬部隊ノ兵籍ニ編入シ現役期限滿ツル迄服役セシム

第五十三條 隊附電信教導大隊、各教導隊及生徒隊附ヲ含ム以下同シ 現役下士ハ營内ニ居住セシムルヲ例トス憲

兵科下士、及軍樂部下士ハ總テ之ヲ營外ニ居住セシメ諸工長經理部、衛生部下士及懲

治隊附下士ハ人員ヲ限リ營外ニ居住セシム

警備隊附下士ニシテ其ノ警備隊區在籍ノ者ハ外泊ヲ許可スルコトアルヘシ

隊附ニ非サル現役下士ト雖必要ニ應シ營内ニ居住セシムルコトヲ得

第五十四條 下士ノ現役服役期限ハ左ノ如シ
一 憲兵科下士ハ前服役年月ヲ通算シ六箇年但シ歩、騎、砲、工、輜重兵科ノ豫備役後備役下士ヨリ轉科シタル者ヲ除ク

二 歩、騎、砲、工、輜重兵科下士砲兵工科學校及獸醫學校卒業ノ者ヲ除ク縫工長靴工長及衛生部下士ハ入隊ノ月ヨリ四箇年但シ警備隊附下士ニシテ警備隊區在籍ノ者ニ在リテハ入隊ノ

月ヨリ三箇年

- 三 騎、砲、輜重兵科下士中砲兵工科學校又ハ獸醫學校ヲ卒業シタル者ハ任官ノ月ヨリ三箇年但シ工長外ノ者ハ任官ノ月ヨリ二箇年
- 四 計手ハ計手ニ任セラレタル月ヨリ二箇年但シ豫備役歩、騎、砲、工、輜重兵下士上等兵ニシテ經手ニ任セラレタル者ヲ除ク
- 五 軍樂部下士ハ樂手補ヲ命セラレタル月ヨリ五箇年
- 六 豫備役後備役下士ニシテ再ヒ現役ニ服シタル者並歸休中又ハ豫備役ニアル上等兵及之ト同等階級ノ兵卒ニシテ現役下士ト爲リタル者ハ再入隊ノ年ノ十二月ヨリ二箇年

志願ニ依ラスシテ兵卒ヨリ下士ニ任セラレタル者ノ現役服役期限ハ前項ニ依ラス入隊ノ月ヨリ三箇年トス

第五十五條

下士ノ現役年限ハ左ノ如シ

- 一 官衙第二號ニ掲ク、電信教導大隊、各教隊及懲治隊附各兵科各部下士 四十八歲
- 二 師團司令部、旅團司令部、警備隊司令部、要塞司令部、臺灣總督府陸軍幕僚、臺灣陸軍經理部、臺灣陸軍醫部、臺灣陸軍獸醫部附各兵科各部下士、憲兵司令部、憲兵隊附憲兵科及各部下士、軍樂隊、軍樂生徒隊附各部下士 四十五歲
- 三 隊附前二號ニ掲ク、除ク各兵科各兵部下士 四十歲

第五十六條

下士ハ現役滿期ノ後現役年限ニ滿ツル迄數次再服役ヲ志願スルコトヲ

得

前項再服役ノ期間ハ毎回一箇年トス但シ入隊後 兵卒外ノ出身者ニ在リテハ任官後 六箇年以上現役ニ服シタル者 第五十四條第六號ニ該當スルモノニ在リテハ一箇年以上數箇年ヲ志願スルコトヲ得

第五十七條 前條ニ依リ再服役ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ軍紀ヲ紊リ又ハ其他ノ事故ニヨリ現役ニ服セシムヘカラスト認ムル時ハ聯隊長又之ト同等以上ノ權アル長官其許可ヲ取消スコトヲ得

第五十八條 再服役ハ中隊ニ在テハ其ノ所屬中隊長 憲兵分隊ニ在テハ分隊長、懲治隊ニ出願シ該中隊長ハ順序ヲ經テ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請フヘシ

諸本部官廳ニ在テハ直屬長官ニ出願スヘシ但直屬長官聯隊長ト同等ノ權ナキトキハ聯隊長同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請フヘシ

經理部、衛生部下士ノ再服役ハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ヨリ當該經理部長又ハ軍醫部長ニ豫メ協議スヘシ

再服役ヲ許可シタルトキハ誓約書ヲ中隊長若クハ直屬長官ニ出サシム

第五十八條ノ二 第五十六條第二項但書ノ者ハ服役中願ニ依リ再服役ノ年月ヲ短縮スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ少クモ現役ヲ退カムトスル二箇月以前ニ出願スルヲ要ス

前項ノ出願期內ハ再服役短縮出願ノ取消ヲ許スコトアルヘシ

前條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十九條 再服役許可ノ後轉隊若クハ轉職シタルトキハ其ノ誓約書ヲ新所屬ノ中隊長

若クハ直屬長官ニ移スヘシ

第六十條 現役中本人ヲ要スルニ非サレハ一家ノ生計ヲ營ミ難キ事故ヲ生スルトキハ本人ノ願ニ依リ現役ヲ免スルコトヲ得

第六十一條 現役中傷痍若クハ疾病ニ由リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ現役ヲ免ス

第六十二條 現役中傷痍若クハ疾病ニ由リ常備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ其ノ役ヲ免シ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第六十三條 憲兵下士ニシテ素行修マラサル者ハ特ニ現役ヲ免ス

第六十四條 憲兵下士其ノ職務ヲ辱シムルニ依リ懲罰ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キモノハ陸軍懲罰令ニ拘ハラス官ヲ免スルコトヲ得

第六十五條 現役ヲ離ルルトキ第四十九條ノ二ノ服役期限起算ノ月ヨリ七年四箇月ニ滿

タサル者ハ豫備役ニ十七年四箇月ニ滿タサル者ハ後備役ニ服セシム

第六十六條 第六十二條ニ依リ常備後備ノ役ヲ免シタル者ハ第一國民兵ニ服セシム

下士ニシテ禁錮ノ刑ニ處セラレ官ヲ失ヒ又ハ陸軍懲罰令若クハ第六十四條ニ依リ官ヲ免セラレタル者ハ步騎砲工輜重兵科及經理部衛生部下士計手ヲ除クニ在テハ當該兵科部ノ

一等卒又ハ之ト同等階級ノ兵卒トナシ憲兵科軍樂部下士及計手ニアリテハ前兵科前兵科ナキ者ハ

歩兵科ノ一等卒ト爲シ其服役シタル年月ヲ通算シ三箇年ニ滿タサル者ハ三箇年ニ滿ツル迄現役ニ七年四箇月ニ滿タサル者ハ七年四箇月ニ滿ツル迄豫備役ニ十七年四箇月ニ

滿タサル者ハ十七年四箇月ニ滿ツル迄後備役ニ服セシメ十七年四箇月ヲ過クル者ハ第一國民兵役ニ服セシム

第六十七條 現役下士ニシテ第四十九條ノ二ノ服役期限起算ノ月ヨリ七箇年四箇月若クハ十七箇年四箇月ノ後尙豫備役若クハ後備役ニ服センコトヲ志願スル者ハ其ノ年數ヲ定メ現役滿期ノ際聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ願出ヘシ但豫備役ハ現役定限年齡ニ滿ツル年ノ三月三十一日後後備役ハ滿五十歳トナル年ノ三月三十一日ヲ以テ終期トス

聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官前項ノ服役ヲ許可シタルトキハ本人所管ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ
第六十八條 第六十條乃至第六十四條ニ當ル者アルトキハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ハ師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請ヒ現役、常備後備役又ハ兵役ヲ免ス但師團長及之ト同等以上ノ權アル長官ニ在テハ自ラ之ヲ處分ス
第六十九條 現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者ハ其ノ刑期中及逃亡中ノ日數ハ現役服役年期ニ算入セス

第三款 豫備役及後備役

第七十條 豫備役後備役下士ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス
第七十二條ノ二 豫備役後備役軍曹伍長及同相當官ハ現役滿期後二箇年以内ニ更ニ現役ヲ志願スルコトヲ得

各兵科憲兵科ヲ除クノ豫備役後備役軍曹伍長ニシテ六箇年以上現役ニ服シタル者ハ現役満期後二箇年以内ニ憲兵科ノ現役下士ヲ志願スルコトヲ得

第七十條ノ三 前條ニ依リ服役セムト欲スル者ハ其ノ願書ニ原所屬部隊、現官任命及現役満期ノ年月日、現役年數、現役満期後ノ職業並服役スヘキ部隊等ヲ記シ市町村長、聯隊區司令官ヲ經テ其ノ服役セムトスル部隊長ニ差出スヘシ

前項ノ願書ニハ市町村長ハ與書證印ヲ爲シ聯隊區司令官ハ本人在郷中ノ事項ニ關シ意見ヲ添附シ之ヲ服役セムトスル部隊長ニ送附スヘシ但シ原所屬部隊外ニ服役セムトスル者ニ在リテハ聯隊區司令官其ノ願書ヲ原所屬ノ隊長ニ送附シ原所屬部隊長ハ現役中ニ於ケル勤務及品行ニ關シ意見ヲ添附シ之ヲ服役セムトスル部隊長ニ送附スヘシ

第七十條ノ四 豫備役後備役下士ニシテ現役ニ服シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ニ届出ヘシ

第七十一條 豫備役下士ノ服役期限ハ第四十九條ノ二ノ服役期限起算ノ月ヨリ七年四箇月ニ滿ツル迄トス

第七十二條 後備役下士ノ服役期限ハ第四十九條ノ二ノ服役期限起算ノ月ヨリ十七箇年四箇月ニ滿ツル迄トス

第七十三條 豫備役後備役下士服役満期ニ至リタルトキハ別ニ辭令ヲ用井スシテ豫備役ハ後備役後備役ハ第一國民兵役ニ入ルモノトス

第七十四條 豫備役後備役下士満期後引繼キ服役セント欲スルトキハ年數ヲ定メ聯隊區司令官ニ願出ヘシ但豫備役ハ現役定限年齢ニ滿ツル年ノ三月三十一日後備役ハ滿五十五歳トナル年ノ三月三十一日ヲ終期トス

第七十五條 豫備役後備役下士傷疾若クハ疾病ニ由リ豫備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ第一國民兵役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

在郷中傷疾若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第一項ニ當ル者アルトキハ聯隊區司令官ハ師團長ノ認可ヲ請ヒ豫備役後備役又ハ兵役ヲ免ス但シ召集中ニ在テハ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官第六十八條ノ例ニ依リ處分シ本籍所管ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第七十五條ノ二 豫備兵後備役憲兵下士召集中其ノ職務ヲ辱シムルニ依リ懲罰ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キモノハ陸軍懲罰令ノ規定ニ拘ラス官ヲ免スルコトヲ得

第七十五條ノ三 豫備役後備役下士ニシテ禁錮ノ刑ニ處セラレ官ヲ失ヒ又ハ陸軍懲罰令若ハ前條ニ依リ官ヲ免セラレタル者ハ步騎砲工輜重兵科及經理部衛生部下士計手ニ在リテハ當該兵科部ノ一等卒又ハ之ト同等階級ノ兵卒トナシ憲兵科軍樂部下士及計手ニ在リテハ前兵科前兵科者ハ歩兵科ノ一等卒ト爲ス

第七十六條 豫備役後備役下士ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度簡閱點呼ヲ爲シ又勤務演習ノ爲召集ス

第七十七條 豫備役後備役下士ニシテ文官ニ任セラレ餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル者、外國ニ在ル者及市町村長、助役、收入役トナル者ハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲ル者其ノ開會中亦同シ

第七十八條 豫備役後備役下士本籍所在聯隊區ノ簡閱點呼開始前三十日迄ニ出願スルトキハ寄留地ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ得

一箇年以上他ノ師管ニ寄留スル者ハ寄留地師管ニ於テ、同師管内本籍所在ノ聯隊區ト交通不傾ノ地ニ一箇年以上寄留スル者ハ寄留地ノ聯隊區ニ於テ願ニ依リ勤務演習ヲ爲スコトヲ得

前二項ニ依リ願出ツル者ハ其ノ願書ニ本籍市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

許可ヲ受ケタル者ニシテ本籍所在ノ聯隊區外ニ寄留スル場合ニ在リテハ指令書受領後寄留前出願ノ者

ハ寄留地到着後 三日以内ニ豫備役後備役編入年、現官ニ任セラレタル年月及曾テ勤務演習ヲ爲シタル年月日ヲ記シ寄留地所管ノ聯隊區司令官ニ届出テ本籍所在ノ聯隊區内ニ寄留スル場合ニ在リテハ同上期日内ニ其ノ市町村長ニ届出ヘシ

第七十八條ノ二 前條第四項ノ届出ヲ爲シタル者寄留換ヲ爲シ又ハ本籍地ニ復歸セムトスルトキハ其ノ地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ但シ聯隊區内ニテ寄留換ヲ爲シタル

トキハ三日以内ニ其ノ地ノ市町村長ニ届出テ本籍所在ノ聯隊區内ニ寄留スル者其ノ本籍地ニ復歸セムトスルトキハ其ノ地ノ市町村長ニ届出ヘシ

第七十九條 豫備役後備役下士ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其ノ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ但シ第七十八條第一項又ハ第二項ノ許可ヲ受ケタル者ニ在リテハ寄留地市町村長ノ與書證印ヲ受ケ其ノ地所管ノ聯隊區司令官ニ願出ヘシ

第八十條 現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ入ル下士ハ七日以内ニ從前ノ在職地ヲ出發シ一日行程十二里詰ヨリ鈔カラサル日數間ニ歸郷シ著後十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

從前ノ在職地若クハ其ノ他ノ地ニ八日以上滞在若クハ寄留セムトスルトキハ前項ノ出發期日内ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

第八十一條 豫備役後備役下士十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集ノ擧アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時間以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官

二届出ヘシ

第八十一條ノ二 豫備役後備役下士ニシテ寄留地ニ於テ簡閱點呼ヲ受ケ又ハ勤務演習ヲ爲スヘキ許可ヲ受ケタル者十四日以上旅行セムトスルトキハ其ノ地市町村ニ於テ簡閱點呼又ハ勤務演習召集ノ命アルトキハ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ其ノ地所管聯隊區司令官ニ届出テ歸還シタルトキハ十四日以内ニ同司令官ニ届出ヘシ但シ本籍所在ノ聯隊區内ニ寄留スル者ニ在リテハ其ノ地ノ市町村長ニ届出ヘシ

第八十二條 豫備役後備役下士他ノ聯隊區ニ戸籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ、聯隊區内ニ於テ轉籍シタルトキハ聯隊區司令官及新住地ノ市町村長ニ届出ヘシ

氏名ヲ變更シタルトキハ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

寄留地ニ於テ簡閱點呼ヲ受ケ又ハ勤務演習ヲ爲スヘキ許可ヲ受ケタル者前二項ニ該當スル場合ニ於テ本籍所在ノ聯隊區外ニ寄留スルトキハ其ノ地所管ノ聯隊區司令官、本籍所在ノ聯隊區内ニ寄留スル者ニ在リテハ其ノ他ノ市町村長ニモ届出ヘシ
本條ノ届出ハ事故發生ノ當日ヨリ十四日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第八十三條 豫備役後備役下士ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第八十四條 豫備役後備役下士ニシテ死亡又ハ所在不明ノ者アルトキ及所在不明中戸籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戸主 本人戸主ナレハ家族 中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以内ニ聯隊區司令官ニ届出ヘシ所在不明者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但シ他ノ聯隊區ニ戸籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出テ聯隊區内ニ於テ轉籍シタルトキハ聯隊區司令官及新住地ノ市町村長ニ届出ヘシ
家族ナキモノニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第八十五條 豫備役後備役下士重罪輕罪 罰金ヲ 刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其戸主 本人戸主ナレハ家族 中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以内ニ聯隊區司令官ニ届出ヘシ
家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第八十五條ノ二 豫備役後備役下士ニシテ士官勤務適任證書ヲ有スル者破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキハ十四日以内ニ聯隊區司令官ヲ經テ師團長ニ届出ヘシ

第八十六條 豫備役後備役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其ノ召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算入セス

第八十七條 第七十條ノ四第七十八條第七十八條ノ二第八十條乃至第八十五條ノ二ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第八十八條 通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第四章 兵卒ノ服役

第一款 通則

第八十九條 本章中ノ兵卒又ハ兵ニハ雜卒及職工ヲ包含ス

第九十條 徵兵令第七條第十六條第二十四條第二十九條第一項但書及第三項ノ規定ハ憲兵上等兵、樂手補及下士ニシテ官ヲ失ヒ若クハ官ヲ免セラレ一等卒ト爲リタル者並ニ第百六十條ノ兵卒ニ適用ス

第九十一條 憲兵上等兵、樂手補ノ服役期限ハ十七箇年四箇月トシ之ヲ分テ現役豫備役及後備役トス其ノ服役終リタルトキハ第一國民兵役ニ服セシム

第九十二條 兵卒ハ年齡滿四十歳ヲ以テ服役ノ終期トス但第百三十二條ニ依リ服役スル者ハ滿四十五歳トナル年ノ三月三十一日ヲ以テ終期トス

第二款 現役

第九十三條 現役兵ハ入隊ノ日ヨリ其ノ隊ノ兵籍ニ編入シ現役期限滿ツル迄服役セシム

第九十四條 現役兵ハ營内ニ居住セシムルヲ例トス
憲兵上等兵、樂手補ハ營外ニ居住セシム

警備隊伍長勤務上等兵、計手勤務上等兵及上等看護卒中品行方正勤務勉勵且技藝熟達ノ者ハ外泊ヲ許スコトアルヘシ

第九十五條 憲兵上等兵ノ現役期限ハ前服役年月ヲ通算シ六箇年トス

第九十六條 砲兵助卒、砲兵輪卒、輜重輪卒及看護卒ノ現役期限ハ二箇年四箇月トシ砲兵助卒ハ一箇年間、砲兵輪卒ハ四箇月間、輜重輪卒ハ三箇月間看護卒ハ四箇月間在營ノ後歸休セシム

戰時若クハ事變ニ際スルトキ其ノ他必要ノ場合ニハ在營期限ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第九十七條 樂手補ノ現役期限ハ樂手補ヲ命セラレタル月ヨリ五箇年トス

第九十八條 警備隊現役兵ハ一箇年間在營ノ後歸休セシム

第九十九條 警備隊現役兵中上等兵タルノ技能ヲ有スル者及上等兵、上等看護卒ニシテ志願ノ者ハ尙一箇年間在營セシムルコトヲ得

警備隊上等兵上等看護卒中下士タルノ技能ヲ有スル者ニシテ志願ノ者ハ現役期限滿ツル迄在營セシムルコトヲ得

第一百條 步騎砲工輜重兵科ノ兵卒除ク及縫工卒、靴工卒ニシテ下士タルノ技能ヲ有スルモノハ一箇年再服役ヲ志願スルコトヲ得但シ下士任官前砲兵工科學校又ハ獸醫學校

二分遣ヲ要スル者ハ二箇年トス
歩兵科兵卒及看護卒ニシテ下士タルノ技能ヲ有スルモノハ現役トシテ二箇年在營ノ延

期ヲ志願スルコトヲ得

第一項第二項ノ許可ヲ得タルモノニシテ補充上ノ關係ニヨリ下士ニ任スヘキ見込ナキ時ハ願ニヨリ許可ヲ取消スコトアルヘシ

憲兵上等兵及樂手補現役年限年齢ニ滿ツル迄數次再服役ヲナスコトヲ得其再服役年期ハ一箇年以上トス

前諸項ノ取扱ニ關シテハ第五十八條及第五十九條ノ規定ヲ準用ス

第一百一條 兵卒ノ現役年限年齢ハ四十歳トス

第一百二條 現役中本人ヲ要スルニアラサレハ家族自活シ能ハサル事故ヲ生スルトキハ其ノ家族ノ願ニ依リ兵役ヲ免ス

第一百三條 現役中傷疾若クハ疾病ニ由リ一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ現役ヲ免ス

第一百四條 現役中傷疾若クハ疾病ニ由リ常備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ其ノ役ヲ免シ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ其兵役ヲ免ス

第一百四條ノ二 第一百條第一項又ハ第二項ニヨリ再服役又ハ在營延期ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ軍紀ヲ紊リ又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ下士タルヲ得ヘカラスト認ムル時ハ聯隊長又ハ之ノ下同等以上ノ權アル長官其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第一百五條 憲兵上等兵現役中左ニ掲ケル事項ニ當ル者ハ其ノ職ヲ免ス

一 職務ヲ辱シムルニ由リ懲罰ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キトキ

二 素行修マラス屢懲罰ノ處分ヲ受ケ又ハ上官ノ説諭ヲ受ケルモ改悛ノ狀ナキトキ

第一百六條 現役ヲ離ルルトキ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ七年四箇月ニ滿タサル者ハ豫備役ニ依リ常備後備ノ役ヲ免セラレタル者ハ第一國民兵役ニ服セシム

第七條 第一百二條第三條ニ當ル者軍隊第一期ノ教育ヲ卒ラサル前ニ在テハ補充兵役ニ服セシム其ノ服役年期ハ前役ヲ通シテ十二年四箇月トス

但シ看護卒ニシテ看護卒第一期ノ教育ヲ卒ラサル者ハ前兵科ノ兵卒トナシ豫備役ニ編入スルモノトス

第一百四條ニ依リ常備後備ノ役ヲ免セラレタル者ハ第一國民兵役ニ服セシム但シ軍隊第一期ノ教育ヲ卒ラサル前ニ在テハ第二國民兵役ニ服セシム

第一百八條 上等兵又ハ之ノ下同等階級ノ兵卒ニシテ禁錮ノ刑ニ處セラレ職ヲ失ヒ又ハ陸軍懲罰令若クハ第五條ニ依リ職ヲ免セラレタル者ハ歩騎砲工輜重兵科經理部衛生部ノ

者ニ在リテハ當該兵科部ノ一等卒又ハ之ノ下同等階級ノ兵卒ト爲シ憲兵上等兵看護手及樂手補ニ在テハ前兵科ノ前兵科ナキモ

ノ一等卒ト爲シ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ三箇月ニ滿タサル者ハ三箇年ニ滿ル迄現役ニ服セシメ三箇年ヲ過クル者ハ第六條ノ例年ニ依リ豫備役又ハ後備役ニ服セシメ十七年四箇月ヲ過クル者ハ第一國民兵役ニ服セシム

第九條 第一百二條ニ依リ免役ヲ願出テントスル者ハ其ノ願書ニ同徵募區内現役兵ノ戶主憲兵上等兵樂手

主補ハ近鄰ノ戶主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官ニ差出スヘシ但町村ニ於テハ町村長ノ與共證明ヲ受ケヘキモノトス

島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ聯隊區司令官ニ送付シ聯隊區司令官ハ之ニ意見ヲ附シ願書ト共ニ本人所屬ノ聯隊長若クハ之ノ下同等以上ノ權アル長官ニ移スヘシ

第一百十條 第百二條乃至第百四條及第百五條ニ當ル者アルトキハ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ハ師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請ヒ現役、常備後備役兵得テ免シ又ハ憲兵上等兵ヲ免ス

歸休兵中第百三條第百四條ニ當ル者アルトキハ聯隊區司令官ハ師團長ノ認可ヲ請ヒ現役、常備後備役又ハ兵役ヲ免ス但召集中ニ在テハ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官前項ノ例ニ依リ處分シ本籍所管ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第百十一條 憲兵上等兵、樂手補現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタルトキハ其ノ期限中逃亡中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

第百十二條 現役中徵兵令第十五條ニ依リ歸休ヲ命スヘキ者ハ二箇年以上服役シタル者ニ限ル但警備隊兵卒、砲兵助卒ハ八箇月以上在營シタル者ニ限ル

歸休ヲ命スヘキ人員ハ陸軍大臣上裁ヲ經テ之ヲ定ム

第百十三條 歸休兵ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第百十四條 歸休兵ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第百十五條 歸休兵在郷中傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ聯隊區司令官ニ届出ツヘシ

第百十六條 歸休兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度簡閱點呼ヲ爲シ又演習ノ爲メ若クハ臨時兵員ノ補缺ヲスルトキ之ヲ召集ス

第百十七條 歸休兵ハ官廳ニ奉職スルコトヲ得但奉職ノ故ヲ以テ召集ヲ猶豫若クハ免除スルコトナシ

第百十七條ノ二 歸休兵本籍所在聯隊區ノ簡閱點呼開始前三十日迄ニ出願スルトキハ寄留地ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ得又已ムヲ得サル事故アルトキハ簡閱點呼ノ免除ヲ願出ツルコトヲ得

一箇年以上他ノ師管ニ寄留スル者ハ寄留地師管ニ於テ同師管内本籍所在ノ聯隊區ト交通不傾ノ地ニ一箇年以上寄留スル者ハ寄留地ノ聯隊區ニ於テ願ニ依リ勤務演習ヲ爲スコトヲ得

前二項ニ依リ願出ツル者ハ其ノ願書ニ本籍市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

寄留地ニ於テ簡閱點呼ヲ受ケ又ハ勤務演習ヲ爲スヘキ許可ヲ受ケタル者本籍所在ノ聯隊區外ニ寄留スル場合ニ在リテハ指令書受領後ハ寄留前出願ノ者ノ聯隊區司令官ニ届出テ本籍所在ノ聯隊區内ニ寄留スル場合ニ在リテハ同上期日内ニ其ノ地ノ市町村長ニ届出ヘシ

第百十七條ノ三 前條第四項ノ届出ヲ爲シタル者寄留換ヲ爲シ又ハ本籍地ニ復歸セムトスルトキハ其ノ地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ但シ聯隊區内ニテ寄留換ヲ爲シタルトキハ三日以内ニ其ノ地ノ市町村長ニモ届出テ本籍所在ノ聯隊區内ニ寄留スル者其ノ

本籍地ニ復歸セムトスルトキハ其ノ地ノ市町村長ニ届出ヘシ

第百十八條 歸休兵ハ退營後三日以内ニ衛戍ヲ出發シ一日行程十二里詰ヨリ勢カラサル日數間ニ歸郷シ著後七日以内ニ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

退營後衛戍地若クハ其ノ他ノ地ニ四日以上滞在若クハ寄留セントスルトキハ前項ノ出發期日内ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ其ノ由ヲ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第百十九條 歸休兵十四日以上旅行又ハ寄留セムトスルトキハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ其ノ由ヲ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第百十九條ノ二 歸休兵寄留地ニ於テ簡閱點呼ヲ受ケ又ハ勤務演習ヲ爲スヘキ許可ヲ受ケタル者十四日以上旅行セムトスルトキハ其ノ地市町村ニ於テ簡閱點呼又ハ勤務演習召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ其ノ地所管ノ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ同司令官ニ届出ヘシ但シ本籍所在ノ聯隊區内ニ寄留スル者ニ在リテハ其ノ地ノ市町村長ニ届出ヘシ

第百二十條 歸休兵ハ外國ニ旅行又ハ在留スルヲ許サス
韓國ニ旅行又ハ寄留スルモノニシテ特別ノ事情アリ勤務演習召集ノ猶豫ヲ顯ハムト欲スル者ハ其ノ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第百二十一條 歸休兵他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ聯隊區内ニ於テ轉籍シタルトキハ聯隊區司令官及新住地ノ市町村長ニ届出ヘシ

氏名ヲ變更シタルトキハ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

寄留地ニ於テ簡閱點呼ヲ受ケ又ハ勤務演習ヲ爲スヘキ許可ヲ受ケタル者前二項ニ該當スル場合ニ於テ本籍所在ノ聯隊區外ニ寄留スルトキハ其ノ地所管ノ聯隊區司令官、本籍所在聯隊區内ニ寄留スルトキハ其ノ地ノ市町村長ニ届出ヘシ

本條ノ届出ハ事故發生ノ當日ヨリ十四日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第百二十二條 歸休兵ニシテ死亡又ハ所在不明ノ者アルトキ及所在不明中戶籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戶主、本人、戶主ナレハ家族、中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以内ニ聯隊區司令官ニ届出ヘシ所在不明者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出テ聯隊區内ニ於テ轉換シタルトキハ聯隊區司令官及新住地ノ市町村長ニ届出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第百二十三條 歸休兵重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戶主、本人、戶主ナレハ家族、中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以内ニ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

家族ヲキモノニシテ前項ノ事故ヲ生ルタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第二百二十四條 (削除)

第二百二十五條 第一百七十七條ノ二乃至第一百十九條ノ二第二百二十一條乃至第二百二十三條ノ届

出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百二十六條 通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遅緩シ

タル者及第二百二十條第一項ニ違背シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス
第二百二十七條 (削除)

第三款 豫備役後備役

第二百二十八條 豫備役後備役兵卒ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第二百二十八條ノ二 豫備役上等兵及之ト同等階級ノ兵卒ニシテ現役中下士勤務ニ服シタ
モノ及下士適任證書ヲ有スル者ハ現役滿期後二箇年以内 歸休ヲ命セラレ 豫備役ニ入りタルモノニアリ

テハ一箇年以内ニ於テ現役下士ヲ志願スルコトヲ得其ノ出願及取扱ハ第七十條ノ三ニ準ス

前項ニ依リ現役ニ服シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ニ届出ヘシ

第二百二十九條 豫備役兵卒ノ服役期限ハ其服役シタル年月ヲ通算シ七年四箇月トス

第二百三十條 前條ニ依リ豫備役ヲ終リタル者ハ十箇年間後備役ニ服セシム

七箇年四箇月以上現役ニ服シ直ニ後備役ニ入ル者ノ服役期限ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シテ十七箇年四箇月トス

第二百三十一條 豫備役後備役兵卒服役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ豫備役ハ後備役ニ後備役ハ第一國民兵役ニ入ルモノトス

第二百三十二條 豫備役後備役兵卒ニシテ各兵科、經理部及衛生部下士適任證書ヲ所持スル者ハ滿期後引續キ服役スルコトヲ得志願ノ者ハ年數ヲ定メ聯隊區司令官ニ届出ヘシ
第二百三十三條 豫備役後備役兵卒傷疾若クハ疾病ニ由リ豫備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ第

一國民兵役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

在郷中傷疾ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第一項ニ當ル者アルトキハ聯隊區司令官ハ師團長ノ認可ヲ請ヒ豫備役後備役又ハ兵役ヲ免ス但シ召集中ニ在テハ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官第一百十條ノ例ニ依リ處分シ本籍所管ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第二百三十三條ノ二 豫備役後備役憲兵上等兵召集中左ニ掲クル事項ニ當ル者ハ其ノ職ヲ免ス

- 一 職務ヲ辱シムルニヨリ懲罰ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キトキ
- 二 素行修マラス屢懲罰ノ處分ヲ受ケ又ハ上官ノ説諭ヲ受クルモ改悛ノ情ナキトキ

第三百三十三條ノ三 豫備役後備役上等兵、又ハ之ト同等階級ノ兵卒ニシテ禁錮ノ刑ニ處セラレ職ヲ失ヒ又ハ陸軍懲罰令若ハ前條ニ依リ職ヲ免セラレタル者ハ步騎砲工輜重兵科、經理部衛生部ノ者ニ在リテハ當該兵科ノ一等卒又ハ之ト同等階級ノ兵卒トナシ憲兵上等兵看護手及樂手補ニ在テハ前兵科前兵科ナキ者ハ歩兵科ノ一等卒ト爲ス

第三百三十四條 豫備役後備役兵卒ニシテ外國ニ旅行又ハ在留中ノ者ハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ

第三百三十五條 豫備役後備役兵卒本籍所在聯隊區ノ簡閱點呼開始前三十日迄ニ出願スルトキハ寄留地ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ得

一箇年以上他ノ師管ニ寄留スル者ハ寄留地師管ニ於テ、同師管内本籍所在ノ聯隊區ト交通不便ノ地ニ一箇年以上寄留スル者ハ寄留地ノ聯隊區ニ於テ願ニ依リ勤務演習ヲ爲スコトヲ得

前二項ニ依リ願出ツル者ハ其ノ願書ニ本籍市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出ヘシ

寄留地ニ於テ簡閱點呼ヲ受ケ又ハ勤務演習ヲ爲スヘキ許可ヲ受ケタル者本籍所在ノ聯隊區外ニ寄留スル場合ニ在リテハ指令書受領後、寄留前出願ノ者寄留地到着後三日以内ニ豫備役後備役編入年ヲ記シ寄留地所管ノ聯隊區司令官ニ届出テ本籍所在ノ聯隊區内ニ寄留スル場合ニ在リテハ同上期日内ニ其ノ地ノ市町村長ニ届出ヘシ

第三百三十五條ノ二 前條第四項ノ届出ヲ爲シタル者寄留換ヲ爲シ又ハ本籍地ニ復歸セムトスルトキハ其ノ地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ但シ聯隊區内ニテ寄留換ヲ爲シタルトキハ三日以内ニ其ノ地ノ市町村長ニ届出テ本籍所在ノ聯隊區内ニ寄留スル者其ノ本籍地ニ復歸セムトスルトキハ其ノ地ノ市町村長ニ届出ヘシ

第三百三十六條 豫備役後備役兵卒ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其ノ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ但シ第三百三十五條第一項又ハ第二項ノ許可ヲ受ケタル者ニ在リテハ寄留地市町村長ノ與書證印ヲ受ケ其ノ地所管ノ聯隊區司令官ニ願出ヘシ

第三百三十七條 現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ入ル兵卒ハ三日以内ニ衛戍地ヲ出發シ一日行程十二里詰ヨリ鈔カラサル日數間ニ歸郷シ著後七日以内ニ聯隊區司令官ニ届出ヘシ但シ徵兵令ニ依リ徵集セラレタル者ニシテ定時ニ豫備役ニ編入セラレタル者ハ市町村長ニ届出ヘシ

衛戍地若クハ其ノ他ノ地ニ四日以上滞在若クハ寄留セントスルトキハ前項ノ出發期日内ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ七日以内ニ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第三百三十八條 豫備役後備役兵卒十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シ

タルトキハ十四日以内ニ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時間以内ニ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第三百三十八條ノ二 豫備役後備役兵卒ニシテ寄留地ニ於テ簡閱點呼ヲ受ケ又ハ勤務演習

ヲ爲スヘキ許可ヲ受ケタル者十四日以上旅行セムトスルトキハ其ノ地市町村ニ於テ簡

閱點呼又ハ勤務演習召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ其ノ地所管ノ聯

隊區司令官ニ届出テ歸還シタルトキハ十四日以内ニ同司令官ニ届出ヘシ但シ本籍所在

ノ聯隊區内ニ寄留スル者ニ在リテハ其ノ地ノ市町村長ニ届出ヘシ

第三百三十九條 豫備役後備役兵卒他ノ聯隊區ニ戸籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊

區司令官ニ、聯隊區内ニ於テ轉籍シタルトキハ聯隊區司令官及新住地ノ市町村長ニ届

出ヘシ

氏名ヲ變更シタルトキハ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

寄留地ニ於テ簡閱點呼ヲ受ケ又ハ勤務演習ヲ爲スヘキ許可ヲ受ケタル者前二項ニ該當

スル場合ニ於テ本籍所在ノ聯隊區外ニ寄留スルトキハ其ノ地所管ノ聯隊區司令官、本

籍所在ノ聯隊區内ニ寄留スルトキハ其ノ地ノ市町村長ニモ届出ヘシ

本條ノ届出ノ事故發生ノ當日ヨリ十四日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第四百十條 豫備役後備役兵卒ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設

立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ聯隊區司令

官ニ届出ヘシ

第四百十一條 豫備役後備役兵卒ニシテ死亡又ハ所在不明ノ者アルトキ及所在不明中戸

籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戸主本人戸主ナレハ家族

届出ヘシ所在不明者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但他ノ聯隊

區ニ戸籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出テ聯隊區内ニ於テ轉籍シ

タルトキハ聯隊區司令官及新住地ノ市町村長ニ届出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘ

シ

第四百十二條 豫備役後備役兵卒重罪輕罪罰金ヲノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期

ヲ記シ其ノ戸主本人戸主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以内ニ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘ

シ

第四百十三條 第二百二十八條ノ二第三百三十五條第三百三十五條ノ二及第三百三十七條乃至第

百四十二條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四百十四條 通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遲緩シ

タル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第五章 補充兵ノ服役

第四百四十五條

補充兵ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第四百四十六條

補充兵服役満期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ召集セラレタル者ハ第一國民兵役ニ其ノ他ノ者ハ第二國民兵役ニ入ルモノトス

第四百四十七條

補充兵傷疾若クハ疾病ニ由リ補充兵役ニ堪ヘ難キ者ハ第二國民兵役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

在郷中傷疾若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第一項ニ當ル者アルトキハ聯隊區司令官ハ師團長ノ認可ヲ請ヒ補充兵役又ハ兵役ヲ免ス但シ召集中ニ在テハ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官第一百十條ノ例ニ依リ處分シ本籍所管ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第四百四十八條 補充兵ニシテ外國ニ旅行又ハ在留中ノ者ハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ

第四百四十九條 補充兵本籍所在聯隊區ノ簡閱點呼開始前三十日迄ニ出願スルトキハ寄留地ニ於テ簡閱點呼ヲ受ケルコトヲ得

一箇年以上ノ他ノ師管ニ寄留スル者ハ寄留地師管ニ於テ、同師管内本籍所在ノ聯隊區

ト交通不便ノ地ニ一箇年以上寄留スル者ハ寄留地ノ聯隊區ニ於テ願ニ依リ教育召集ニ應ジ及勤務演習ヲ爲スコトヲ得

前二項ニ依リ願出ツル者ハ其ノ願書ニ本籍市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

許可ヲ受ケタル者ニシテ本籍所在ノ聯隊區外ニ寄留スル場合ニ在リテハ指令書受領後寄留前出願ノ者ハ寄留地到着後三日以内ニ補充兵編入年ヲ記シ寄留地所管ノ聯隊區司令官ニ届出テ本籍所在ノ聯隊區内ニ寄留スル場合ニ在リテハ同上期日内ニ其ノ地ノ市町村長ニ届出ヘシ

第四百四十九條ノ二 前條第四項ノ届出ヲ爲シタル者寄留換ヲ爲シ又ハ本籍地ニ復歸セムトスルトキハ其ノ地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ但シ聯隊區内ニテ寄留換ヲ爲シタルトキハ三日以内ニ其ノ地ノ市町村長ニモ届出テ本籍所在ノ聯隊區内ニ寄留スル者其ノ本籍地ニ復歸セムトスルトキハ其ノ地ノ市町村長ニ届出ヘシ

第五百十條 補充兵ニシテ止ムヲ得ザル事故アリテ勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其ノ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ但シ第四百四十九條第一項又ハ第二項ノ許可ヲ受ケタル者ニ在リテハ寄留地市町村長ノ與書證印ヲ受ケ其ノ地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第五百十一條 補充兵十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ本籍市町村ニ於テ召集

ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキモノニ限ルチ定メ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時間以内ニ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第五百一十一條ノ二 補充兵ニシテ第四百四十九條第一項又ハ第二項ノ許可ヲ受ケタル者ハ十四日以上旅行セムトスルトキハ其ノ地市町村ニ於テ簡閱點呼、教育召集又ハ勤務演習召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルチ定メ其ノ地所管ノ聯隊區司令官ニ届出歸還シタルトキハ十四日以内ニ司令官ニ届出ヘシ但シ聯隊區内ニ寄留スル者ニ在リテハ其ノ地ノ市町村長ニ届出ヘシ

第五百一十二條 補充兵他ノ聯隊區ニ戸籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ聯隊區内ニ於テ轉籍シタルトキハ聯隊區司令官及新住地ノ市町村長ニ届出ヘシ 氏名ヲ變更シタルトキハ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

寄留地ニ於テ簡閱點呼ヲ受ケ又ハ教育召集若クハ勤務演習ヲ爲スヘキ許可ヲ受ケタル者前二項ニ該當スル場合ニ於テ本籍所在ノ聯隊區外ニ寄留スルトキハ其ノ地所管ノ聯隊區司令官、本籍所在ノ聯隊區内ニ寄留スルトキハ其ノ地ノ市町村長ニモ届出ヘシ 本條ノ届出ハ事故發生ノ當日ヨリ十四日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第五百一十三條 補充兵ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル

議會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第五百一十四條 補充兵ニシテ死亡又ハ所在不明ノ者アルトキ及所在不明中戸籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戸主 本人戸主ナレハ家族

在不明者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但他ノ聯隊區ニ戸籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出テ聯隊區内ニ於テ轉籍シタルトキハ聯隊區司令官及新住地ノ市町村長ニ届出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第五百一十五條 補充兵重罪輕罪 罰金ヲノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ

戸主 本人戸主ナレハ家族 中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以内ニ聯隊區司令官ニ届出ヘシ 家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第五百一十六條 第四百四十九條第四百四十九條ノ二及第五百一十一條乃至第五百一十五條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五百一十七條 通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遅延シタルモノハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第六章 雜則

第百五十八條 一年志願兵、六週間現役兵及服役ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

第百五十九條 一年志願兵ヨリ豫備役ニ轉入シタル士官、准士官及下士兵卒ノ豫備役後備役年期ハ一年志願兵條例ノ規定ニ依ル

第百六十條 士官候補生、主計候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官ニシテ兵卒ト爲リ豫備役ニ編入セラレタルモノハ其ノ編入年ノ十二月ヨリ起算シ七箇年四箇月間豫備役ニ豫備役終ルノ後十箇年間後備役ニ服セシメ後備役終ルノ後ハ第一國民兵役ニ服セシム

第百六十一條 本條例中特ニ下士兵卒雜卒職工ヲ包含ス以下同シノ服役期限ヲ定メサルモノハ總テ徵兵令ノ規定ニ從フモノトス

第百六十二條 豫備役將校、同相當官一年志願兵ヨリ豫備役將校、同相當官トナリタル者ヲ除クニシテ明治二十三年勅令第二十四號ニ依リ進級シタル者及豫備役又ハ後備役轉入後進級シタル者ノ服役期限ハ前官ノ現役年限ニ依ル現役將校、同相當官ニシテ服役延期中進級シタル者亦同シ

第百六十二條ノ二 本條例ニ於テ服役期限ハ曆ニ從ヒ月ヲ以テ算ス
前項ノ場合ニ於テハ期間ノ初月ヨリ起算シ最後ノ月ノ末日ヲ以テ滿了トス

第百六十三條 豫備役後備役將校、同相當官、准士官、下士、兵卒及補充兵ニシテ文官ニ任セラレ若クハ公吏トナリ餘人ヲ以テ代フヘカラサル者又ハ運輸其ノ他ノ業ニ從事シ戰役ニ關シ必要ノ職務ヲ執ル者ハ陸軍大臣上裁ヲ經テ充員召集ヲ猶豫スルコトアルヘシ

第百六十四條 徵兵令第二十四條及本條例第二十六條第七十七條ノ餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル者ハ豫メ當該官廳ヨリ内閣ニ具狀シ勤務演習及簡閱點呼免除ノ認可ヲ受ケ將校、同相當官及准士官ニ在テハ本人所管ノ師團長ニ下士以下ニ在テハ本人所管ノ聯隊區司令官ニ通報スヘシ其ノ事故止ミタルトキ亦同シ

第百六十五條 歸休兵、豫備役後備役下士兵卒、補充兵ヨリ聯隊區司令官ニ差出ス願屆書ハ當該聯隊區ニ於ケル當該市町村長、島司、郡長ヲ經由スヘシ但シ本籍所在聯隊區内ニ於テ轉籍シタルトキノ屆書ハ舊住地ノ市町村長、島司、郡長ヲ經由スヘシ
戸主又ハ家事擔當者ヨリ差出ス願屆書モ前項ニ準スヘシ

第百六十五條ノ二 町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スル事項ハ島司、郡長ヲ經由スヘシ
第百六十五條ノ三 豫備役後備役將校、同相當官准士官及下士、歸休兵、豫備役後備役兵卒、補充兵ニシテ一箇年以上臺灣ニ居住スル者ハ願ニ依リ同地ニ於テ勤務演習ヲ爲スコトヲ得

其ノ願出及届出方ハ第二十七條第七十八條第三項第百十七條ノ二第三項第百三十五條

第三項第四百十九條第三項ノ例ニ依ル

前項ノ届出ヲ爲ササル者ニ對シテハ第三十六條第八十七條第二百二十五條第四百十三條
第四百五十六條ノ罰例ヲ適用ス

第四百六十五條ノ四 前條第一項ノ願ヲ許可セラレタル者止ムヲ得サル事故アリテ勤務演
習召集ノ猶豫ヲ願ハムトスルトキハ願書ニ其ノ地所管ノ支廳長ノ與書證印ヲ受ケ臺灣
守備混成旅團長ニ差出スヘシ

第四百六十五條ノ五 本條例中師團又ハ聯隊區司令官トアルハ臺灣ニ在リテハ臺灣守備混
成旅團長、聯隊區トアルハ對馬島及沖繩縣ニ在リテハ警備隊區、聯隊區司令官トアル
ハ對馬島ニ在リテハ對馬警備隊司令官、沖繩縣ニ在リテハ沖繩警備隊司令官ニ該當
ス

附 則

第四百六十六條 市町村制ヲ實施セサル地方ニ在テハ本條例中市町村長ノ職務ハ區戶長及
之ニ準スヘキ者之ヲ行ヒ郡長ノ職務ハ北海道ニ在テハ北海道廳支廳長之ヲ行フ
本條例中ノ市町村トアルハ北海道及沖繩縣ノ區ニ該當ス

第四百六十七條 陸軍豫備後備將校服役條例、陸軍豫備後備下士卒服役條例、陸軍現役下
士上等兵再服役條例、陸軍歸休兵條例及明治二十二年勅令第三十七號ハ本條例施行ノ
日ヨリ廢止ス

第四百六十八條 本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第四百六十九條 豫備役後備役下士、歸休兵、豫備役後備役兵卒補充兵ニシテ臺灣ニ居住
スル者ニハ當分簡閱點呼ヲ行ハス

第四百七十條 明治三十二年十二月一日前任官シタル現役下士再服役ノ者ヲ除クノ服役期ハ左ノ
如シ

一 各兵科下部下士第二以下ニ掲ケル者ヲ除クニシテ其ノ服役シタル年月六箇年ニ滿タサル者ハ六
箇年ニ滿ツル年ノ十一月三十日迄トシ六箇年ヲ過クル者ハ明治三十三年三月三十
一日迄トス

二 教導團及要塞砲兵射擊學校卒業者ヨリ下士ニ任セラレタル者砲工兵監護及砲臺監
守タリシ者ヲ除ク
ハ其ノ入團ハ校ノ前年十二月ヨリ六箇年トス

三 砲兵工科學校卒業者ヨリ諸工長ニ任セラレタル者ハ任用ノ月ヨリ七箇年
四 經理學校卒業者ヨリ諸工長ニ任セラレタル者ハ入校ノ年ノ十二月兵卒出身ノ者ハ
入隊ノ年ノ十二
月ヨリ六箇年ヲ過クル者ハ明治三十三年三月三十一日迄トス

五 蹄鐵上下士ハ入隊ノ月ヨリ六箇年

六 軍樂部下士ハ樂生ヲ命セラレタル月ヨリ七年四箇月

第四百七十一條 明治三十二年十一月三十日現在ノ現役砲工兵監護及砲臺監守中三十六歲
以上ニシテ曹長ニ轉官ノ者ハ定限年齡ニ拘ラス同年十二月以後五箇年以内再服役ヲ爲

(166)

スコトヲ得但シ四十八歳ヲ超ユルヲ得ス

第七十二條 (削除)

第七十三條 明治三十二年十二月一日前採用シタル憲兵科及軍樂部現役兵卒再服役ノ者ヲ除クノ服役期限ハ左ノ如シ

一 憲兵上等兵ニシテ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ六箇年ニ滿タサル者ハ六箇年ニ滿ツル年ノ十一月三十日迄トシ六箇年ヲ過クル者ハ明治三十三年三月三十一日迄トス

二 樂手補ハ樂生ヲ命セラレタル月ヨリ七年四箇月

第七十四條 明治三十二年十二月一日前轉入シタル豫備役後備役特務曹長ノ服役期限ハ従前ノ規定ニ依ル

第七十五條 明治三十二年十二月一日前轉入シタル豫備役下士及憲兵科軍樂部兵卒並第七十條第七十三條ノ下士及憲兵科軍樂部兵卒ニシテ同日以後豫備役ニ轉入スル者ノ服役期限ハ第七十條第七十三條ノ年月ヲ通算シ七箇年ニ滿ツル年ノ翌年三月三十一日迄トス

明治三十二年十二月一日前ヨリ再服役ヲ爲シ同日以後豫備役ニ轉入スル者ノ服役期限亦前項ニ同シ

第七十六條 明治三十二年十二月一日前轉入シタル後備役下士及憲兵科軍樂部兵卒並

第七十七條第七十三條第七十五條ノ下士及憲兵科軍樂部兵卒ニシテ同日以後後備役ニ轉入スル者ノ服役期限ハ第七十條第七十三條ノ年月ヲ通算シ十七箇年ニ滿ツル年ノ翌年三月三十一日迄トス但シ志願ニヨラスシテ兵卒ヨリ下士ニ任セラレタル者ノ後備役服 期ハ同年次ニ於ケル兵卒ト同一トス

明治三十二年十二月一日前ヨリ再服役ヲ爲シ同日以後後備役ニ轉入スル者ノ服役期限亦前項ニ同シ

第七十七條 豫備役後備役上等兵中軍吏部下士若ハ經理部下士適任證書又ハ砲兵工科學校、經理學校卒業證書ヲ所持スル者ハ當分第三百三十二條ニ依リ滿期後引續キ服役スルコトヲ得

附 則

本令ハ明治三十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

(明治三六年勅令一四八號)

本令ハ明治三十六年十二月一日ヨリ施行ス

本令施行ノ際現役豫備役將校同相當官ニシテ現役定限年齢ヲ過クル者ハ後備役ニ、後備役將校同相當官ニシテ後備役ノ服役期限ヲ過クル者ハ退役ニ、各辭令書ヲ用井スシテ轉入スルモノトス但シ第二十一條ニ依リ豫備役、後備役ノ延期ヲ許可セラレタル者及本令施行ノ際後備役ノ服役延期ヲ願出テタル者ハ此ノ限ニ在ラス

(167)

前項ニ依リ後備役ニ服スル者ノ服役期限ハ現役年限年齢ニ滿ツル年ヨリ第六年目ノ三月三十一日迄トス

本令施行ノ際豫備役後備役ニ在ル歩、騎、砲、工、輜重兵大佐及特務曹長ノ服役期限ノ計算ハ従前ノ現役年限年齢ニ依ル

本令施行ノ際現役豫備役後備役ニ在ル下士ノ服役期限ハ従前ノ規定ニ依ル

本令施行ノ際下士候補生タル者本令施行後下士ニ任セラレタルトキハ其ノ服役期限ハ従前ノ規定ニ依ル

本令施行ノ際再服役中ノ者ハ其ノ警約期間後前ノ規定ニ依ル

見習軍吏、監督候補生ニシテ下士ニ任セラレ又ハ兵卒ト爲リ豫備役ニ編入セラレタル者ノ豫備役後備役服役期限ハ従前ノ規定ニ依ル

豫備役後備役下士ニシテ士官適任證書ヲ有スル者又ハ衛生部士官適任證書ヲ有スル者ニハ第八十五條ノ二及第八十七條ノ規定ヲ準用ス

附 則 (三十七年勅令二二三號)

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十六年勅令第百八十四號附則第五項第六項及第八項ニ該當スルモノノ後備役服役期限ハ前服役ヲ通算シテ十七年四箇月ニ滿ル迄トス

海軍下士卒服役條例

(明治四三年五月勅令第二五〇號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ海軍下士卒服役條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍下士卒服役條例

第一章 總則

第一條 下士卒ノ服役ハ徵兵ニアリテハ現役、豫備役及後備役トシ志願兵ニアリテハ現役及豫備役トス豫備役ハ現役ヲ終リタルモノ之ニ服シ後備役ハ豫備役ヲ終リタルモノ別ニ命ナクシテ之ニ服ス

前項ノ服役ヲ終リタルモノハ別ニ命ナクシテ年齢四十歳迄第一國民兵役ニ服ス

第二條 下士卒ハ分テ徵兵及志願兵ノ二種トス

徵兵トハ左ニ記載スルモノヲ謂フ

一 徵兵令ニ依リ海軍兵役ニ編入シタル 徵兵令第十二條ノ規定ニ依リ志願ヲナシタルモノヲ含ム

二 前號ノ卒ニシテ海軍准士官下士任用進級條例ニ依リ現役ヲ退キタル際又ハ召集中若ハ召集ヲ解キタル際下士ニ任用シタルモノ志願兵トハ左ニ記載スルモノヲ謂フ

一 海軍志願兵條例ニ依リ海軍兵籍ニ編入シタルモノ

二 海軍筆記任用令ニ依リ現役下士ニ任用シタルモノ

三 現役卒ヨリ現役下士ニ任用シタルモノ

四 再服役ヲ爲シタルモノ

第三條 下士卒ノ兵籍ハ海軍志願兵徵募區ヲ管スル鎮守府ニ置ク但シ現役下士卒ニ付テハ海軍大臣ハ必要ニ應シ其ノ兵籍ヲ變更スルコトヲ得

第四條 下士卒ノ免官、免役及豫備役後備役國民兵役ノ編入ハ鎮守府司令官之ヲ行フ下士ニシテ服役ヲ終リ又ハ傷痍疾病其他ノ事故ニ依リ第一國民兵役ニ編入セラレ又兵役ヲ免セラレタルトキハ別ニ辭令ヲ用ヒスシテ其官ヲ免セラレタルモノトス

第五條 下士卒ノ服役年期左ノ如シ

一 下士ノ現役ハ六年トシ豫備役ハ現役ニ服シタル期間卒トシテ服役シタル期間ヲ含ムヲ通算シ十二

年トス但シ豫備役ノ期間四年ニ滿タサルモハ現役ニ服シタル期間卒トシテ服役シタル期間ヲ含ムヲ通算シテ十六年ヲ超ヘサル範圍内ニ於テ豫備役ノ期間ヲ延長スルモノトス

二 海軍准士官下士任用進級條例ニ依リ現役ヲ退キタル際又ハ召集中若ハ召集ヲ解キタル際下士ニ任セラレタルモノノ服役年期ハ下士ニ任セラレサルモノニ同シ

三 志願兵タル卒ノ現役ハ六年トシ豫備役ハ現役ニ服シタル期間ヲ通算シ十二年トス
四 徵兵タル卒ニシテ第二十二條乃至第二十四條ノ規定ニ依リ豫備役ニ入りタルモノノ豫備役ハ現役ニ服シタル期間ヲ通算シ七年トス

第六條 志願兵ノ現役年期ハ其ノ任官又ハ服役シタル月ノ一日ヨリ起算ス
第七條 下士卒ノ服役年限年令左ノ如シ

一 下士ノ現役年限年令ハ四十歳トシ四十五歳ヲ以テ服役ノ終期トス

二 卒ノ現役年限年令ハ三十五歳トシ四十歳ヲ以テ服役ノ終期トス

第八條

年限年令ニ達シ又ハ各服役年期滿ツルト雖戰時、事變、演習ノ際又ハ航海中若ハ外國關東州及韓ニ在ル間ハ其服役ヲ延期スルコトヲ得但服役年期ノ計算ハ延期セサルモノニ同シ

前項ノ服役延期ハ戰時、事變又ハ大演習ノ場合ニ於テハ海軍大臣之ヲ行ヒ小演習、航海中又ハ外國關東州及韓ニアル場合ニ於テハ鎮守府司令官長之ヲ行フ

第九條 現役下士卒ノ現役滿期其ノ他ノ事由ニ依リ現役ヲ免スルトキ若ハ兵役ヲ免スルトキ又ハ召集シタル豫備役後備役下士卒ノ召集ヲ解クトキ、豫備役、後備役ヲ免スルトキ若ハ兵役ヲ免スルトキハ先ツ本人ヲ在籍鎮守府所屬ノ海兵團ニ入團セシムルモノトス但シ第二十三條、第二十四條又ハ第二十八條ノ規定ニ該當スルモノ及陸軍懲治隊ニ收容中ノモノハ入團セシメサルコトヲ得

第十條 前條ノ規定ニ依リ入團セシメタル下士卒ハ現役滿期若ハ召集解除ノ日又ハ現役豫備役、後備役若ハ兵役ヲ免シタル日ニ於テ海兵團ヲ退團セシムルモノトス但天災其ノ他退團セシムルコト能ハサル事故アルトキハ鎮守府長官ハ一時退團ヲ延期スルコトヲ得

前項退團延期ノ場合ニ於ケル服役年期ノ計算ハ延期セサルモノニ同シ

第十一條 艦團隊 要港部、學級、病院其他 之ニ準スヘキモノヲ含ムニ勤務ノ下士卒ハ各其ノ艦團隊内ニ居住セシムルヲ例トス

第十二條 死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルモノハ兵役ニ服スルコトヲ得ス

第十三條 徵兵タル卒ニ關シテハ徵兵令及徵兵事務條例ニ牴觸セサル限り本令ヲ適用ス海軍豫備員條例ニ依ルモノニ付テハ本令ヲ適用セス

第二章 現役

第十四條 現役下士卒ハ引續キ數次再服役ヲ志願スルコトヲ得

第十五條 再服役ハ三年ヲ一期トス但シ三年内ニ現役定限年令ニ達スルモノハ其ノ定限年令迄ヲ一期トス

第十六條 再服役ハ身體強健志操確實品行方正技藝優等ニシテ下士卒ニアリテハ准士官ニ卒ニアリテハ下士卒ニ任用ノ見込アルニ非レハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第十七條 再服役ヲ志願スルモノハ現役滿期ノ四日前ヨリ三十日内ニ所屬長ヲ經テ在籍鎮守府司令官ニ願出ヘシ但航海其他已ムヲ得サル事故ニ依リ所定期間内ニ再服役ノ手續ヲ了シ難シト認ムルトキハ所屬長ハ豫メ出願セシムルコトヲ得

第十八條 所屬長ハ部下士卒中再服役ヲ志願スルモノアルトキハ意見ヲ附シテ直ニ鎮守府司令長官ニ進達シ鎮守府司令長官ハ現役滿期ノ一月前迄ニ之ヲ許可スヘシ

第十九條 再服役ノ許可ハ其ノ服役ニ入ル以前ニ於テ第二十一條ニ記載スル事故發生シタルモノニ對シテハ無効トス

前項ノ場合ニ於テ所屬長ハ其ノ旨ヲ在籍鎮守府ノ人事部長ニ通知スヘシ

第二十條 別ニ勅令ヲ以テ定ムル服役ノ義務アルモノハ再服役ノ手續ヲナサスシテ其ノ義務ノ了ル迄ヲ一期トシ當然再服役ニ入りタルモノト見做ス

所屬長ハ部下士卒中前項ノ義務滿了ニ入ルモノアルトキハ其ノ旨ヲ在籍鎮守府ノ人事部長ニ通知スヘシ

第二十一條 左ニ記載スル期間ハ現役服役年期ニ算入セス

- 一 懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ入監中ノ日數
- 二 逃亡中ノ日數
- 三 所在不明中ノ日數

第二十二條 現役中本人ニ依ルニアラサレハ一家ノ生計ヲ營ミ難キ事故生スルトキハ本人ノ願ニ依リ現役ヲ免シ第一條及第五條ノ規定ニ依リ豫備役、後備役又ハ第一國民兵役ニ編入スルコトヲ得但シ分家又ハ廢家絶家再興ノ故ヲ以テ本條ノ規定ニ該當スルモト及其ノ他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタルモノハ此ノ限ニアラス

前項ノ規定ニ依リ免役ヲ願出テントスルモノハ實狀ヲ具シ市町村長證明書ヲ添へ所屬長ヲ經テ在籍鎮守府司令長官ニ願出ツヘシ

第二十三條 現役下士卒傷痍又ハ疾病ニ依リ現役ニ堪ヘサルトキハ現役ヲ免シ第一條及第五條ノ規定ニ依リ豫備役、後備役又ハ第一國民兵役ニ編入シ永久服役ニ堪ヘサルトキハ兵役ヲ免ス但シ五等卒ノ教育ヲ卒ラサル徴兵ニシテ現役ニ堪ヘサルトキハ第二國民兵役ニ編入ス

前項ノ規定ニ依リ現役又ハ兵役ヲ免スヘキモノアルトキハ所屬長海軍病院ニ入院中ノ長ハ之ヲ在籍籍鎮守府司令長官ニ具申スヘシ

第二十四條 現役下士卒左記各號ノ一ニ躰當スルトキハ其ノ現役ヲ免シ第一條及第五條ノ規定ニ依リ豫備役、後備役又ハ第一國民兵役ニ編入スルコトヲ得

- 一 七年間所在不明ノモノ
- 二 戦地ニ臨ミタルモノ、沈没シタル艦船中ニアリタルモノ其他死亡ノ原因タルヘキ危難ニ遭遇シタルモノニシテ戦争止ミタル後、艦船ノ沈没シタル後又ハ其他ノ危難ノ去リタル後三年ヲ經過スルモ尙所在不明ノモノ

三 現役ニ服シタル期間四年以上ニシテ三年間所在不明ノモノ

四 現役ニ服シタル期間四年以上ニシテ數次刑罰ニ觸レ改悛ノ狀ナキモノ

前項ノ規定ニ依リ現役ヲ免スヘキモノアルトキハ所屬長ハ之ヲ在籍籍鎮守府司令長官ニ具申スヘシ

第二十五條 現役中戸籍ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ戸主ヨリ市町村長ヲ經テ在籍籍鎮守

府ノ人事部長ニ届出ヘシ但シ本人戸主ナルトキハ別ニ届出人成年者ニ限ルヲ定メ豫メ人事部長及市町村長ニ届出ツルコトヲ得人事部長ハ前項ノ届出アリタルトキ之ヲ本人ノ所屬長ニ通知スヘシ

第二十六條 鎮守府司令長官ハ補缺員タル卒ニシテ三月内ニ現役滿期トナルモノアルトキハ之ニ歸休ヲ命スルコトヲ得

歸休ヲ命スヘキ人員ハ海軍大臣ハ上裁ヲ經テ之ヲ定ム

第二十七條 歸休兵ハ戰時又ハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平時ニアリテハ簡閱點呼ヲ行ヒ又ハ演習若ハ臨時兵員ノ補充ノタメ召集スルコトアルヘシ

第二十八條 歸休兵在郷中現役滿期トナリタルトキハ別ニ命ナクシテ豫備役又ハ第一國民役ニ入ルモノトス

第二十九條 歸休兵ハ官廳公署ニ奉職スルコトヲ得但シ在職ノ故ヲ以テ召集ヲ猶豫又ハ免除スルコトナシ

第三十條 歸休兵ハ外國關東州及韓ニ旅行又ハ在留スルコトヲ得ス

第三十一條 第三十四條乃至第三十八條及第四十三條ノ規定ハ歸休兵ニ之ヲ準用ス

第三十二條 鎮守府司令長官ハ補缺員タル下士ニシテ三月内ニ現役滿期トナルモノアルトキハ之ニ歸休ヲ命スルコトヲ得

歸休ヲ命スヘキ人員ハ海軍大臣上裁ヲ得テ之ヲ定ム

歸休下士ニ付テハ歸休兵ニ關スル規定ヲ準用ス

第五章 豫備役及後備役

第三十三條 豫備役後備役下士卒ハ戰時又ハ時變ニ際シ之ヲ召集ス平時ニ在テハ簡閱點呼ヲ行ヒ又ハ演習ノ爲メ召集スルコトアルヘシ

第三十四條 豫備役ニ入りタル下士卒ハ七日内ニ現役ヲ免セラレタル時ノ所在地ヲ出發シ一日行程十里詰ヨリ鈔カラサル日數間ニ歸郷シ歸着後七日内ニ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府ノ人事部長ニ歸郷ノ旨ヲ届出ヘシ

滯在其他ノ事故ニヨリ前項ノ期間内ニ歸郷シ能ハサル時ハ本籍市町村ニ於テ召集ノ際之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ出發期間内ニ人事部長及市町村長ニ届出ヘシ

第三十五條 豫備役後備役下士卒傷疾又ハ疾病ニヨリ其ノ服役ニ堪ヘサル時ハ第一國民兵役ニ編入シ永久服役ニ堪ヘサル時ハ兵役ヲ免ス在郷下士卒ニシテ前項服役ニ堪ヘサルトキハ海軍々醫官ノ診斷證書又ハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府司令長官ニ届出ヘシ

第三十六條 豫備役後備役下士卒戶籍ニ異動ヲ生シタルトキハ履歷表ヲ添ヘ十四日内ニ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府ノ人事部長ニ届出ヘシ但シ召集中ニ在リテハ第二十五條ノ規定ヲ準用ス

第三十七條 豫備役後備役下士卒左記各號ノ一ニ該當スル時ハ十四日内ニ其戶主ヨリ

本人戶主ナル時ハ其家事ヲ擔當スルモノヨリ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府ノ人事部長ニ届出ヘシ

- 一 死亡シタルトキ
- 二 所在不明トナリタルトキ又ハ所在不明ノモノ所在分明トナリタルトキ
- 三 所在不明中戶籍ニ異動アリタルトキ
- 四 刑ニ處セラレタル時但シ刑名、期間、確定判決アリタル日及執行猶豫ノ有無ヲ明記スヘシ

前項ノ場合ニ於テ家事ヲ擔當スル者ナキトキハ市町村長ヨリ當該人事部長ニ届出ヘシ

第三十八條 鎮守府司令官ハ豫備役後備役下士卒ニシテ已ムヲ得サル事故アル者ニ限リ演習召集ヲ猶豫シ又ハ簡閱點呼ヲ免除スルコトヲ得

前項ノ猶豫又ハ免除ヲ受ケムトスル者ハ事由ヲ具シ市町村長ノ證明ヲ受ケ在籍鎮守府司令長官ニ願出ヘシ

第三十九條 豫備役後備役下士卒左記各號ノ一ニ該當スルトキハ演習ノ爲メ召集又ハ簡閱點呼ヲ行フ事ナシ

- 一 餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スルモノ
- 二 市町村長助役又ハ收入役
- 三 法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員但議會開會中ニ限ル

四 外國ニ旅行又ハ在留ノモノ
 第四十條 前條第一號ノ規定ニ該當スルモノアル時ハ當該官廳ハ豫メ内閣ニ具狀シ演習召集又ハ簡閱點呼ノ免除ノ認可ヲ受ケ在籍鎮守府ノ人事部長ニ通知シ其事故止ミタル時ハ亦其旨ヲ通知スヘシ
 前條第二號又ハ第三號ニ該當スルモノハ十四日內ニ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府ノ人事部長ニ届出ヘシ其事故止ミタル時亦同シ
 第四十一條 豫備役後備役下士卒文官ニ任セラレ若ハ公吏トナリ餘人ヲ以テ代フヘカラルトキ又ハ運輸通信若ハ陸海軍ニ於ケル特種ノ工業ニ從事スル等職役ニ關シ必要ナル職務ヲトリ餘人ヲ以テ代フヘカラサルトキハ海軍大臣上裁ヲ經テ充員召集ヲ猶豫スルコトアルヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ本人ヲ要スル官廳公署ノ長又ハ社長船主等ヨリ事由ヲ具シ海軍大臣ニ願出ヘシ但シ猶豫セラレタルモノ其事故止ミタル時ハ出願者ヨリ速ニ海軍大臣ニ届出ヘシ
 第四十二條 豫備役後備役下士卒左記各號ノ一ニ該當スル時ハ其年ヲ服役年期ニ算入セス
 一 正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタルトキ
 二 召集中逃亡又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
 三 犯罪ノ爲メ召集ヲ缺キタルトキ
 第四十三條 故ナク第三十四條、第三十六條、第三十七條第一項又ハ第四十條第二項ノ届出ヲナササルモノハ科料ニ處ス
 第四十四條 本令中市長ノ職務ハ東京市、京都市、大阪市、區長ヲ以テ戶籍吏トナシタル人口二十萬以上ノ市及北海道沖繩縣ノ區ニアリテハ區長之ヲ行ヒ町村長ノ職務ハ戶長及之ニ準スヘキモノ之ヲ行フ

ル人口二十萬以上ノ市及北海道沖繩縣ノ區ニアリテハ區長之ヲ行ヒ町村長ノ職務ハ戶長及之ニ準スヘキモノ之ヲ行フ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行前海軍志願兵條例ニ依リ兵籍ニ編入シタル卒ノ現役服役年期ハ左ノ如ク短縮ス
 一 明治三十八年度及同三十九年度ニ於テ兵籍ニ編入シタルモノハ編入ノ月ノ一日ヨリ起算シ七年トス
 二 明治四十年度乃至明治四十二年度ニ於テ兵籍ニ編入シタルモノハ編入シタル月ノ一日ヨリ起算シ六年トス
 本令施行後一月以内ニ現役定限年齢ニ達スル者ハ本令施行ノ日ヨリ四月內ニ現役ヲ免ス

憲兵條例

(明治三十一年十一月 勅令第三百三十七號)

朕憲兵條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

憲兵條例

第一章 總則

第一條 憲兵ハ陸軍大臣ノ統轄ニ屬シ主トシテ軍事警察ヲ掌リ兼テ行政警察司法警察ヲ掌ル
 第二條 憲兵ハ其ノ職務ノ執行ニ付軍事警察ニ係ルモノハ陸軍大臣及海軍大臣、行政警察ニ係ルモノハ内務大臣、司法警察ニ係ルモノハ司法大臣ノ指揮ヲ承ク臺灣及南滿洲

ニ於ケル軍事警察、行政警察、司法警察ニ係ルモノハ臺灣總督又ハ關東都督ノ指揮ヲ承ク

第三條 憲兵ハ行政警察、司法警察ニ係ル事件ニ付テハ警視總監、北海道廳長官、府縣知事、東山府知事、東山府知事ヲ除ク、臺海總督府廳長、同法院檢察官、關東都督府民政署長、及同法院檢察官ノ指示ヲ承ク

憲兵ハ要塞地帯ニ關スル法令ノ施行ニ付テハ要塞司令官又ハ其ノ職務ヲ行フ官廳、軍港、港規則及旅順口規則ノ施行ニ付テハ鎮守府司令長官若ハ要港部司令官又ハ鎮守府司令長官若ハ要港部司令官ノ職務ヲ行フ官廳ノ指示ヲ承ク、憲兵ハ地方守備ニ關スル軍事警察ニ付テハ臺灣ニ在テハ臺灣守備隊司令官、司令官アラサル地ニ在テハ師團長、師團長アラサル地ニ在テハ其ノ地駐劄ノ軍隊長ノ指示ヲ受ク

第四條 憲兵ハ其ノ職務上ニ關シ正當ノ職權ヲ有スル者ヨリ要求アルトキハ直ニ之ニ應スヘシ

第五條 憲兵ハ左ニ記載スル場合ニアラサレハ兵器ヲ用フルコトヲ得ス
一 暴行ヲ受クルトキ
二 其ノ占守スル土地若クハ委託セラレタル場所ズハ人ヲ防衛スルニ兵力ヲ用ウルノ外他ニ手段ナキトキ又ハ兵力ヲ以テセサレハ抵抗ニ勝ツ能ハサルトキ

第二章 配置職員

第六條 東京ニ憲兵司令部ヲ置キ各憲兵隊管區ニ一憲兵隊ヲ配置ス

第七條 各憲兵隊本部ハ師團司令部所在地ニ之ヲ置ク

各憲兵隊ハ之ヲ分隊ニ分ツ其ノ配置及管區ハ陸軍大臣之ヲ定ム

臺灣、及南滿洲及韓國ニ於ケル憲兵隊本部ノ位置並分隊ノ配置及其ノ管區ハ臺灣總督、關東都督及韓國駐劄軍司令官之ヲ定ム

第八條 (削除)

第九條 (削除)

第十條 憲兵司令部ニ左ノ職員ヲ置ク

憲兵司令官

憲兵副官

憲兵下士

憲兵隊ニ左ノ職員ヲ置ク

憲兵隊長

憲兵隊副官

憲兵分隊長

憲兵隊附士官

憲兵准士官、下士、上等兵

憲兵司令部及憲兵隊ニハ經理部、衛生部及獸醫部士官、准士官、下士、判任文官並蹄鐵工長ヲ附スルコトヲ得

(182)

第十一條 (削除)
第十二條 陸軍大臣、臺灣總督、及關東總督ハ必要ニ際シ一時憲兵隊ノ一部ヲ其ノ管區外ニ派遣スルコトヲ得
第十三條 (削除)

第三章 職務

第十四條 憲兵司令官ハ各憲兵隊ヲ統轄シ司令部ノ事務ヲ總理ス
第十五條 憲兵司令官ハ憲兵隊ノ軍紀、風紀、訓練、教育及職務履行ノ程度ヲ檢閲スヘシ
第十六條 憲兵隊長ハ各分隊ヲ統轄シ其ノ勤務方法ヲ指定シ隊中ノ事務ヲ總理ス
第十七條 憲兵副官ハ司令官憲兵隊副官ハ隊長ノ命ヲ承ケ各部内ノ事務ニ服ス
第十八條 憲兵分隊長ハ部下ヲ指揮監督シ其ノ勤務ノ方法ヲ指定シ分隊ノ事務ヲ處理ス
第十九條 憲兵隊附士官ハ隊長ノ命ヲ承ケ勤務ニ服ス
第二十條 憲兵ノ服務ニ係ル規定ハ各主管大臣之ヲ定ム但シ臺灣ニ在リテハ臺灣總督、南滿洲ニ在テハ關東都督之ヲ定ム

附 則

第二十一條 當分ノ内憲兵隊長、副官、分隊長隊附士官憲兵准士官以下ハ豫備役、後備

役ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得其ノ身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第二十二條 (削除)

第二十三條 本令ハ明治三十一年十二月一日ヨリ施行ス

(別表略ス)

憲兵服務規程

(明治三十一年十一月) 陸達第百十一號

憲兵服務規程左ノ通定ム但明治二十九年陸達第百十五號憲兵司令部服務規則及同年陸達第百十六號憲兵隊服務規則ヲ廢止ス

憲兵隊服務規程

第一條 憲兵司令官ハ憲兵服務規則ヲ定メ陸軍大臣ニ認可ヲ請フヘシ
第二條 憲兵司令官及憲兵隊長ハ必要ニ依リ各部下隊長ヲ召致スルコトヲ得
第三條 憲兵隊長及憲兵分隊長ハ隊中ノ軍紀、風紀、訓練、教育、內務、服裝、衛生及經理事務ヲ司ル

(183)

第四條 憲兵隊長ハ部下士官以下ニ職務ヲ課シ又ハ之ニ各分隊ニ配屬轉換スルコトヲ得
第五條 憲兵隊長ハ各分隊ノ軍紀、風紀、訓練、教育及職務履行ノ程度ヲ檢閲シ又必要ニ依リ管區内ヲ巡視スルコトヲ得

- 第六條 憲兵分隊長ハ其ノ分隊ヲ數班ニ分チ准士官下士上等兵ヲ各班ニ配屬シ又適宜憲兵班ヲ其ノ分遣所ニ配置スヘシ
- 第六條ノ二 憲兵分隊長ハ常ニ部下ノ勤惰ヲ監視シ其ノ情況ヲ憲兵隊長ニ報告スヘシ
- 憲兵分隊長職務上其ノ管内巡視ヲ要スルトキハ豫メ憲兵隊長ノ認可ヲ請フモノトス
- 第七條 副官ハ所屬上官ノ命ヲ承ケ文書ノ審査起案ヲ掌リ廳印及圖書ヲ管守シ其ノ他郡内一切ノ庶務ニ服ス
- 第八條 副監督ハ憲兵司令官又ハ憲兵隊長ノ命ヲ承ケ會計事務ヲ掌ル
- 上等計手ハ上官ノ命ヲ承ケ金錢物品ノ出納保管及計算記簿ノ事ニ服ス
- 第九條 憲兵隊長ハ分隊長ノ指揮ヲ承ケ勤務ニ服シ且部下下士上等兵ヲ指揮監督ス
- 第十條 憲兵ハ常ニ軍人軍屬ノ行爲ヲ觀察シ其ノ違式ヲ警防ス其ノ違式ニ涉ル行爲ヲ認メタルトキハ現役軍人及軍屬ニ在リテハ本人所屬ノ上官ニ告知シ在郷軍人ニ在リテハ本人所轄ノ師團長、警備隊司令官或ハ聯隊區司令官、警備隊區司令官ニ告知スヘシ
- 第十一條 憲兵ハ上官ノ別命アルトキ又ハ時機猶豫スヘカラサルトキハ定規ノ服裝ヲ爲サスシテ勤務ヲ執ルコトヲ得
- 第十二條 憲兵ハ地方ノ情況ヲ知悉シ且發生セル事件ハ其ノ必要ニ依リ衛戍司令官、要塞司令官、警備隊司令官ニ通報スヘシ
- 第十三條 憲兵司令官及憲兵隊長不在ノトキ高級副官若クハ副官ヲシテ其ノ事務ヲ取扱

ハシム

- 第十四條 憲兵分隊長不在ノトキハ其ノ所在地ノ屯所長ヲシテ其事務ヲ取扱ハシム
- 第十五條 屯所長不在ノトキハ高級故參ノ下士又ハ故參上等兵ヲシテ代理セシム

憲兵服務規程

(明治三十二年一月 海軍省達第二號)

憲兵服務規程左之通定ム

憲兵服務規程

- 第一條 憲兵司令官ハ憲兵服務細則ヲ定メ海軍大臣ニ報告スヘシ
- 第二條 憲兵ハ當ニ海軍軍人軍屬ノ行爲ヲ觀察シ其ノ違式ヲ警防ス
- 憲兵ハ海軍軍人軍屬ノ違式ニ涉ル行爲ヲ認メタルトキハ其ノ願末ヲ審ニシ現役軍人及軍屬ニ在テハ本人所屬ノ艦團其ノ他各部ノ長ニ告知シ豫備役後備役ノ軍人ニシテ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ其ノ兵籍ヲ管スル鎮守府司令長官ニ報告スヘシ

第三條 憲兵司令官非常若ハ緊要ノ事件アルコトヲ知リタルトキハ速ニ海軍大臣ニ申報スヘシ

第四條 憲兵隊長若ハ憲兵分隊長非常若ハ緊要ノ事件アルコトヲ知リタルトキハ其ノ事

(18)

件ノ必要ニ依リ速ニ其ノ附近ニ在ル海軍ノ最高指揮官ニ報告スヘシ

第五條 軍港若ハ要港ニ在ル憲兵ハ其ノ地方ノ情況ヲ知悉シ且發生セル事件ハ其ノ必要

ニ依リ鎮守府司令長官若ハ要港部司令長官ニ報告スヘシ

第六條 憲兵ハ上官ノ特命アルトキ又ハ時機猶豫スヘカラサルトキハ定規ノ服裝ヲ爲サ

ズシテ執務スルコトヲ得

第七條 憲兵司令官ハ別表書式ニ依リ各憲兵隊管區内ニ於テ取扱タル現役海軍軍人及軍

屬ノ違犯事項ヲ毎月海軍大臣ニ報告スヘシ

附 則

第八條 明治二十六年九月達第九十二號ハ本達施行ノ日ヨリ廢止ス

(別表略)

憲兵職掌中行政警察事務規程

(明治十四年十月內務省達乙第五十二號)

警視廳 府縣 (東京府
ヲ除ク)

憲兵職掌中行政警察事務ノ儀別紙ノ通及達示候條爲心得此旨相達候事
(別紙)

憲 兵 本 部

行政警察ニ關スル事務別紙規程ノ通相心得執行可致此旨相達候事

行政警察事務規程

第一條 行政警察ハ人民ノ兇害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルニアリ其事務ヲ大別シテ左ノ四

項トス

一 人民ノ妨害ヲ防護スルコト

二 法章ノ遵奉ヲ視察スルコト

三 健康ヲ看護スルコト

四 國事ニ關スル犯罪ヲ未萌ニ搜索警防スルコト

第二條 行政警察事務執行ノ際司法警察事務ニ牽連スル事アリト雖モ其事務ヲ混同ス可
ラス

第三條 行政警察ノ事務ヲ執行スルニ當リ他ノ警察專務官吏ニ臨ミタルト雖モ其處分ヲ
專務官吏ニ讓ルヘシ

陸軍兵籍規則

(明治四十三年五月
陸軍省令第二號)

陸軍兵籍規則左ノ通改正ス

陸軍兵籍規則

(187)

第一條 陸軍兵籍ハ分テ第一種第二種トス

將校同相當官及准士官ノ兵籍ハ第一種兵籍トシ士官候補生、主計候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、下士兵卒諸生徒陸地測量、修技、所生徒ヲ除ク 依託學生及依託生徒ノ兵籍ハ第二種兵籍トス

第二條 第一種兵籍及第二種兵籍ニ記載スヘキ事項及其ノ様式ハ附表第一及第二ニ依ル

第三條 兵籍ノ所管ハ左ノ各號ニ依ル
一 現役將校同相當官、准士官、下士兵卒歸休兵ヲ除ク士官候補生、主計候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官及諸生徒ノ兵籍ハ所屬部隊
但シ元帥府、軍事參議院ノ陸軍武官並皇族付、統監府陸軍武官ノ兵籍ハ陸軍省人事局、平時編制第二十條ニ依リ派遣セラレタル將校ノ兵籍ハ其派遣セラレタル官衙

二 依託學生及依託生徒ノ兵籍ハ衛生部ニ在リテハ陸軍省醫務局、獸醫部ニ在テハ陸軍省軍務局

三 待命、休職、停職、豫備役、後備役及退役將官同相當官ノ兵籍ハ本籍地所管ノ師團司令部但シ寄留地師管ノ兵籍ニ轉シタルモノニ在テハ其所管師團司令部

四 待命、休職、停職、豫備役、後備役、上長官、士官、准士官、豫備役、後備役、下士兵卒及補充兵役ニアルモノ、陸軍補充條例第百五十四條第六號、第七號該當

者並歸休兵ノ兵籍ハ本籍地所管ノ聯隊區司令部警備隊區ニアリテハ警備隊、司令部又ハ警備隊區司令部以下同シ但寄留地師管ノ兵籍ニ轉シタルモノニアリテハ其所管聯隊區司令部

豫備役、後備役將校同相當官、准士官及下士兵卒ニシテ平時部隊ニ就職シタル場合ニ在リテハ其兵籍ハ前項第三號及第四號ニ依ラス常該部隊ノ所管トス

第四條 第一種兵籍ハ初メテ士官又ハ准士官ニ任セラレタルトキ前條ノ所管部隊ニ於テ之ヲ調製シ其ノ騰本ヲ順序ヲ經テ陸軍省ニ一月臺灣、韓國及清國ニアル部隊ハ二月以下同シ以内ニ差出スヘシ

第五條 第二種兵籍ハ初メテ入隊若ハ入校ノトキ又ハ採用ノトキ當該部隊ニ於テ之ヲ調製スヘシ但シ補充兵役ニアルモノ輜重輸卒ヲ除クハ初メテ召集ニ應シタルトキ、補充兵役輜重輸卒ハ其ノ役ニ就キタルトキ聯隊區司令部ニ於テ調製スルモノトス

第六條 兵籍調製ニ際シ本籍、族籍、身分關係、氏名、生年月日、妻子、父母、祖父母兄弟姉妹ニ關スル事項ハ第一種兵籍ニ在リテハ戶籍謄本、第二種兵籍ニ在リテハ戶籍抄本ニ依リ記載スルモノトス

第七條 兵籍ハ之ヲ第一種及第二種各別ニ綴リテ兵籍簿トナスヘシ

第八條 第六條ノ事項ニ異動ヲ生シタル時ハ本人ヨリ一月以内ニ兵籍所管部隊ニ届出ヘシ但シ服役ニ關スル法令ニ依リ届出ツヘキ事項ハ此ノ限ニアラス
待命、休職、停職、豫備役、後備役軍人及退役將官同相當官ニ在リテハ第六條以外ノ

兵籍記載事項(賞典、刑罰、恩給、叙位等)ニ異動ヲ生シタルトキト雖又前項ニ同シ
 前二項ノ届出ハ本人事故アルトキハ戸主又ハ家族ヨリ之ヲナスモノトス
 第一項ノ届出ニシテ養子縁組、離縁、入籍、離籍、復籍、分家及廢絶家、再興ニ係ル
 モノハ第一種兵籍ニ在テハ戸籍謄本第二種兵籍ニ在テハ戸籍抄本ヲ婚姻、離婚、相續
 氏名變更、生年月日訂正及死亡年月日等ニ係ルモノハ第一、第二兵籍トモニ戸籍抄本
 ヲ添フヘシ

第九條 兵籍所管部隊ハ兵籍記載事項ニ異動ヲ生シタル毎ニ訂正補足ヲナシ第一種兵籍

ニ在テハ其ノ事項ヲ陸軍報告令ニ依リ順序ヲ經テ陸軍省ニ一月以内ニ差出スヘシ但シ

第三條第二項該當者ノ兵籍ニ在テハ同時ニ本籍地兵籍所管部隊ニ通報スヘシ

第十條 召集中ニ關スル事項ハ召集部隊長ヨリ兵籍所管部隊ニ通報スヘシ

第十一條 轉職、轉役、轉籍等ニ依リ兵籍ノ所管ヲ變更スルトキハ舊所管部隊ハ兵籍ノ
 訂正補足ヲナシ直ニ新所管部隊ニ送ルヘシ又必要アルトキハ新所管部隊ヨリ速ニ其旨
 ヲ關連部隊ニ通報スヘシ

第十二條 兵役免除若ハ退役トナリタルモノ國民兵役ニ入りタルモノ、官ヲ免セラレ兵
 役ニアラサルモノ又死亡シタルモノノ兵籍ハ之ヲ兵籍簿ヨリ除キ種類ヲ分チ別冊トナ
 シ三年間本籍地所管聯隊區司令部ニ於テ保存スヘシ但恩給ヲ受クヘキモノノ兵籍ハ本
 人ノ死亡後其寡婦ニ兵籍寫ヲ下渡ニ至ル迄保存スヘシ

退役若ハ免官トナリ又ハ死亡シタル將官同相當官ノ兵籍ハ前項ニ依ラス兵籍簿ヨリ除
 キ師團司令部ニ於テ之ヲ保存スヘシ

各部隊ハ前二項ニ掲クル兵籍アルトキハ直ニ之ヲ保管司令部ニ送付スヘシ

第十三條 戰時又ハ事變ノ際召集セラレタル國民兵役者ノ兵籍ハ補充兵役ニアリタルモ
 ノノ例ニ依リ調製シ召集解除後ハ前條ニ準シ取扱フモノトス

第十四條 樺太守備步兵中隊、清國駐屯步兵隊、本部ヲ及臨時韓國派遣隊、司令部及聯隊ニ
屬スル下士兵卒ノ兵籍ハ現部隊ノ所管トシ兵籍記載事項ノ異動ハ本人ヨリ所屬部隊長ニ
届出テ所屬部隊長ハ之ヲ兵籍所管ノ部隊長ニ通報スヘシ

(樣式略)

明治四十五年二月一日印刷
明治四十五年二月五日發行

現行法令全書

總皮製定價金壹圓五十錢
洋布製定價金壹圓

編纂者

鍾美堂編輯部

發行者

大阪市南區安堂寺橋通三丁目五十七番地
中村由松

發行兼印刷者

大阪市南區安堂寺橋通三丁目八十五番屋敷
中村寅吉

發行者

東京市日本橋區本銀町三丁目二番地
福岡元治郎

印刷所

大阪市南區難波新川三丁目六百六十一番地
合資會社 精美堂

不許複製

大阪南區安堂寺橋通三丁目(振替口座大阪四五七番)

發行所 鍾美堂

東京市日本橋區本銀町三丁目(振替口座東京四八二〇番)

266

846